ライフスタイルデザインカレッジ208

NPO法人スローライフ掛川

ライフスタイルデザインカレッジ208

目次

2008・05・31（土）　カヤック体験会レポート(5/24開催) …… 1
2008・06・12（木）　６／８（日）カヤッキング直前講座「大井川下り」 …… 5
2008・06・23（月）　カヤックＣＭ …… 11
2008・07・07（月）　７／６ 長島ダム・ミステリーツアー報告 …… 11
2008・10・09（木）　沼津一泊カヤックツアー報告 …… 17
2008・11・11（火）　11／9 カヤック気多川下り …… 23
2009・04・28（火）　４／１９カヤッキング「春の気田川」 【報告】 …… 26
2008・07・07（月）　第１回ﾌﾗｲﾌｨｯｼﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、ｽﾀｰﾄ！ …… 28
2008・09・19（金）　第２回F.Fプログラム　ドライフライで最初の１匹を！ …… 34
第３回F.Fプログラム 大井川源流ツアー（前半） …… 39
2008・09・24（水）　第３回F.Fプログラム 大井川源流ツアー（後半） …… 43
2008・10・17（金）　第４回F.Fﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｱﾏｺﾞ産卵ｳｫｯﾁﾝｸﾞﾂｱｰin遠山川 …… 47
2008・12・25（木）　第５回F.Fﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 紅葉の山上湖「段戸湖」へ！ …… 53
2008・12・27（土）　F.Fチームの忘年会は！？ …… 57
2009・02・20（金）　第６回F.Fプログラム「みっちりとフライタイイング！」報告 …… 60
2009・03・15（日）　第７回F.Fプログラム「解禁！早春の渓へ初釣行」報告 …… 69

2008・06・22（日）　6/22 サイクリング体験会 …… 72
2008・08・06（水）　サイクリング講座『自転車に乗ろう』 …… 74
2008・08・16（土）　サイクリング講座『メンテナンス講座』
…… 78
2008・09・22（月）　9/21 サイクリング講座『フィッティング』
…… 82
2008・11・13（木）　10/26 ずらっと掛川サイクリング …… 86
2009・01・10（土）　第５回　サイクリング講座の報告　（12/14）
…… 93
2009・02・21（土）　第６回　サイクリング『天浜線に自転車を乗
せて』報告 …… 96
2009・05・01（金）　ナイトサイクリング「星を見に行こう」　4/
19 …… 102
2009・05・13（水）　JR輪行サイクリング「電車に自転車を乗せ
て」　5/10 …… 106
2008・08・04（月）　第１回トレッキングの様子 …… 112
2008・10・20（月）　第２回トレッキング「日向山」の様子
…… 118
2009・02・10（火）　第３回熊伏山の報告 …… 125
2009・05・07（木）　トレッキング第４回「明神山」の様子
…… 130
2009・05・27（水）　第５回トレッキング「沢口山」の報告
…… 136
2009・06・02（火）　第６回トレッキング「真富士山」の報告
…… 142
2009・06・05（金）　第７回トレッキング「藤原岳」の報告
…… 148

第８回トレッキング「茅ヶ岳」の報告 …… 153
2009・06・30（火） 最終回「乾徳山」の報告 …… 160
2008・07・18（金） 第１回喫茶と器学の報告～作陶・成形 …… 172
第２回喫茶と器学の報告～作陶・削り …… 175
2008・10・04（土） 第３回喫茶と器学の報告（9/20） …… 177
2008・11・05（水） 第４回喫茶と器学の報告(10/19) …… 180
2009・03・11（水） 第５回・第６回　珈琲講座 …… 184
2009・03・18（水） 第７回「すろ～なお茶会」 …… 187
2008・06・09（月） オーガニック・ファーミング体験会の報告(6／7開催) …… 190
2008・07・28（月） 第1回オーガニック・ファーミング講座の報告(7／19開催) …… 196
2008・07・29（火） 第1回オーガニック　おまけ …… 204
2008・09・20（土） 台風一過，「風と土の谷農園」の9月20日午前中の畑の様子 …… 205
2008・09・21（日） 第2回オーガニック・ファーミング講座の写真レポ(9／8開催) …… 207
2008・10・14（火） 第3回オーガニック・ファーミング講座の報告(9／27開催) …… 217
2008・12・31（水） 第6回オーガニック・ファーミング講座の報告(12／27開催) …… 223
2009・01・24（土） オーガニック特別編　～大根様報告～ …… 230
2009・06・02（火） 第10回オーガニック・ファーミング講座 最

終回の報告(5／30開催) …… 233
2008・08・13（水） ダッチオーブン第1回講座を行いました。 …… 240
第2回講座を開催しました …… 243
2008・10・25（土） 第3回『パンを焼く』開催しました …… 248
2008・11・01（土） 第4回講座「フライドチキン＆ローストオニオン」！ …… 252
2008・11・09（日） 第5回『ハンバーグ・デミグラスソース』 …… 257
2009・02・25（水） 第6回『スパニッシュオムレツ＆スープ』 …… 262
2009・03・25（水） 第7回講座『豚の角煮』を開催しました …… 266
2009・04・14（火） 第8回『鮎飯＆豚汁』を開催しました。 …… 274
2008・06・18（水） 6/15 ネイチャーフォト体験会報告 …… 282
2008・07・24（木） 7/20（日）第1回ネイチャーフォト『海を撮る』報告 …… 287
2008・09・02（火） 8/30　第2回ネイチャーフォト『 みのりと町並みを撮る 』報告 …… 292
2008・09・30（火） 9/20 第3回ネイチャーフォト『里山を撮る＆レタッチを学ぼう』報告 …… 300
2008・11・17（月） 11/9 第4回ネイチャーフォト 秋の遠足？報告 …… 305
2008・12・15（月） 第5回ネイチャーフォト「モコモコ＆小笠山トレッキング」報告 …… 310
2009・01・19（月） 第6回ネイチャーフォト「花鳥園・動くもの

を撮る」報告 …… 316
2009・03・30（月）　第７回ネイチャーフォト「原泉の春を撮る！」報告 …… 323
2009・05・14（木）　第8回ネイチャーフォト「浮世絵鑑賞と新緑の茶畑を撮る！」 …… 329
2009・06・24（水）　第9回ネイチャーフォト「最終回－川を旅する－」報告 …… 335
2009・06・26（金）　2008年度ネイチャーフォト受講生の作品集＆講師のひとこと …… 338
2008・11・21（金）　11/15 『Ｎｉｐｐｏｎの芸』 報告 …… 348
2009・01・08（木）　12/23 『Ｎｉｐｐｏｎの食』報告 …… 352
2009・01・29（木）　1/25『Ｎｉｐｐｏｎの画』報告 …… 361
2009・02・13（金）　2/8『Ｎｉｐｐｏｎの酒』報告 …… 369
2009・04・25（土）　3/22 「Ｎｉｐｐｏｎの語」報告 …… 376
2008・07・12（土）　第１回ハーフデイトリップ『川を旅する』報告 …… 382
2008・09・18（木）　第2回ハーフデイトリップ「石が旅する」報告 …… 387
2008・11・21（金）　11/1 ﾊｰﾌﾃﾞｲﾄﾘｯﾌﾟ 『星』 報告 …… 392
2009・02・16（月）　2/14「鳥と旅する２月」報告 …… 397
2009・05・13（水）　５／９ハーフデイトリップ（樹）の報告 …… 404
2008・07・09（水）　公開フォーラム　山村レイコさん『自然回帰型生活びとのゆったり暮らし』報告 …… 410
2008・08・01（金）　第１回セッション"里山の自然観察＆森林インストラクション"報告 …… 413
2008・09・13（土）　第２回セッション"～田圃からお茶碗まで～

"報告 …… 415
2008・10・25（土）　第3回セッション　～里山の中での空間づくり～ 報告 …… 417
2009・04・04（土）　フェスティバルは大盛況 …… 420

2008・05・31（土）

カヤック体験会レポート(5/24開催)

3年目を迎える「カヤッキング講座」開講を前に、受講希望者を対象とした体験会を、去る5月24日(土)午後、掛川市大池の二つ池調整池において開催。男性4名、女性3名の計7名がカヤックに初乗艇。

講師の上野裕晃（タパ）さん、古川和司（フル）さんから、実艇を前に用具や注意事項の説明を受けた後、参加者はライフジャケットを着用、パドルを手にした。パドル捌きはカヤック

操作を大きく左右する。まずは基本を身に付けようとみんな真顔。でも、すぐにコツを得たようで、講師もニコニコ（教え方がいい？、いや、優等生ぞろい）「それじゃ実際に乗ってみよう〜」と早速、池に向かった。

水に浮かぶ不安定な艇に乗り込むときは、ちょっと不安そうな表情を見せていたが、右、左、右とパドルを数回操るうちに、すぐに笑顔へと変わった。

「おもしろい〜」
「気持ちいい〜」

「なかなか真っ直ぐ進まんけど、どっなってるだ？」

今回は、直進安定に優れた『ファンカヤック』と、機敏な動きができる『リバーカヤック』を用意。２班に分かれてどちらも体験してもらった。
実際の川下りでは、基本的にリバーカヤックを使い、自然の変化に対応する技術を身に付けていただく。上手く乗れるようになるとめちゃ楽い。

今回の会場は決して広い池ではなかったが、参加者は見事なパドル捌きですいすいと漕ぎ回る。側道を走る車から「私もやっ

てみたい～」なんて声が聞こえてきたそうな。
講師も「今年の参加者はかなりいける！」と思ったのか、予定時間を超過していつの間にか熱い指導会へと変わっていた。
しかし残念なことに雨足が強まり、気温も下がってきたため陸に上がった。
3時間の体験会、お疲れ様でした。

2008カヤッキングコースは、６月８日(日)スタート。一回目は大井川に出向き、川下り（ショートコース）を楽しんでいただきます。
なお、体験会に参加できなかった方でも本講座への参加はもちろんＯＫです。
本編では改めてカヤックの基本操作方法、対処方法などを一緒に学びながら、清き水の流れに身を任せ、自然の雄大さと未知のスポーツ・カヤックを体感しようじゃあーりませんか。
大人の川遊びも面白いでよ～※カヤックに乗る機会は殆どないと思われ、ぜひ本講座で自分の可能性に挑戦してみてください。基本操作をみっちり身に付け、危険を回避します。
ちょっとお茶目なベテラン講師と美人スタッフがお待ちしております。

2008・06・12（木）

６／８（日）カヤッキング直前講座「大井川下り」

カヤッキング講座は引き続き、受講者大募集！

去る６月８日（日）、本年度受講者の方々と大井川下りに出掛けた。
当日は朝からあいにくの雨模様だったが、朝７時半、待ち合わせ場所の掛川市役所を出発し、島田経由で大井川を北上するうちに小雨となり、出発地点の千頭（本川根町）に到着する頃には雨もあがった。
今回は、Ｋ野さん、Ｓ木さんとスタッフ２人の計４人が掛川から参加。
講師のタパさん、フルちん、それに３名の先輩カヤッカーがサポートとまさに「大名扱い」の初下りとなった。

現地にて乗艇準備を整え、体験会のおさらいと川下りの注意事

項を講師からレクチャーを受け、午前11時すぎに出発となった。
普段であれば水が澄み、岩肌が水面から覗く光景とは異なり、当日は上流のダムが放水中のため水量が多く、灰色に濁った大井川。
「この流れだと予定より早くゴールしそうだ」とタパさんがつぶやく。
ヘルメット、ライフジャケットを身につけ、安定の良いファンカヤックに乗り込んだ。前回（5/24体験会）の池とは明らかに異なる条件。

最初は流れに慣れようと、川上に向かって漕いでみた。流れに対して艇を操ってみる。うん、うまいうまい。流れの影響を受けないエディの見つけ方、瀬の抜け方など実践対処法を教わる。
川は右へ左へと蛇行している。浅瀬もあるためコース取りが難しい。
みんなカルガモの如くタパさんのあとに続く。先に波立つ瀬が現れた。
水しぶきを受けながら、最高の気分で下っていく。思わず「やっほー」と叫んでしまう。これは川下りをした人にしかわからない感動だ。

大井川には幾つかの橋が跨っている。大型バスが通る橋、ゴトゴトと音を立てて列車が走る鉄橋、一歩一歩慎重な足取りで人びとが行き交うつり橋。頭上を行き交う車や汽車、人に手を振る。みんな羨ましそうにこちらを見ている。うーん、優越感！

一時間ほど進んだところでランチタイム。中州でおにぎりをいただく。
運動するとお腹が空く。緑に囲まれて、水音を聞きながらのランチはいつもながら最高。この頃になると緊張もほぐれてみんな笑顔。

今日の大井川は水量が多いせいか、周りの岩に当たった水が跳ね返り不規則な波を立てていた。ランチ前にはスタッフＡ山が「沈」の見本を披露していた。しばし沈脱しなかったため心配したが、本人曰く、水中の景色を楽しんでいたとか。
そんな不安定な流れを突き進むと、瀬が続く向こうに90度のカーブが見えた。正面には大きな岩。ここは慎重に抜けないと、と思っていたらＫ野さんのファンカヤックが沈。どうやら跳ね返りの波に乗ったらしい。
スムーズに沈脱し、事なきを得る。

ゴールに近づいたところころ、ボーーッと大きな汽笛が聞こえた。
大井川鉄道名物・ＳＬがようやく我々に追いついてきた。
山間の緑に包まれた大井川を下る本日の旅もゴールとなった。
参加者は数時間だが自然に身を投じた感動と完走した達成感とですてきな笑顔。
自転車に乗り慣れたＳ木さん、Ｋ野さん、絶妙なバランス感覚があったからこそ、初川下りでも増水した大井川を完走できたのかも。
今後はハドル捌きをマスターし、プレイボートに乗ると、もっともっとカヤックに魅せられること間違いなし。
最後はみんなで記念撮影して、お疲れ様でした！

【お知らせ】
カヤッキング講座は、開講日程を変更しました。
７月６日（日）に第１回講座を開催します。
大井川上流の長島ダム湖・ミステリーツアーを敢行します。
カヤックでしか行かれない場所へ誘います。2007 ブログ参照

http://ldc2007.seesaa.net/article/45216318.html
静岡県内の川、海、湖をカヤックで楽しく巡ります。
みなさんのご参加をお待ちしております

ｂｙねぼすけ

2008・06・23（月）

カヤックＣＭ

６／１４（土）のオリエンテーションでご紹介しました、
カヤッキング講座のコマーシャルをアップしました。
当日ご覧いただいた方、また見逃しちゃった方、
ごゆっくりご覧下さい。

http://jp.youtube.com/watch?v=IAVpDPCOYMc

ｂｙねぼすけ

2008・07・07（月）

７／６ 長島ダム・ミステリーツアー報告

毎年大好評の大井川上流・長島ダム湖のミステリーツアーを去る７月６日（日）に実施した。
朝８時に５名で掛川市を出発、往路車中では昨年の参加者がミステリーツアーの思い出話などで盛り上がる。
去年は湖上から野生の鹿を見付けた参加者もいた。
カヤッキング講座で長島ダムを訪れるのは今回で３回目だが、

毎年この時期に訪れている。その時の天候、貯水量、気候等でダムの様相も異なる。今年は一体どうなっただろう・・・

午前９時４０分、予定より早く井川線・長島ダム駅に到着。
ほどなく本日の一行１４名が顔を揃えた。講師のタパさん、フルちん、サポーターＦさん、それに沼津からシーカヤック隊が加わりミステリーツアーがスタートした。

長島ダムは掛川市民の水がめである。大井川上流の川根本町に位置し、２００１年に完成した治水ダム。２００３年静岡国体ではボート競技場として利用された経緯もあり、環境は最適。
ダム建設に伴い、かつての集落や森林の一部が水没した。
大井川鉄道の経路も変更となったが、当時の線路やトンネルがそのまま残るところもある。いまでは行けなくなった場所をカヤックで辿る。それが今回のツアーの最大の魅力だ。

この日、ねぼすけの新艇を披露。安全祈願の進水式（？）を済

ませ一行はダム湖に艇を浮かばせた。
前回の大井川下りと違い、ほとんど流れがないためパドルで漕がない限り前進しない。ダム湖は艇を真っ直ぐ進めるためのストローク練習にもってこいである。梅雨空の合間から時折日差しも注がれ、風もなく絶好のカヤック日和となった。

ダムを北上し最初にたどり着いたのは旧井川線のトンネル。
浸水しているためカヤックに乗ったままトンネル内に入れる。
真っ暗闇で我々を出迎えてくれたのは無数のコウモリだった。
熱烈歓迎を受けたカヤッカーとコウモリが慌てて外に飛び出す。
「吸血コウモリのお陰で、カラダが軽くなったよ〜」って・・・

先に進むと通称（赤いのになぜか）レインボーブリッジが出現。
井川線を走るアプト式列車をバッグに、一列に並んで記念

撮影。
列車に向かって大きく手を振ると乗客が応えてくれた。

少し進んだところで艇を係留しランチタイム。５分間足らずのトレッキング（湖面から山道を登る）を終えると駅に到着した。
ここ「湖上駅」は橋の中間に位置しており、湖上を渡る橋の中間に設けられている。隣接するコテージで昼休み。
コンビニで見付けたすいかキャンディの話題で盛り上がる女性陣、駅ホーム付近でいたずらする男性陣、やがて上り列車が到着した。
真っ赤な車両には大勢の観光客が乗っていた。短パン、Ｔシャツ姿の一行を不思議そうに見ている。そりゃそーだ、カヤックでこの駅にたどり着いたとは想像もつかないだろう。
列車を見送り我々もカヤックを進めることにした。

ダム湖にはいつもの小川が注ぎ込む。周りの山から流れてくる。

それはとても冷たく、澄んだ水。口に含むとやわらかく甘い。

昨年も訪れた沢を目指しさらに北上した。湖面から立ち枯れた木が立ち並ぶ何とも言えぬ光景が印象的だったが、見当たらない。

近づいてみるとすべて切り倒されており、切り株がちょこんと水面から覗かれた。倒木、流木を防ぐための措置だろうが、あの神秘的な光景、水没した森の姿が見られないのはとても残念だ。

しかし沢に着いた途端、カヤッカーたちは水溜りを探し始めた。
カヤッキング講座の恒例儀式「飛び込み」を行うためだ。
大きな岩からド冷たい水に飛び込むと大きな水しぶきがあがる。
我先と飛び込む順番を待つ。蒸し暑いこの日には最高の涼だ。
カヤックだから行き着いた場所で、自然に身を投じるこの感動がこの講座の魅力だろう。

しばし水遊びに興じた大人たちは艇に戻り、ゴールを目指した。
今年の梅雨は何度も豪雨に見舞われている。一昨日も未明に大雨が降った。ダム湖の周りの山には土砂崩れの跡だろう木々が無く山肌がむき出しとなった箇所がいくつも見られた。人口湖の上で自然の猛威を知らされる旅でもあった。
ゴールした途端、雷鳴が轟いた。やがて大粒の雨が降り出した。
濡れて疲れたカラダを接阻峡温泉で癒して帰路に着いた。

カヤッキング講座は毎回、参加者を募集します。
カヤックに乗ってみたい、水の目線で自然体験してみたい、そう思われた方、迷わず当講座にご参加下さい。

2008・10・09（木）

沼津一泊カヤックツアー報告

行楽の秋、食欲の秋、そして運動の秋
１０月のカヤッキング講座は、講師・タパさんの地元「沼津」を巡る一泊ツアーを敢行した。黄門様、助さん、格さん、お銀さん一行は、講師泣かせの単独行動と食欲で、思い出の一ページをつづった。

１日目／１０月４日（土）
午前１０時３０分、沼津市西浦の喫茶店「海のステージ」に集合し、海編講師・村瀬（ムラ）さんと初対面。自己紹介を済ませると早速、「ちょっと乗ってみますか～」と喫茶店裏手の海へと向かった。
近くには三津シーパラダイス、淡島マリンパークなど観光施設があり、かつてはスカンジナビア号が停泊していた西浦湾。富士山や愛鷹山がのぞめる最高のロケーション。それだけで気分もワクワクしちゃう。

ムラさんが「天気もいいし、まずは水に浸かりましょう」と季節はずれの海水浴を勧められ、ちょいと戸惑いながらも海に入ると気持ちいい。
ライフジャケットを着用しているため、プカプカと海に浮かぶ。
西浦名物みかん狩り一行は、水族館からトドやアシカが逃げ出した？
なんて不思議そうな顔して見てたとか・・・

この日は「シット・オン・トップ」というポリエチレン製の二人乗り艇が用意されていた。いつものカヤックと異なり、艇に乗り込むというより板の上に乗るといった感じ。じゃんけんで組み分けし乗り込んだ。
思った以上に安定感もある。
海はもちろんのこと、二人乗り艇初体験の黄門様ご一行。でも自転車で鍛えた肉体とリズム感を駆使（？）して上手にパドルを漕ぎ出す。

「いや〜、海の上って気持ちいい〜」なんて言いながら、立ち上がり曲芸を披露する面々。負けず嫌いの性分が早くも見え隠れ。
ムラさんが「こっちこっち」と行ってみると、岩場には青いきれいな魚たちが群れをなしていた。こんなステキな海に来たんだ、と感動。
でも二言目には「これって食べれるの？」と問いかける助さん・・・

「そろそろランチにしましょうか」と聞こえた途端、艇は全速前進。
「負けてなるものか」とお銀さん。先月のカヤック運動会リレー競技のリベンジとばかりに二艇によるレースが始まった。
ムラさん・・・

ランチは海のステージでいただいた。一行はＨＰでチェックしていた料理を注文。ちなみに私は「オレ・ラン・バーグ」をオーダー。屋外テラスでいただいたが、味もボリュームも大満足！ オーナーの前島夫妻の笑顔と気遣いが隠しスパイスでしょうね。

午後は港を出て海岸づたいにコースを取った。穏やかな港内と異なり波立つ海面。沖には釣り船が浮かぶ。あの助さんもおとなしくなる。
左手には断崖絶壁の海岸線が、右には太平洋が広がる。ざぶんざぶんと波間をぬって進むにつれて辺りを見回す余裕も出てきた。これまで味わったことのない感動が私たちに押し寄せてい

た。こんなにも海が広いと感じたことはなかった。秋の日差しが海面にキラキラと輝く。
気分よく漕いでいたらいつしか隣の集落（久連）にたどり着いていた。
小さな砂浜に漂着し小休止。聞けば、今宵の宿はすぐ近くだとか。

小島を回り、起点の木負港へ戻ることにした。なぜか漕ぐスピードが早まってきた。レース再開？と測したムラさんが「ペア交代」を提案。
お銀さんと格さんが海上で互いに艇を乗り移ることに。至難の業だ。
黄門様の期待のまなざしに応えるが如く格さんがもう一艇に飛び移る。
ざぶん！ 水しぶきとともに姿が消えた・・・

初日は黄門様二連勝。景色や自然観察を楽しみつつ、移動時間を最短にした結果、艇から降りるときには足がガクガク状態の一行。
ムラさんに「次回はシーカヤックで松崎に出かけましょう」と誘われた。海のカヤックを一日満喫、次のステージがまた楽しみだ。

今宵の宿は、西浦久連の民宿ますや。「伊勢えびフェア」開催中だと言われたら行くっきゃない！ 海岸近くの静かな集落にご夫婦で営む宿があった。部屋は数部屋あるが幸い貸切状態でのびのび快適。

午後６時、夕食時間となり一階に降りると、なんと立派な金目鯛の煮付け、お刺身盛り合わせ、それに伊勢えびの焼き物が並んでいた。
こんなに出るのと思ったら「伊勢えびのお刺身を出しますからね」と女将さん。黄門様の伊勢えびは身を落とされながらも後ずさりして逃げ出そうとする活きのよさ。早速いただくと「めちゃくちゃ甘い」この美味しさ、民宿ますやに泊まった人にしかわかりません。
ちなみに伊勢えびフェアは１０月末まで。それ以外の期間は、真鯛のしゃぶしゃぶ、鯛めしがメインとなるそうだ。
午後８時過ぎ、タパさんが宿に到着し、芋焼酎で乾杯！
海の幸がこんなにもいただけて一泊二食９千円でお釣りがくるなんて信じらんない。タパさん紹介の絶品宿だった。

二日目／１０月５日（日）
朝の散歩（助さんは大瀬崎までサイクリング）、伊勢えびの味噌汁付
朝食をいただき民宿ますやを後にした。

この日のステージはタパさんの本拠地・狩野川。伊豆の国市・さくら公園から清水町までの約１０ｋｍの川下り。一人乗りファンカヤックにランチ食材を積み込み、午前１１時過ぎ、親子のアヒルに見送られ下り始めるとすぐにカワセミが現れた。前日のコバルトスズメといい今回のツアーは青い生き物たちが行く先々で出迎えてくれる。

しばし進むと中州に艇を止め、飛び込み＆川流れが始まった。

水温は決して高くはないが、黄門様一行はこの日も遊び心いっぱい。我先にと狩野川に飛び込む。負けず嫌いの性分がここでも見え隠れする。
なんと元気なおじさま、いや黄門様だこと・・・

艇を下流に進めると、護岸堤防にいろんなごみが引っ掛かっていた。
われわれの目線から２m以上の高い所に。増水時にはあんな高さまで水嵩があるのかと驚かされる。江戸時代に築かれたという石積み堤防、流れ込む支流がいくつも数えられる。
今年は狩野川台風から５０年。甚大な被害をもたらした暴れ川を我々は川下りしている。自然を維持しつつ、生活を守る工夫と技術に感動。

そんなことを思いながら下流を目指しているとお腹も空いてきた。
ランチはタパさん特製タコスと豆腐スープ。時折小雨がぱらつく曇り日に温かいスープがありがたい。カヤックに積み込んだコンロ、食器、食材をおろすと手際よくトルティーヤを焼き上げるタパさん。好みの具材を包み込み大きな口でパクっ。「うまい～～～」と３枚、４枚、ぺろりといただいてしまった。この二日間、動いて、食べての連続。
最高のロケーションと料理、そしてカヤックの魅力を満喫した。

昼食後もカワセミを追いかけ艇を進めると、川岸に鹿の足跡を発見。

近くの山から川を渡って来たものと思われる。こんなところに野生の鹿が現れるなんてとまたまた驚かされた。次は一緒にランチでもどう？
大場川と合流する付近から堤防の様子、水の色や匂いも変わってきた。
やがてゴールの清水町に到着し、二日間のツアーを無事終えた。

カヤックに乗ってからこそ出掛けられる場所、見られる風景、そして感動。今回は二日間にわたりたっぷりと時間をかけてカヤックに乗れたことの収穫は大きい。仲間との交流、美味しい食事も加わり、次の目標を持てた旅に感謝。お疲れ様でした

2008・11・11（火）

11／9 カヤック気多川下り

１１月のカヤッキング講座は、浜松市天竜区春野の気多川を舞台に開催した。
朝晩はめっきり冷え込む季節となり、今年最後の川下りとなった
この日は朝から曇り空。秋葉神社下社付近の温度計は１０℃を示し車中からそれを見た黄門様ご一行は、この日最初のブルっ！

午前９時３０分過ぎ、本日の川下りメンバーが現地に揃い、川下りの準備に取り掛かった。講師のタパさん、フルちん、そしてポール恭子さん、東海大学海洋学部メンバー４名が加わり１

１艇で出走。
掛川から参加の黄門様、助さん、ニューお銀さん（初参加）は、入念な準備体操とパドル練習を繰り返し行い、これから訪れる大自然との戦いに備えていた。それにしても涼しい。本日二度目のブルッ！

紅葉が見え始めた春野の山間はとても美しく、それを楽しみにこの時期、気多川を訪れるカヤッカーも多い。釣人も目立たなくなった。
川幅が狭く、鋭角に曲がる瀬も多い。水量も少なめとあって、慎重なコース取りが要求される。
午前１１時に秋葉神社キャンプ場を出発、黄門様ご一行はタパさんに続いた。水が澄んでいて気持ちいい。手を入れて水温を確かめると確かに冷たい。格さん思わずブルッ！（今日は絶対にチンできない）

「次の右カーブは、正面に大きな岩がありますから気をつけて〜」
タパさんに続いて瀬に向った青いファンカヤック２艇が右に曲がったかと思った瞬間、船底が見えた。ざぶ〜ん、どぼ〜ん
黄門様、助さんが次々と川に放り出された。それを見ていたお銀さん思わずブルッ！

中瀬でしばし休憩を取る。相変わらず曇り空。それどころか、今にも降り出しそうな寒空の下、なぜか川で泳ぐ助さん。おいおい…
やがてぽつぽつと雨が落ち始め、昼飯場所を探してさらに川を

下る。
この間も助さんの遊泳はさらに続いた。ウエットスーツを着用しているからとはいえ、１１月の川の冷たさはカラダに応えるはずだ。

雨をしのげる橋の下は先客がいた（焚火で暖を取っていた）ため、次の瀬で昼休みとなった。みんなで枝を集め火を付けてみたが不発。
タパさんが入れてくれた温かいコーヒーで冷えたカラダを暖める。
「ふ〜っ、生き返る〜〜」この日初めて、格さんはホッとした。

雨が本格的に降り出してきた。度重なる急カーブ、気温の低下に心身ともに緊張の連続。しかし、山間の木々が赤く色づき始めた光景は我々に感動を与えてくれた。水の音、木魂する声、透き通った空気、川面に浮かぶカヤッカーの特権を堪能した一日であった。

午後３時過ぎにゴール。みんなの完走と無事を祝って記念撮影。
カヤッキング講座は、来春までお預けとなる。冬場はトレーニングを兼ねて乗鞍へスノーシューに出掛ける計画も持ち上がっている。
黄門様ご一行の旅はさらに続く！

スタッフ・ねぼすけのプチ自慢／
いつもファンカヤックで受講生を追いかけていた、チキン・山

ピーがなんと、この日リバーカヤックで完走しました！ しかもチン０回。
昨年の大井川下りで懲りて以来、ファンカヤック一筋できましたが、クルクル回るプレイボートに興味を持ってしまいました。
数ヶ月前購入したオレンジのファンカヤックを格安でお譲りします。
ご希望の方は、ねぼすけまでご連絡下さい

2009・04・28（火）

４／１９カヤッキング「春の気田川」 【報告】

赤石山脈に源を発し、天竜川に流れ込む気田川。川の規模こそ大きくはないものの、屈指の透明度と景観の良さで、“カヤックのメッカ”と評されるステキな川が、掛川から車で一時間ほどで出かけられる。

昨年11月にも参加者を募り、紅葉が始まった気田川ツアーを敢行したが、今回は新緑がまぶしい春野の木々を眺めながらの川下りとなった。
カレッジ参加者４名、スタッフ、講師、神奈川県からはるばる参加の気田川ファンら１０数名で、今年最初のカヤッキング講座を開催した。

午前９時半、集合場所の秋葉神社キャンプ場に出向くと、講師のタパさん、古川さんらが出迎えてくれた。前夜に到着し、車中泊だった。

ほどなく参加者全員が揃い、出発準備を整えて午前１１時過ぎ、気田川に艇を浮かべた。
カレッジ参加者は久しぶりにカヤックに乗ったため、しばしパドル捌きを繰り返し水に慣れたところでスタートした。
天気は快晴、２０度を超える絶好のカヤック日和だが、春の清流はまだ冷たい。川に飛び込み、水遊びを楽しむ季節はもう少し先のようだ。

緑々と茂る春野の山の姿が、清流の水面に写る。うぐいすの鳴き声も耳に優しく届く。八重桜が咲き、また藤の花が咲き始めていた。
水量によってルートも変わり、いつ来ても新鮮。だから面白い。

右に、左に、川がカーブする。参加者は先頭を行くタパさんのルートを辿り、慎重に艇を進めていた。昼近くになり気温は上昇、汗ばみ始めたところで、瀬を越えると目前に大きな右カーブが現れた。
「レスキューー」　青いファンカヤック２艇に人影がない。
暑さに耐えかねたのか、女性二人がライフジャケットの力を泳いでいた。
頼りになる講師＋スタッフがやさしく手助けし、岸にあがって休憩。

本日のランチは、川辺でいただくこととした。各自用意したおにぎりを食べ終えると、デザートのキウイが配られた。
「うまい！」　参加者同士の会話もはずみ、沖縄シーカヤック

・ツアーの企画も持ち上がってきた。６月には富士山静岡空港が開港し、南国・沖縄もぐっと近づくことだし。

昼食後も、春の日差しが川面にキラキラと光るなか、１０数艇の一団は気田川をスイスイと下り、午後２時過ぎにゴールした。
その後は春野の公営風呂に浸かろうと出かけるも、残念ながら定休日。
通りの看板につられて道の駅で「生どら焼き」をいただき、森町の風呂に立ち寄り帰路に着いた。お疲れ様でした。
５月にも川下り計画中。乞うご期待！

2008・07・07（月）

第１回ﾌﾗｲﾌｨｯｼﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、ｽﾀｰﾄ！

報告が少し遅れましたが、フライフィッシングのプログラムがカレッジの先陣を切って始まっています。

受講者の８名は、体験会にも参加して下さった川添さん・藤原さん・湯川さんと、新たに受講される岡田さん・鈴木さん・野崎さん・廣岡さん、後藤さんです。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

講師は、神奈川相模原市在住の川野信之（かわののぶゆき）先生に継続して頂きます。サポートコーチは、昨年受講生だった佐藤隆彦さんが加わり、達橋さん・樽松さん・酒井さん。スタッフは佐藤・高橋・山中・長谷川です。

第1回目となった6月15日（日）、朝8：00に市役所駐車場に集合し、メンバー紹介をした後、場所をアクティー森の隣の吉川に移し、基礎レクチャーと基礎レッスンを行ないました。

紀元前マケドニアにて毛鉤漁から始まった歴史、道具の変遷、和式毛鉤（テンカラ）との違いなどが語られ、釣れるまでの仕組み、道具、格好、‘キャッチアンドリリース’など、フライフィッシングの基礎や用語のレクチャーをしました。

　－－－西洋毛鉤（フラフィッシング）は、水生昆虫の羽化を如何に真似て魚を騙すか。水面も見ていると、その時の魚の好みが分かります。ガバッときたら羽化の終わった動く虫を食べているし、静かにパクッなら流れてきた水生昆虫を食べている。釣り上げたいと思ったら、川の状態や水生昆虫の生態なども知りたくなる。こうして自然との関わり方が深いのがフライフィッシングの面白さでしょうね。
特に、この辺りにしかいない天然のアマゴは、横に赤い斑点のある本当にキレイな魚です。来年の５月までに皆さんにはぜひこれを釣り上げていただきたい。－－－ と先生はおっしゃい

ます。　次は川に下りて、キャスティングレッスンをしました。

フライを遠くに飛ばすには、肩を中心にロッドをチクタクチクタクと小さく動かし、上空にラインで大きなループを作るのがポイントです。マンツーマンのレッスンが続き、初心者も経験者もかなり上達出来たようです。キャスティングには流れや周辺の状況によっていろんなアレンジがあり、先生がデモストを見せました。フライが木の枝に引っかかるハプニングもしっかり教材になりました。

そろそろお腹が空いてきたところで、アクティ森の食堂で地域のおばちゃん達の作るお弁当（600円）を食べました。・・・ライスコロッケがなかなか好評で！

昼食後はタイイングレッスンで、基本のフライをそれぞれ1つづつ作り、初回の講座は終了しました。

次回は7/13（日）すそのフィッシングパークでの実釣プログラムです。50cmオーバーのレインボーをガシッと釣りましょう。事前にタイイングレッスン希望の方は前日に時間をと

りたいと思います。

コメント

川野信之

皆さん、写真でもわかるように緑が綺麗だったね。

自然のいい空気の中で過ごすのは気持ちがいいでしょう。

今年の生徒さんはスジがいいので、スクールが終わる頃にはアマゴが釣れるかもしれないよ。

みなさん、がんばって！

e-Jan掛川の狂四郎日記も見てね。

http://e-jan.kakegawa-net.jp/

2008・09・19（金）

第2回F.Fプログラム　ドライフライで最初の1匹を！

7月13日（日）

第2回フライフィッシングプログラムは【ドライフライを使って、最初の一匹を！】と題し、管理釣り場『すそのフィッシングパーク』http://www.susono-f-park.com/　にて実釣体験をしました。

都合のつく受講生は、前日からNPO連絡事務所にて、ドライフライタイイングを行ない、酒井コーチやU川さんが、マンツーマンの指導をしてくれました。

当日は朝８：00、掛川市役所北側駐車場に集合し行程の確認をしました。参加者は、現地集合も含め、受講生７名、講師コーチ３名、OB&スタッフ４名の計14名です。道中の高速道は、ガソリン代高騰の影響でしょうか・・・スイスイです。天候が心配されましたが、現地に着いた頃気温も上がり、梅雨明けを思わせる日差しに変わっていました。やや風が強めです。

10:30

簡単なブリーフィングをし、釣りたいクン（経験者）と、タイイング班に分かれました。

パーク内の釣り場は３箇所に分れていて、それぞれに鱒の種類が違います。５０ｃｍ級のニジマスは、引きが強く、取り込み方によってフライを奪われます。そんな経験もここでは１つの楽しみ方です。と先生の弁。

タイイングは事務所横の小部屋を借りて、佐藤隆彦コーチがレクチャーしました。そして、自分の巻いたフライでいざ、実釣です。釣り場の様子は、気温の上昇で魚も沈み気味、浮かせるフライに少し重りをつけて水中での喰いつきを狙います。

実釣中、密かな楽しみは、駐車場で留守番をしながら達橋コーチが作ってくれるトン汁。それが美味しく出来上がる頃を見計らって、各自昼食をとり、昼食後も14：00を目安に実釣。全員が釣果を得ました。そのなかで、Gさんが釣り上げた

50ｃｍのニジマスを、佐藤コーチが、わずか５分、見事な包丁裁きで切り身にしてくれました。（残念ながら、カメラマンが追いつかず、写真がありません）

15:00

終わって達橋コーチが湯を沸かし、インスタントコーヒーで一服。暑さとニジマスと闘った後の‘至福の時’的な感じです。帰りは一台の車で、まったりとした帰路を楽しみ、火照った身体はＳＡのアイスでクールダウン。掛川市役所に１６：３０到着、解散しました。

次回プログラムは８月のオプションツアーを挟んで９月13-14日、大井川源流ツアーです。

第３回F.F プログラム 大井川源流ツアー（前半）

９月13日（土）－14（日）

ほとんどの河川は９月末で今年の禁漁を迎えます。第３回プログラムでは、ネイティブのイワナと会いに、このカレッジでは恒例となった大井川源流の二軒小屋ロッジでの宿泊釣行

です。

静岡県地図を思い出してください。静岡県が一番北に尖ったところがその場所。掛川を朝4時半に出発、畑薙ダムに7時半に到着して、東海フォレストの登山用バスに乗り換え、さらに1時間半かけてようやく二軒小屋に到着します。今回は連休中ということもあり、8時発のバスが満員のため、その次のバスを待って、9時をまわってからようやくバスに乗り込みました。

バス待ちの時点で、なんとトレッキングプログラムにご参加

いただいているＭ田さんと合流。赤石岳への登山に向かうところでした。お互いの無事を誓い合い（熊出没！？）さわらじまで別れました。

さて、二軒小屋到着後には早お昼を食べ、早速小屋前の川に降りて、全員で渡渉の実践。もしも、川で流されたらどうすればよいのか、安全に川を渡るにはどうしたらよいのか、などを実践。さらに実釣にむけて、イワナのポイントの紹介と、アプローチの仕方などをレクチャーしました。

そうして、ようやく各メンバーは数名づつのグループに別

れ、珍しく渇水気味の大井川源流に釣りへ出かけます。

さて、その結果は・・・後半へつづく。

コメント

狂四郎

二軒小屋のあたりは空気も清々しくて気持ちが良かったね。

ある受講生が

「歩いているだけで気持ちがいいので、釣れなくてもいいです」

なんて言っていたが、気持ちはよくわかるが、やはり釣らなくっちゃあ！

サトー

狂四郎ｾﾝｾ、確かに釣らなくちゃ！ですが、今回初めてでしたね、あんなに減水して渡りやすい本流を見たのは。

それもあって、イワナの出方は、アマゴ並にシビアでした。

さて、後半をそろそろ書きますが、あともう少しコメントをいただけたら、書こうかなぁ～

2008・09・24（水）

第3回F.Fプログラム 大井川源流ツアー（後半）

9月13日（土）－14（日）

さあ、受講生の皆さんは大井川源流で、講師・コーチ陣たちと小グループに別れ、実釣タイムへと突入しました。ふだんの水量だと、対岸へ渡るのが難しいほどですが、なんと今回はスイスイと渡れてしまいます。釣りのし易さでいえば申し分ないのですが、逆に渇水はサカナたちを脅かしているのも事実です。ふだんよりも泳ぐ場所も隠れる場所も少なくなっているわけですから、当たり前のことですね。

さて、ご一緒したO田さん。なかなか最初の一匹が釣れません。素晴らしいポイントが連続する場所で、素晴らしいポイントにフライが落ちるのですが、イワナは無反応です。しかし、ここぞ、というポイントで、念願のヤマトイワナがロッドを曲げてくれました。O田さんの満面の笑み！

F原さんも、丁寧にポイントへフライを流していきます。夕陽を背に、F原さんのキャスティングはだんだんと良いポイントにフライが届くようになっていきますが、イワナは顔を出してくれません。

結果、この日はU川さんをはじめ、数名の方がイワナをキャッチしましたが、全体的には芳しくない状況でした。やはり、釣り人の多さと渇水が大きく影響しているようです。

夜は、恒例の宴も盛り上がりをみせ、部屋に戻ってからも笑い声がロッジに響きました。

翌朝、Ｎ崎さんは早起きしてロッジ前のプールを狙いましたが、状況は前日と変わらず。朝食後、今度は上流部の東俣、西俣をめざして、小グループ毎に分散入渓しました。Ｋ添さんは、昨晩から合流した講師・コーチ陣の友人であるＳ爺がガイドをかってでて、見事Ｋ添さんは23cmのイワナをキャッチ！

また、Ｕ川さんはゲスト講師のＯ爺と同行し、ふだんの釣り上がりとは３倍近いスピードで釣り上がるＯ爺のポイントの見切り方に、感心しきりの様子。また、Ｓ木さん、Ｇ藤さんはコーチ陣と同行して１匹づつキャッチしたようです。

結果、８名の受講者中、５名の方がイワナを釣り上げました。「この渇水、ハイプレッシャーの中で、5/8は、なかなかの成績ではないでしょうか、いつもの年よりも良いですね」と講評を締めくくった川野先生からは、イワナの顔をみた５名

に、アマゴバッジ（KAWANO CLUB 謹製）がプレゼントされました。

ということで、今年の大井川源流ツアーは終了しました。掛川から片道約４時間、しかも途中からは登山用バスに乗り換え。しかし、それだけのてまひまをかけても、この場所を訪れる価値はあると思います。無垢な自然：ウィルダネスが残っていることで、自然回帰型ライフスタイルへの希求を、より鮮明にすることが出来ます。南アルプスから流れ出るこの水は、まさに掛川の水道水でもあるのですから。

コメント

狂四郎

確かに川は状況は厳しかったなあ。

スレてるって感じだったなあ。

僕にもイワナが何度か出たが、フライ直前でピタリと止まったからね。

それでも５人の受講生が釣ったのはリッパだった。パチパチパチ！（拍手）

それにしても天気には恵まれて気持ちがいい釣りができたねえ。

サトー

フライをウェットに変え、

水中でのフッキングに期待しましたが、

ギラッと反転するタイミングで合わせても

スコーンと空振り！という状況が続きました。

フックに触ってなくても、二度と出て来ない！

なんだかシビアなアマゴ釣りのようでごわした。

2008・10・17（金）

第４回F.Fﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｱﾏｺﾞ産卵ｳｫｯﾁﾝｸﾞﾂｱｰin遠山川

F.Fﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑでは恒例＆名物ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとなっているｱﾏｺﾞの産卵ｳｫｯﾁﾝｸﾞへ10/12（日）に行ってきました。折しも、この日は掛川祭のまっ最中ということで、市内在住の受講生の方にはまずいﾀｲﾐﾝｸﾞとなってしまいまた。とはいえ、このﾀｲﾐﾝｸﾞはｱﾏｺﾞ

のまさに産卵期であり、10月下旬ともなると姿が見えなくなりますので、この期を逸すると、また1年後ということになってしまいます。参加者は7名という小所帯でのﾂｱｰとなりましたが、それなりにｱﾏｺﾞを観察してきましたのでご報告しましょう。

今回はゲスト講師にテンカラの鬼こと榊原正巳さんをお迎えしました。遠山川漁協の監視員までつとめ、遠山川水系を知り尽くした榊原さんに、ｱﾏｺﾞの産卵ポイントや産卵環境、ｱﾏｺﾞの習性や産卵期行動の特性などを解説していただきながら、充実したﾂｱｰとなりました。

まずは恒例遠山川支流の北俣沢へ。歩いてすぐにそびえる第1堰堤下で数匹のｱﾏｺﾞを見つけました。この堰堤下は遠山川本流から遡ったｱﾏｺﾞが溜まる場所ですが、今回は上流部の取水堰堤からの放水があったため、水量が多く、水色もｳｫｯﾁﾝｸﾞがしずらい状況でした。

続いて上流に向かい、本流の兎洞合流点から兎洞堰堤までの区間をｳｫｯﾁﾝｸﾞ。いつもは数多くのｱﾏｺﾞを見つけることができますが、今年は僅か。環境変化に伴うｱﾏｺﾞの産卵数の減少は、ここ３年間如実です。昨年は橋の上から数多くのｱﾏｺﾞを目視できましたが、今年は１ペアのみと、さびしい限りでした。

さらに上流へとむかって昼食休憩。その後、いくつかのポイントでｱﾏｺﾞを確認し、最後は道から約６匹のｱﾏｺﾞたちによる産卵行動をつぶさに観察することができました。

帰りには空中集落・下栗の里を通り、龍淵寺の霊水（これがまた旨い！）を飲み、蕎麦まんじゅう（これもまた美味しい！）を食べて帰路につきました。

この観察を始めて10年以上経ちますが、今年のｳｫｯﾁﾝｸﾞ数はかなり少ないものでした。しかし、ここ1ヶ月の降雨量、水温変化などの影響で産卵時期に誤差が生じている可能性も高く、生息数の減少と決め付けはできません。しかし、ｱﾏｺﾞたちの自然再生産を促すため、われわれ釣り人は何ができるのか、と自問自答しながら、多くの人たちにこの偉大なる自然のﾁｶﾗを伝え続けることが必要でしょう。

産卵の行く手を阻む巨大な堰堤群を見て、人間のﾁｶﾗはいかに強大なものかを知り、それでも懸命に子孫を残そうとあがくｱﾏｺﾞたちを見て、人間はいかに無力かを悟る・・・このﾂｱｰは、哲学的な旅でもあるのです。

2008・12・25（木）

第５回F.Fﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 紅葉の山上湖「段戸湖」へ！

一般河川は禁漁となりましたので、11月16日（日）は管理釣り場での釣行です。情報収集と下見を終え、コンディションや移動時間を考慮し、講師陣と調整のうえ、会場を愛知県設楽町にある段戸湖（愛知県北設楽郡設楽町田峯字段戸）へ行ってきました。

下見時には、ドライフライでニジマスのサイトフィッシングが可能な状況でした。周りは広葉樹の森に囲まれた自然公園になっていますので、併せて楽しもうという魂胆です。当日は、少し雲行きが怪しい中、ところどころ、紅葉まっさかりの景観に目を奪われながらのドライブです。

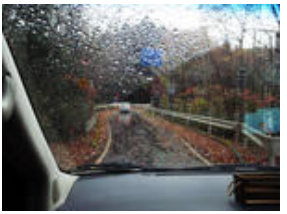
到着して、人造湖の流れ出しの提からニジマスを狙ってフライフィッシング開始！魚が回遊するのは良く見えるのですが、

なかなか誰のロッドも曲がりません。最初はドライフライで粘っていたＹ川さんが、ニンフに買えたとたんに初ヒット！

取り込みを終えたＹ川さん。首をかしげながら「んんっ？ウ、ウ、ウグイ～？じゃないな、何これー？」とつぶやいています。近寄ると、一瞬、斑点がないコイ科の魚にも見えましたが、いえいえ立派なマス科の魚です。ニジマス？にしては細かい斑点がありません。聞けば、この魚はホウライマス（鳳来鱒）というのだそうです。名前の通り、愛知県鳳来町で見つかったニジマスの突然変異で、黒い斑点がなくなった魚でした。レインボーカラーが、より鮮やかに見えます。

雨足が強くなり、昼になっても気温は変わらず、かえって寒さが増したようにも感じます。川野先生は対岸にわたっていて、みんなの見ている前でロッドが曲がりました。なかなかのグッドサイズレインボーです。これを区切りとして、昼ご飯へ、火が炊かれた休憩所へと戻ります。

寒くなったカラダを、弁当と薪ストーブで暖め、午後の部へと移ります。午後は比較的自由に場所を決め、みなさんのペースでトライしていただきました。途中雨が止み、風がおさまるとあちこちでライズが始まったりすることがあり、ライズ狙いで皆さんいいポイントへフライをプレゼンテーションするのですが、なかなかヒットしません。数名の方にはレインボーやイワナがヒットしたようですが、大満足〜！という釣果には至りませんでした。



山上湖でのシビアなコンディションでの釣りとなりましたが、コンディションという前に、12月・1月という禁漁期のF.Fチームは「キャスティング練習をせよ！」というテーマを川野先生からいただくことになりました。確かに、湖での釣りでは、キャスティングがモノを言います。かといって川ならキャスティングができなくても良いか？と問われれば、そういうことではありません。やはり、実釣がかなわない期間は基本に戻ってキャスティングをもう一度見直しましょう！正月休み中に、時間のある方は集まってキャスティングをやりますか～！ご希望の方は、連絡事務所S藤まで一報を！

P.S：12/13にF.Fチームの忘年会を開催しました。この模様も近々

アップしますので、どうぞお楽しみに！

コメント

川野

やっとアップしたかあ。

途中のドライブは快適で、時流れが止まったような旅館もあったりして楽しんだが、段戸湖は寒かったね、雨もふったし。

ライズの場所が岸からやや遠いところもあって、そこまでフラ

イを届かせることができない生徒さんが居たね。池や湖では遠投能力が必要なことが多いんだよ。

皆さん、頑張って、練習しましょう。

魚を釣るために！

遠投ができるようになれば、近い場所での正確なプレゼンテーションもできるようになるのだから。

川野

サトー

丑年謹迎 今年の正月は快晴が続くものの風が強く、キャスティング日和とまではいきませんが、午前中は穏やかですね。

皆さん、朝早いタイミングでキャスティングすべし！

2008・12・27（土）

F.F チームの忘年会は！？

カレッジのアクティビティプログラムでは、忘年会や新年会が行われるチームが多々あるようですが、わがフライフィッシングチームは、12/13（土）沖縄料理の店「せっせ」http://sesse.hamazo.tv/　にて、講師の川野信之先生を相模原から招いて宴を催しました。

Ｏ田さんが体調の関係で、Ｈ岡さんとＦ原さんがご都合で欠席されたのは本当に残念！せっせでは、美味しい沖縄料理と和食が絶妙なバランスで提供され、好評でした。また泡盛のせいか、メンバーは弾けまくって、妙な（？）盛り上がりをみせてました。

二次会は、街なかへワインを飲みに繰り出しました。ワインが進んだメンバーは寒いストリートでも元気そのもの！開催中の「ひかりのオブジェ展」の事務所にも乱入して、思いっきり年忘れしました。

さて、来年のプログラムは2/15（日）です。プロタイヤーを招いてのタイイングプログラムからスタートし、３月の解禁、４月・５月のハイシーズンにむけて、フライタイイングをビシッとレクチャーしますので、どうぞお楽しみに。また、川野先生から出た宿題“オフシーズン中の自主キャスティングレッスン”をくれぐれも皆さんお忘れなく。

ではわがチームの皆さん、そしてライフスタイルカレッジの皆さん、良いお年をお迎えください。

“タイト・ラインズ！”

コメント

ドクトル・カワノ

忘年会は盛り上がったねえ。料理も旨かったし。

来年は全員がアマゴを釣れるよう、

がんばろう。

Tight Lines!

サトー

川野先生、先日はありがとうございました。2月15日は、寒狭川が解禁していますが・・・。また前日入りしてキネマ屋あたりで新年会も一考かと・・・。

ドクトル・カワノ

寒狭川ねえ。あそこは難しいからなあ。

だが、新川さんにも大分会ってないし、キネマ屋にも行かなくっちゃあね。

前向きに考えてみるか。

ゴトー

キネマ屋、い〜ですね〜

新年会やりましょうよ（＾＾）

今度はイノシシ肉を用意してっちゅうのはどうかや〜？

年末年始は風が強くってキャスティング練習もできん。

寒いっちゅ〜のが理由だけんね・・・

2009・02・20（金）

第6回F.Fプログラム「みっちりとフライタイイング！」報告

静岡県の河川解禁3/1を目前に控え、『フライタイイング』をこの機会にぜひモノにしようというのが今回。丸一日近くをフライタイイング（毛鉤を巻く）に費やすという、過去にないプログラムです。今回は、川野先生に加えて、前F.F講師、現ネイチャーフォトグラフィー講師の小川博彦さん、さらに小川さんの友人でプロタイヤーの河合宏一さん http://kwaters.

blog92.fc2.com/ をゲスト講師に招き、ゆっくりと時間が流れる里山の民家（倉真の小川さん宅）を会場に、充実した講座となりました。

まずは川野先生から、ご本人が所有するイギリスのアルフレッド・ロナルズの「フライフィッシャーズ・エントモロジー（フライフィッシャーの昆虫学）」という1836年に出版された本を片手に、タイイングに関するレクチャーからスタートです。水棲昆虫とそのイミテーション・フライを対比させた、世界で初めての本。まだカラー印刷がなかった時代のため、挿絵にはすべて手で色がつけられているという貴重な書籍です。

http://e-jan.kakegawa-net.jp/modules/d/diary_view.phtml?id=237788

この日はなんと最高気温が20℃を超え、シャツ一枚でも過ごせる陽気のため、レクチャー会場は小川さん宅の庭で。まぶ

しくなった春の光を浴びながらの興味深いレクチャーに、みんな身を乗り出しています。

続いて3グループに分かれてのタイイング実践へ。ゲスト講師の河合さんは、さすがプロです。レクチャーのスタイルも、さすが！と唸ってしまいました。受講生のＹ川さん、Ｏ田さんはもとより、コーチのＳヤンまで「やっぱ違うわぁ～すげぇ！」を連発。確かに河合さんのタイイングは、確実かつ合理的、しかも出来上がりが美しいのです。スレッド（巻糸）を撚る、ハックルを補強する、などの基本プロセスのレクチャーも、理にかなっていて、いちいちみんなでしきりに納得してい

ます。

昼ごはんはお弁当を屋外で食べ、午後の部へ突入。午後は、受講生が各自で巻いてもらい、それに対して講師やコーチがサポートするという、ほぼマンツーマンレクチャー。最後にご自身のベストフライをエントリーしてもらい、３名の講師が、それぞれに批評するという趣向です。Ｎ崎さんは数多くのパターンを、Ｋ添さんは確実かつ丁寧に、Ｇ藤さんは覚えたてのフローティングピューパを、Ｆ原さんはエルクヘアカディスを、Ｓ木さんはウィップフィニッシャーをマスターしながら、とそれぞれ想い入れをフライに込め、巻きすすめます。

川野、小川、河合の３講師、酒井、Ｓヤン、Ｎミッチャの３コーチはレクチャーを終え、受講生がエントリーしたフライの批評へと別室に移り、各フライをそれぞれ評価していきます。そして、発表。受講生には経験者には辛口の、初心者には甘口のコメントが寄せられました。講師によっても役割が変わります。川野先生は限りなく辛口審査員に、河合先生は甘口審査員となりました。

終わってみれば既に４時近く。口々に「今日はタメになったぁ～！」の声しきり。ご覧ください。これがこの日の成果です。次回、3/15のプログラムで、このフライを使って今年最初のアマゴを釣るゾ！と誓い合いました。

コメント

カワノ

ほほう、いつの間にかたくさん写真を撮っていたんだねえ。

今回のレッスンはプロタイヤーの河合君も来てくれ、充実した一日になったね。

皆さんも得るところが多きかったんじゃないだろうか。

”釣るためにフライを巻く”

これが基本だし、フライフィッシングの楽しみの中核を成している。

皆さん、頑張ってフライを巻きましょう！

サトー

タイイング、ああいうシチュエーションのレクチャーがあると、

がぜんモチベーションが上がりますね。

下がる前に、ぜひやるべし！

さて、次回は3/15日実釣ですので、お楽しみに！

2009・03・15（日）

第7回F.Fプログラム「解禁！早春の渓へ初釣行」報告

待ちわびた河川解禁から2週間が経過し、山里を彩る花も“梅”から“桃”へと主役が変わりました。3月中旬といえば、静岡県の河川はグッドコンディションに向かいつつあるのが本来ですが、3/13-14の降雨が、増水と冷え込みをもたら

し、3/15の釣行は、厳しい環境での初釣行となりました。

朝7：45に掛川市役所に集合したメンバーは、“イブニングまで粘りたい”派が圧倒的に多く、乗り合せというより、めいめいのクルマで出発！
です。

到着した気田川は茶色の濁流。支流の不動川でも笹濁り。目標の熊切川も・・・なんとキツめの笹濁りです。そのため、気田川本流上流部の勝坂に向かい、その集落に流れる支流へ数名の入渓を試みますが・・・先行者が数名。とはいえ、このコンディションでは、澄んだ支流を目指す釣り人が多いのはいたしかたないところです。。ここでは記念写真を撮って、後藤さん、鈴木さん、中道さんに入ってもらい、残りの人たちで違う川を探します。

川野先生と岡田さん、達橋さん、樽松さんは石切川支流の小俣川に向かうも、濁りが強く先行者ありで断念。熊切川中流部へ移動するという連絡が入ります。そして野崎さん、小林さんは不動川へ。不動川は澄みが早く、状況としては他の川よりもコンディションが良いとはういうものの、やはりこれだけの増水では、魚たちの顔は拝みにくい状況です。

・・・つづく

コメント

狂四郎

自然の中で魚を釣るというのがフライフィッシングなので、釣果は自然の女神のご機嫌次第ということになりますナ。

今回は、だから、やむを得ません。

あと２回、実釣スクールがあります。

皆さん、頑張って！

アマゴバッジはまだ残っているよ。

2008・06・22（日）

6/22 サイクリング体験会

掛川市役所　朝８：００前　あいにくの雨の中　今日の体験会に参加して下さる方々１４名が集まってきてくれました。
こりゃ～自転車に乗ることを諦めないといけない天気です。

さぁ　気分を切り替えて　４階会議室へ！

講師の山崎さんから　自転車の楽しみ方や昨年のサイクリング講座の様子など　写真を見ながらレクチャーを受けました。

今までサイクリングを受講した方々の感想や　今日体験会に来ていただいた方からも　一言をいただきました

「こんな長距離　走れるか不安！」という声に「がんばらなくても　みんなといっしょだと走れちゃうから大丈夫！」と言う心強い声も。

雨が降っているので　実際の道を走ることは出来ませんでしたが　市役所の地下駐車場をお借りして　チョットだけ疑似体験。

今日の体験会では　サイクリングの魅力はとうていお伝えすることは出来ませんが　是非是非みなさんといっしょに　掛川ライフスタイルデザインカレッジならではの　のんびりサイクリングを楽しんで行きたいと思っています。
気軽にご参加下さいね！

2008・08・06（水）

サイクリング講座『自転車に乗ろう』

７月２７日（日）
受講生８名。　講師・スタッフ９名参加。

梅雨も明け、本格的な夏到来！
サイクリング講座の第１回目は、と〜〜〜っても暑い中　開催されました。
市役所玄関前にて開講式。代表からの挨拶をいただきました。

この講座を１年間受講して、自転車の魅力にとりつかれていただきましょう！！

うるさく鳴くセミを避けるため、場所を市役所内に移動して、１年間の予定やスタッフ・受講生の自己紹介を行いました。
うん。とっても個性はぞろいです…

楽しい講座になりそうな予感を持って、Ｍｙチャリに乗って再び市役所玄関前に集合です。

講師の山崎清一氏から自転車の種類、自転車を選ぶ場合のポイントのレクチャーを受けました。

講師の自転車への愛情を込めたレクチャーに、受講生のみならずスタッフも引き込まれてしまいます。

「自転車」ってくくってしまうけど、ホントいろんなタイプがあります。
さぁ、今度は実際にいろんなタイプに乗ってみましょう！

ロードバイク。マウンテンバイク。クロスバイク。折り畳み式自転車。背もたれ付きの自転車。競輪競技用自転車。……
いろんなタイプの自転車に乗れることってないので、大はしゃぎの時間でした。

正しい自転車の乗り方のレクチャーも受け、頭を使って自転車に乗る！ことを再認識させられました。

次回は　『メンテナンス講座』です。
自転車の構造に強くなって、パンクも自分で直せたらカッコイ

イかも…

2008・08・16（土）

サイクリング講座『メンテナンス講座』

８月１０日（日）晴れ
受講生８名。講師・スタッフ９名参加。

サイクリング講座の２回目は、人気の『メンテナンス講座』です。
自転車をこよなく愛する講師の山崎さんから、自転車の構造や部位名称、パンク修理の方法まで実践を交えての講座が始まります。
サイクリング講座の副読本として

を使用していきます。

まずは、メンテナンス講座の会場「掛川中央図書館」までかる～くサイクリングです。途中、掛川の隠れた名所をチョコチョコっと廻って行きます。

メンテナンス講座の前に　軽く“栄養補給”

自転車の構造や部位名称の説明が始まりました。
メモを取ったり、本を見たりみんなすごく真剣です！

さぁ　次は自分の自転車のタイヤをはずしてみましょう！

タイヤをはずせたら空気をわざと抜いて「パンク時の修理方法」としての「チューブの取り替え」です。

「適当に休憩してくださいねぇ〜」の声に耳も貸さず、真剣な受講生です。

これで、自分でパンクの修理もバッチリ！

最後に講師の山崎さんから、自分で出来るギアやブレーキの微調整方法を教えていただき、メンテナンス講座は無事終了。

市役所までの帰り道に逆川沿いの「進藤氷店」で、お約束の“かき氷”を楽しみました。

次回は　９月２１日（日）です。
『ポジショニング』を整えて、自分仕様の自転車に仕上げましょう！

2008・09・22（月）

9/21 サイクリング講座『フィッティング』

９月２１日（日）
心配していた台風１３号も前日の朝までに通ってしまい、お天気のことはまったく気にしていなかったのに、なぜか朝から「雨！…」まいったなぁ……
でも受講生のみなさんは予定通り掛川市役所に集合して下さいました。

『フィッティング』の場所を市役所南側の屋根の有る場所に移しての講座開始となりました。

今回は自転車専門誌「サイクルスポーツ」の執筆者のお一人、藤下雅裕氏をお招きして、受講生１人１人の身体に自転車をフィットさせていく『フィッティング』講座を開催しました。
せっかく藤下さんが掛川にいらっしゃるので、この機会に是非！という呼びかけで受講生以外の方々も大勢参加してくださいました。
みなさんとても熱心に藤下さんの発する一言一言に耳を傾けていましたね。

サドルの高低はもちろん、前後。ハンドルまでの位置。レバーグリップの角度……１人１人、一台一台ホントに丁寧に調整して下さいました。

サイクリングシューズを使用している方には、シューズ側のクリートの微妙な位置、角度を調整して下さり、今までとの違いをすごく実感していたようです。（このビンディングがすごく重要な様で、未使用の方々はとっても残念がっていました）

アシスタントのメグさんとの会話もとっても楽しかったです。

時にはペダリングのコツを伝授しながら

時には筋トレ方法を伝授しながら

充実した時間が流れていきました。

“自転車が自分にフィットしていく感じ”を「わぁ～こぎやすくなった」「すげ～っ！」という言葉と共にみなさん味わっていましたねぇ～
その様子を見ている側も「こぐ姿勢がキレイになったよ！」「プロっぽい！」と感動しちゃいましたね。

本講座の講師　山崎氏が、藤下さんにフィッティングしていただいている姿はオーラが出てましたねぇ～

午前中の予定をはるかにオーバーして午後２時頃まで、フィッティングをして下さいました。

その後３時頃から、自分仕様になった自転車に乗り　市役所→エコパ→愛野→袋井南中→通称トリトントンネル→法多山→エコパ内→市役所
　のコースを走ってきました。

みなさん愛車との相性が抜群によくなり、スピードがよく出ていましたねぇ～

市役所にもどって、みなさんで記念写真をパチリ。

朝早くから夕暮れまで、お疲れさまでした。
藤下さん、メグさん　ホントにありがとうございました。

2008・11・13（木）

10/26 ずらっと掛川サイクリング

今回の講座は、NPOslow-life 掛川が主催するサイクルイベントに参加しました。
予報では、天気の心配をしなくてもいい感じだったのですが…

雲行きが怪しい中、大東シートピアの駐車場に受付のテントを設置し、参加者のみなさんを待ちました。

今回のコースは２種類！

・レギュラーコース　（約４５㎞）

・グランデコース　　（約６５㎞）

健脚ぞろいの受講生は、グランデコースを選択した人が多かったなぁ。

スタッフ紹介、コース説明等の開会式を終えて、さぁスタートです。

『シートピア』を出発し菊川沿いを北上。
気持ちよくサイクリングのはずが、なぜか雨雲。
西風も強くなり、サイクリストのテンションは一気に下がる下がる。みんな無口で景色を見る余裕なんて無い無い。
…果たして掛川を一周してゴールにたどり着けるのか、不安にさせる天候でした。

一緒に走る仲間がいるので何とか走り続けていたら、雨も小降りになってきました。
『応声教院』につくころには、かなり天候も回復していました。
でも、先に出発したグループとはかなり離れてしまい「いつまで待ったら来るのか？心配しちゃったよ」とサポートスタッフに言われ…

さぁ　ここからは登り坂です。『トマトの里』までの距離としては短いけどケッコウき・つ・い。
がんばると良いことが待ってますねぇ～。おいしいトマトをいただいて、ホット一息。
ここからお弁当の待つ『掛川城』に向けて再出発です。

３年に１度の掛川大祭でしか見ることの出来ない、仁藤の大獅子をガラス越しに覗き、大手門を自転車を担いでくぐり、『掛川城』の到着です。

先のグループはお弁当を食べて午後の部を走り始めちゃったかと思っていましたが、合いましたねぇ～
充実した顔がたくさんありました。

地元の食材をおいしく調理してくれることで定評のある『どんどこあさば』のお弁当をおいしくいただきました。

『掛川城』をバックにグループごと記念撮影をした後、午後の部の開始です。

健脚ぞろいの「グランデコース」が行ってしまった後、「レギュラーコース」はのんびりスタートです。

『キウイフルーツカントリー』まで坂道のないルートを選んだはずが、“工事中“に阻まれ、やむなく坂道を体験。それでも、声をかけ合ってがんばっちゃいましたよね。

『キウイフルーツカントリー』で数種類のおいしいキウイを堪能してから、『シートピア』に向けて出発です。ここを出発後から「レギュラーコース」は「イレギュラーコース」と化し、大東のモコモコを横目で見ながら『シオーネ』前のコスモス畑へと進みました。白・ピンク・赤・黄色…ここのコスモスは自由につみ取りＯＫなので、たくさんの人たちが楽しんでいました。

『シオーネ』から菊川沿いを『潮騒橋』を目指して土手を下ります。“河口まで〇㎞”を見て「あとチョット　あとチョット」って励ましながら…

朝の景色とは違う河口です。つりを楽しむ人。サーフィンを楽しむ人。そしてサイクリングを楽しむ人。多くの人が集っています。
ゴールの『シートピア』まで残り数百㍍。さっきまでの疲れた顔がウソのようです。

ゴールした顔は、みなさん晴れやかでしたねぇ～。大きな事故やトラブルもなく、戻ってくることが出来てホントによかったです。

閉会式では、朝と同じような風が吹いてきて身体がドンドン冷

えてくる中“大抽選会”。欲しかった物が当たったかしら？？？

参加賞の“記念タオル”“かめまんじゅう”“温泉入浴券”を有効活用して『ずらっと掛川サイクリング』は無事終了しました。

2009・01・10（土）

第５回　サイクリング講座の報告　（12/14）

先月予定していた「輪行」の講座が雨天で延期。
１２月１４日に仕切りなおしてみましたが、天気予報は前日から『雨』…ついてないなぁ～

当日はやっぱり雨！１２月の雨ともなるとさすがに寒いです。そんな中、集合場所である掛川市役所に受講生のみなさんが集まってくれました。

予定していた“輪行サイクリング”は出来ませんが、“輪行袋”への出し入れを練習しました。
「今年の袋は昨年のものとチョット違いまして…」の説明に、「それってずるいじゃん！」と昨年の受講生から声が……　どちらが使いやすいかは？？？？

「これで正しい輪行袋への入れ方がわかった」とベテランサイクリストからの発言が飛び出してきてビックリ！

“輪行袋”の片づけがまた大変で、小さなポーチにはキレイに畳まないと入りません！その辺で個人の性格が垣間見れちゃったり（笑）

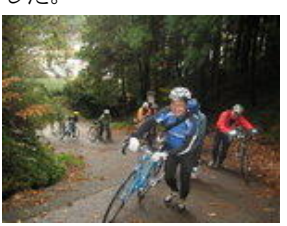
“輪行袋”の取り扱いをマスターしたのですが、まだ雨が降っています。「午後からお天気が回復してくる」という予報を信じてみんなでランチに出かけました。目的地は「どんどこあさ

ば」。NPOスローライフのサイクルイベントでよく、お弁当をお願いしているところです。地場産品を使って“おいしい”と評判のレストラン。

バイキング形式なので、お皿への取り方なんかとても個性的な方がいたり、おかわりの回数を自慢し合っていたり…お腹の満足度１００％でした。これで帰って寝たら幸せ…なんて思っていたら、西の空から晴れてきましたよ。さすがです。日本の天気予報。

走る前にエネルギーをたっぷり蓄えたので、どこまでも行けそう！
市役所から逆川沿いを東へ向かい、事任八幡宮まで。冷えていた身体がだいぶ暖かくなってきました。

「ここまで来たんだから　沓掛を登って夜泣き石まで行こう」っととんでもナイ急坂を自転車を押して登っちゃいました。



登り終えると身体から“湯気”が…

帰りは違うルートで坂を一気に下ります。せっかく暖まった身体が冷えていくよぉ～

無事　掛川市役所まで戻ってくることが出来ました。

予定していた“輪行サイクリング”は出来ませんでしたが、なんだかとても充実していて楽しい１日になっちゃいました。

さてさて　次回は２月です。寒いぞぉ～。防寒対策は万全に！

2009・02・21（土）

第６回　サイクリング『天浜線に自転車を乗せて』報告

２月１５日（日曜日）朝７：３０　掛川市役所集合！さすがに２月の朝は寒いです！そして“花粉”も飛んでます！
今回は、楽しみにしていた『輪行』です。新たなサイクリングの魅力を感じられる講座のスタート！！

久々にお天気の心配をしなくてもいい　１日になりそうです。

ゲスト講師として静岡市在住の自転車文学研究室主宰　白鳥和也 氏をお迎えしました。『輪行サイクリング』をいっしょに楽しむことはもちろん、「自転車旅の達人」としての魅力あるお話を聞かせていただく時間もたっぷりあり、楽しい１日になりそうな予感です。

市役所に集合した後、すぐ近くの天浜線「掛川市役所前駅」へ移動。駅前で自分の自転車を“輪行袋”に入れるべく作業開始！
前回、天気が悪く「輪行」は出来なかったのですが、みっちり予習をしたおかげで、とてもスムーズに作業してました。さすがぁ～

８：２０発までには余裕があったので　駅名を入れての記念写真をパチリ！

競輪選手が自転車を列車に乗せて遠征したことから、自転車を列車に乗せることを『輪行』って言うんだってことも白鳥さんから教えていただきました。

天浜線で約５０分の移動で「天竜二俣駅」に到着です。
ここを出発する前に、“登録有形文化財”にもなっている「天竜二俣駅構内」。「転車台」付近を主に見学させていただきました。

昭和１５年に建設された木造建築。それが今も現役で使われていて、とてもいい雰囲気です。

１時間くらい見学をしていたら、気温もグングン上昇し、２月とは思えないほどの暖かさ。順調に“花粉”も飛んでいるようで…

さぁ　自転車を組み立て出発です。

白鳥さんの愛車「ランドナー」は、こんな感じで輪行袋に収まってました。

ここから掛川に向け自転車の旅のはじまりです。

のどかな風景の中、森の「小国神社」まで快走。
神社の境内では風が吹くたびに“花粉”が飛んで…症状を一気に悪化させられました。

「小国神社」から坂道を抜けて「大同院」まで走り、その後「アクティー森」を目指してまたまた坂道です。この２つの坂道、反対方向から登るのは遠慮したいです。

「アクティー森」でランチを楽しみながら１時間ぐらい休憩。

やっとクシャミも落ち着いてきたのに、ここを出発しなくっちゃ！

「戸綿駅」までの太田川沿いは、桜の季節に走りたいですねぇ～。あっても花粉が…

原田、原谷、田園滑走路までくると“帰ってきたなぁ”っていう気持ちになるから不思議です。

領家にある高速道路と同じ高さで、平行にかかる歩道橋を渡って市役所まで帰ってきました。この歩道橋、いつも不思議な気

持ちにさせてくれます。

お天気に恵まれた『天浜線に自転車を乗せて』の講座は、ローカル線ならではの時間を共有し、自転車で美しい風景を発見しなおした楽しい旅となりました。

2009・05・01（金）

ナイトサイクリング「星を見に行こう」　4/19

気持ちよく晴れた　日曜日の午後３時。
今回のサイクリング講座がスタートです。すっかり春らしくなってきました。

集合場所の掛川市役所を出発し、逆川沿いを西へ、田園滑走路を北へ、天竜浜名湖鉄道の“細谷駅”まで。

当日は風があり、田植えの準備で水が張られた田んぼにたくさんの波がたっていましたのがチョット残念。田んぼに「水鏡」として映し出される美しい風景はお預けとなっちゃいました。

でも　クラシックタイプの天浜線車両に出会うことができて、ラッキー！

ここから原谷・遊家を通り、目的地の五明の丘まで走ります。

今回、私は軽食調達係だったので、「おにぎり、カップとん汁」を持ってサポートカーで先回り。新茶の鮮やかな五明の丘で、お湯を沸かしながらみなさんの到着を待っていました。

陽が傾き、山の影が谷へ映り、形を変えていく様子がとてもき

れいでした。

受講生より前に今回の講師、アマチュア天文家の西村栄男さんが天体望遠鏡を持って登場です。「今日は雲がないから　観測できそうだねぇ」なんて話をしながら待っていると、みなさんが丘を登ってきました。

比較的風をよけられる場所で「おにぎりとトン汁」の軽食を食べ、暗くなってくるのを待ちました。
待ちながら西村さんから天体望遠鏡の話をきいたり、実際に望遠鏡から粟ヶ岳の鉄塔を見せていただいたり･･･少しずづ期待度がＵＰ！
日本茶インストラクターの虹太くんが入れたお茶を飲みながらの待ち時間も素敵な演出となりましたね

西村さんが“土星”に焦点をあわせてくださり、かわるがわる望遠鏡を覗きました。“輪っか”も観えてテンション↑↑。丘

の上で風も強くガタガタしていましたが気持ちはすっかり天文家になっちゃいました。

帰りには、西村さんに　30000枚撮影したなかの貴重な1枚。「流れ星」の写真をいただき嬉しさ倍増です。

あっという間に時間が経ってしまい、急いで市役所に戻ってきたサイクリングでした。

2009・05・13（水）

JR輪行サイクリング「電車に自転車を乗せて」5/10

11月の講座で行く予定だった「輪行サイクリング」がやっと実現しました。
5月のさわやか･･･ちょっと暑い日に！

11月には延期。輪行を予定した12月にも天候に恵まれず･･･でも“輪行袋に入れる練習”をやりましたし、2月の「天浜線に自転車を乗せて！」でも“輪行袋”を使いましたので、今回の講座ではみなさん“輪行”するのも手慣れたもので･･･8：00に集合して掛川駅に移動し、自転車を“輪行袋”に納め、島田までの切符を買い、乗った電車は8：53発です。すっかり『輪行の達人』になりましたねぇ。

駅舎がきれいになって南口もできた“島田駅”ですが、線路下の小さなトンネルを通るためにわざわざ北口で自転車を組み立てました。

組み立てた愛車に乗って、大井川リバティーへ。大井川沿いの

広場、グランドはスポーツを楽しむ人でいっぱい。その中を「蓬莱橋」まで南下しいきました。下から蓬莱橋を眺めた後、北上し旧国一の陸橋を渡って新金谷駅まで。

そこでＳＬがお出迎えしてくれました。
お弁当を買って、坂道を登って「牧ノ原公園」へ。このコース一番の、唯一の上り坂です。登り切っちゃうと素敵な景色が待ってるんですよねぇ～。
さぁ～～ってと　景色を見ながらお弁当。至福な時です。

お弁当を食べ終わったら、掛川東山へ向けて出発です。見慣れた粟ヶ岳の『茶』の文字がだんだん大きくなっていく様子はちょっとした感動です。

12月の講座で登った峠が牧ノ原から見えます。

『茶』文字の下、東山のいっぷく所で休憩です。おばちゃんが新茶でもてなしをしてくださり癒されちゃいますねぇ。

日坂の宿にも寄って見学をすることが出来ました。藤文では玄関先に五月人形が飾ってありましたよ。
裏庭には、なんとバナナが･･･しかも実をつけて！（食べられるかなぁ～？？）

川坂屋もたっぷり見学させていただきました。
日坂宿は趣があっていい感じです。

その後、事ノ任八幡宮をかすめて逆川沿いを西へ。

15：00過ぎには集合場所の掛川市福祉総合センターへ帰ってきました。

『解散』した後、“こだわりっぱ”でアイスを･･･
サイクリングの後のアイスは　最高！！

2008・08・04（月）

第1回トレッキングの様子

7/19（土）
第1回目のトレッキング講座は、
静岡市内・安倍川に沿って伸びる尾根にある、竜爪山を歩いてきた。

初回ということもあり、参加の皆さんもワクワク気分での集合の様子。井村代表の挨拶、見送りで、受講生13名・スタッフ

4名併せて、総勢17名で車3台に分乗して掛川市役所を6:15出発。

出発時は濃霧。国道1号から静清バイパス昭和ICを降り、安倍川沿いに車を進め、俵沢から今回登山口となる静岡市葵区俵峰へ向かった。俵峰地区は安倍川から九十九折の道を随分と登った山間であったが、多く民家があり集落となっていた。登山口はわかりにくく、茶畑の脇にあった。
8:10ころ、登山口の俵峰に到着。講師陣から山行準備と体操、今回の山行説明があった。

8:40出発。昨年度から継続の5名の受講生は余裕の笑顔の表情が伺えた。第一回目の講座ということで、ノンビリペースで進んだが、どうもこの登山道はあまり使われていないようで、いきなり道がはっきりしなくなった。やがて右手に放置された茶畑、ワサビ田を見ながら、水量豊富な沢を渡った。

少し石が多く、濡れて滑りやすく、植林された杉・ヒノキ林をひたすら高度を上げていく。道中は、至るところアワフキムシだらけだ。講師からは木の名前の説明などがあり、受講生への心遣いが良かった。それに呼応して、受講生のＹ君が楽しいオシャベリで、更に受講生の皆さんを和ませてくれた。

終始樹林帯で風があまり通らず、非常に蒸し暑く、汗だくになった。稜線に出る手前では、一本杉と呼ばれる場所に、お地蔵さんが安置されていた。このお地蔵さんには、何と江戸時代後期、文政年間の文字が刻まれていた。調べたところによると、竜爪山は大昔から多くの人々の厚い信仰に守られた山とのこと。往時の人の往来を感じさせた。

しばらくすると、野田平からの道と合流し、稜線上の富士見峠となった。少し風があり、火照ったからだに気持ち良かった。ただ、ガスで視界が悪く、景色がはっきりしなかったのは残念だった。

休憩をし、ここからは稜線歩き。薬師岳へちょっと急になった登りを一頑張りした。この登りがこの日のコースで一番勾配が急だった。受講生のみなさんもちょっと息が上がったようだったが、周りの景色は植林帯から自然林へと植生が変わり、終わりかけのバイケイソウが何本か咲き、よい雰囲気であった。そして歩き始めて、約2時間半で薬師岳に到着した。薬師岳はそのまま通過。谷側には苺の類の花をいくつか見ることができた。

そして階段を下り、更に登り返して、12：30文殊岳に到着した。

俵峰から2時間50分。山頂には10名程度の人たちが休憩していた。

各自、昼食を取り一休みしたところで、この日のお楽しみとして抹茶セットが用意され、日本茶インストラクターＹ君のお手前で、抹茶が皆さんに振る舞われた。

　その後は受講生＆スタッフの自己紹介。それぞれにこれからのトレッキング講座への思いを語ってもらいました。自身も、サポート役として受講生に楽しんでいただける山行サポートを

いつも心掛けていきたい。

そして、山村講師からは次回のお知らせがあった。長野県佐久の茂来山へ一泊山行となるので、みなさんにテント泊となることをお伝えし、了解を得た。

　文殊岳の山頂からも、やはりガスに覆われ、満足のいく展望ではなかったが、それでも山頂での風は気持ち良かった！また、休憩中はガスが濃くなり不安も感じたが、出発するころには、静岡の市街地も少しはっきりと見ることができた。

12:40 下山開始。帰路は同じ経路で下山した。下山もゆっくりと急な下りもあるので慎重に進んだ。また、鈴木講師が丁寧に歩き、植生を説明してくれていた。
みなさん、少し歩きに慣れた雰囲気であり、余裕をもって山を楽しんでいただけたのではないだろうか。

14:50 車に到着。車に戻ったら、猛暑となり梅雨明けをきいた・・・夏のひととき、気持ち良い汗をかき、和気あいあいの山行だった！
これからも、楽しいトレッキングの予感がし、掛川へ戻った。

皆さん、お疲れさまでした。次回も楽しく山へ行きましょう！

2008・10・20（月）

第２回トレッキング「日向山」の様子

大変遅くなってしまいましたが、
トレッキングの第二回目「日向山」のご報告です。

「ゲリラ豪雨」という言葉が、流行語のように使われた今夏は、突然の豪雨に見舞われる天候不順が続きました。

８月に予定していたトレッキングは、
降雨により予定変更を迫られ、
当初予定していた信州「茂来山」での
親睦会を兼ねたテント山行を泣く泣く変更。

代わりに、１１月に予定していた山梨県の
「日向山」へ、前倒しで登ることになりました。

当日は早朝５：００に集合。
清水から富士川沿いを北上し、一路日向山を目指します。

登山口に到着すると、やや雲の広がる心もとない天気
でしたが、皆元気はつらつに出発。

歩き始めると、コナラやカエデなどの明るい雑木林が気持ちよく、
道中には炭焼き釜の跡があったり、登山道の脇に馬頭観音さまが
安置されていたりと、昔はこの山が人の暮らしと深くつながって
いたことを物語っていました。

一歩ずつ、ゆっくりと高度を上げていくと、
次第に森の様子が変わっていきました。
始めは、幹の細い広葉樹中心の雑木林だったのが、
しばらく歩くと、幹の太いブナがたくさん
生い茂る森へ移り変わります。

ブナの森は緑鮮やかで、たくさんの葉っぱが
夏の強い日差しを遮ってくれ、上を見上げれば
光を透かした緑の葉が、なんともきれいでした。

やがて登りがゆるくなり、カエデの大木が現れてくれば
山頂はもうすぐそこ。なだらかな山頂一帯には、
たくさんのカエデに覆われた、美しい森が広がっていました。
この山頂一帯は、時折差し込む日の光や、
穏やかな天気と相まって、まるで楽園のようでした。（言い過ぎか）
このままここにテントを張って、一夜を
過ごしたくなってしまうほど、気持ちのよい空間でした。

でも日向山の見どころは、この森を抜けた向こうにありました。
カエデの森を抜けると、緑の森からは一変して、まるで海岸のような
白い砂浜が広がります。おまけに視界は急に開け、眼前には
八ヶ岳の雄大な景色が広がっていました。
山頂こそ雲がかかっていたものの、
この素晴らしい光景には、受講生の驚きと歓声が一帯にこだましました。

砂浜の正体は風化した花崗岩で、岩を触るとボロボロと崩れます。
海で見る白い砂浜も、山から運ばれた花崗岩でできるもので、海と山とがつながっていることを感じさせてくれました。

お昼を食べたあとは、ぐるりと山頂を回って登りとは
違うルートから下山。

ちょっぴりスリリングな山頂脇の岩峰には古い祠が安置され、昔の日本人の信心深さにただただ感心してしまいました。

スキー場のように白い斜面を下ると、再び緑溢れる深い森へ。
急な斜面を木の根に掴まりながら、慎重にくだりました。

錦滝とよばれる滝が現れると、林道に到着。
ここから登山口まで３０分間林道を歩きました。

林道にでると突然の雨。カッパを着ましたが、
ほどなく上がりました。

山では天候の急変がつきものなので、
雨具は天気がよい日でも、いつもザックに入れて
おかなきゃいけないんですね。

帰りは日帰り温泉で汗を流し、疲れたからだは
中華をガッツリと食べて癒しました。

2009・02・10（火）

第３回熊伏山の報告

大変遅くなりました、トイレッキング第３回
熊伏山のご報告です。

熊伏山へは、信州と遠州とをつなぐ「青崩峠」から
アプローチしました。

青崩峠は、その昔「塩の道」や「秋葉街道」と呼ばれ、
信州の山の幸、遠州の海の幸が行きかい、秋葉神社への
参拝者が行きかったという歴史が刻まれた峠。

ちなみに、熊伏山の名前は急峻な地形に
熊も身を伏せてしまうということに由来するのだとか…。

さてさて能書きはこの辺で。

この日は晴天。
気持ちのよい秋晴れでした。

四方を深い山に囲まれた水窪町に入り、
青崩峠の麓にある「足神神社」でまずは
安全登山のお参りを。

足神神社は「足の神様」として名高く、
全国から参拝者が訪れるようです。

さてさて、９月の山は、下界より一足も二足も早く
秋の支度をはじめていました。

山腹のブナの森では緑が鮮やかだったものの、
山頂に生えるカエデの葉の中には、わずかに
色づきはじめたものもありました。

真夏に比べれば湿度も下がり、空気も澄んでいます。
遠く聖岳などの南アルプス南部の山々もよく
眺めることができました。
また、この日は様々なカタチに移り変わる
雲の様子も面白いものでした。

山頂ではいつものように皆でワイワイと
ランチタイム。登りつめた山頂で食べるゴハンは
やっぱりいつもウマい。

山頂で存分に展望を楽しんだ後、
記念写真をパチリとやって、同じ道を下山しました。

緑濃く静かな熊伏山で、皆さん何を感じたでしょうか。

奥深い山の魅力を感じていただけたかな。

コメント

☆KEEP　BLUE☆

こんばんは。

初コメになります。
今日は急遽休みにして娘とのんびり
ブログみたりしています。
スローライフしてます。
また、寄らせてください（＾＾）

失礼します。

2009・05・07（木）

トレッキング第４回「明神山」の様子

おそ～いご報告でスミマセン。
トレッキングのご報告、近日中に
どど～んとアップしていきます。

さて、トレッキングの第四回目の講座では、
愛知県鳳来にある明神山に登ってきました。

「明神山」は、標高こそ1016ｍと控えめなものの
登山口から山頂までの標高差が大きく、距離があり、
なかなか登りこたえのある山です。

歩き始めは乳岩峡と呼ばれる谷間の河底。
ツルツルとすべる大きな岩の上を滑らないように歩き、
しばらく歩くと、鬼岩と呼ばれる巨大な一枚岩が眼前に現れました！！

「鬼岩」と呼ばれるこの大岩。
岩壁には多くのフリークライマーが取り付き、岩登りを楽しんでいました。

実はここ鳳来乳岩峡は、クライミング（岩登りの）世界では、凝灰岩の一大エリアとして有名な場所で、全国各地から屈強なクライマーが集う、クライミングメッカなのです。

フリークライマー達の多くは、より難しい岩に登るのが目的。
カレッジで行なう「トレッキング」とは、ちょいと山を楽しむスタイルが異なりますか。
一口に「山登り」と言っても、様々なジャンルがあるものです。

大岩に攀じ登るクライマーに感心しながら、
我々トレッキングチームは一歩一歩山頂を目指します。

鬼岩を過ぎてしばらくすると、胸突八丁の頭が見え、
裾野に広がる紅葉が見事でした！（ちょっと終わりがけでしたが）

そしてこちらは黄色に染まった森の中。
晩秋の森、気持ちいいんだこれが。

６合目を過ぎると、部分的に痩せた尾根が現れます。
まるほど、まさに「馬の背」。
ちょっぴりスリリングなこの岩場を、手を使い、鎖を使い、慎重に登ります。

悪いヤセ尾根をやり過ごすと、東の視界が開けました。
幾重にも重なる山並み、赤や黄色に彩られた山の斜面は素晴らしかった！
いやぁ～キレイでした！
ここまできたご褒美でしょうかね。

山頂では今回のスペシャルゲスト、オカリナ奏者の平野先生による
山のコンサート。
清々しい山の空気に、オカリナの清らかな音色がよくマッチして、あ〜なんて贅沢なひと時。。

帰り道、

歩いてきた山を振返り、みんな誇らしげでした。

今回はなかなかの長丁場でしたが、

誰一人めげることなく、歩き通せました。
みんな、着実に山を歩く体力がついてきたようです！

EXTENDED BODY:

2009・05・27（水）

第５回トレッキング「沢口山」の報告

さてさて、お馴染みトレッキングの遅いご報告。

昨年末に登ってきました、奥大井・沢口山の
レポートです。

寸又峡の駐車場に8:00am到着すると
朝の冷え込みがそこそこあり、
冬の張りつめた空気を感じます。

風はなく、見上げる谷間の上空は快晴。
これぞ「紺碧な空」という感じ。

寸又峡の短い温泉街を通って、
左手の沢沿いを進むと、沢口山登山口に。

登りはじめからいきなりの急登です。
でも冷たい空気の中にあって、
この登りは、体温をちょうどいい感じにさせてくれました。

尾根まで一気に登って行くと、大間川を挟んで、
前黒法師岳が大きく見えました。

ここから見ると、ずいぶんとどっしりとした山容で、
とても、存在感のある山です。

小休止の後、左手に植林された杉林、
右手には光が差し込む冬枯れの樹林帯を
何度か急登と緩やかな登りを繰り返しながら進み、

振り向けば、朝日岳が大きく、後から背中を押される感じでした。

紅葉の時期は過ぎ、広葉樹の木々は完全に落葉しているため、
物足りないかとも思いましたが、逆に
冬枯れの木々のおかげで南アルプス深南部の稜線、
きれいな三角錐のピーク（たぶん、加加森山、池口岳）が、
いくつも眺めることができました。

尾根に出ても、風はなく、まったく静かなでした。
落ちた葉っぱが、幾重にも重なりあって、ふかふか。
ガサゴソと落ち葉をかき分けながら歩くのもまた気持ちよいものです。

さて、尾根を行くこと１時間。
一部開けた富士山の展望所があり、
きれいな雪を被った富士山を眺めるがキレイでした。

先へと進み、”鹿のヌタ場”と呼ばれる場所では、
ミズナラの巨木が聳え立ち、まるで、この山の主の風格。

この先、もう一登りがんばって、ようやく沢口山山頂に到着。
山頂からは富士山から南アルプスの展望が抜群でした。

赤石岳、聖岳、上河内岳、光岳、加加森山、池口岳、信濃俣、
大根沢山、
大無間山、朝日岳、安部奥方面の山々…
果てしない山並み。
さあ、本日の昼食は”チーズ・フォンデュ”。
下から担いできた食材は、
チーズ、白・赤ワイン、ウインナー、りんご、フランスパン。
山村講師のご指導のもと、皆で作業を分担して調理です。

うん、素晴らしく、美味い。
ここまで登ってきた達成感と展望は、下界では味の付けようの無いものです。

のんびりと山頂で過ごし、帰路は同じ道を下りました。
前には朝日岳、左手に、池口岳、前黒法師岳の眺め。
冬の日差しは、何ともやさしく、
いつまでも、留まっていたい気分でした。

登山口も間近に迫った頃、太った？カモシカに遭遇という
サプライズがありました。

下山後は、お決まりの温泉、寸又峡温泉でゆっくり汗を流します。
山村講師の計らいで、”翠紅苑”で入浴。
洒落た佇まいで泉質もよく、疲れが取れました。
ただし、美人になったかは？？？ですが。

寸又峡までの道のりは少し遠いこともありますが、
住んでいる街とは、何か別な世界が、
ここ奥大井にはあることを感じる山行でした。

2009・06・02（火）

第６回トレッキング「真富士山」の報告

第６回目のトレッキングは、
年明けに真富士山へ登ってきました。

講座も６回目ともなると、受講生の
皆さんもすっかり山歩き慣れてきた様子で、
足並みが揃ってきた感じ。

登ることに精一杯だった夏山から、今は山を
愉しむ余裕が出てきた様子が伺えます。

そして、足並みとともに、回を追うごとに
受講生同士のつながりが濃くなり、それとともに
講座の雰囲気がとても明るく賑やかになっている

感じが、スタッフとしてとても嬉しく思います。

さてさて、前置きはこの辺で、
登った真富士山は安倍川に沿って伸びる長い尾根の
一角です。
標高は約1300ｍ。
山頂付近には多少の積雪がありました。

８合目付近から多くなりはじめた雪と、
斜面とが相まって、スリッピーに。

ここでアイゼンの出番です。
アイゼンは雪や氷の斜面を登るための
鉄製の「爪」。

慣れない手つきながらも、アイゼンを装着したら、
もう気分はアルピニストです。

葉を落とした広葉樹の林間からは、遠く南深南部の山々が、
白く気高く、まさに8000ｍのヒマラヤ山脈さながらに見えるじゃ
あ～りませんか。ス～バラシイ！
こんな気分を味わえるのも、冬山ならでは。
空気の澄んだ冬の景色は、クリアできれいです。

山頂では、お正月開けの登山ということもあり、
鏡開きでお汁粉を皆さんに振舞いました。
もちろん調理は山村隊長！

皆でお餅を焼きながらアツアツのお汁粉で
温まりました。

下山は硬く締まった雪や一部凍った斜面を
スリップに気をつけながら
アイゼンの爪でザクザクやりながらの下り。
これも冬山歩きのならではの趣きです。

１月の山とは思えないくらい温かく、穏やかな
天気に恵まれた山歩きでした。

冬山、雪山というと、険しい、危険、遭難という
ことをイメージされる方が多いと思いますが、
山を選び、タイミングを選び、装備を調えれば、
冬の山歩きを愉しむことができる場所が、そんなに
遠くない場所にあるんです。

皆さん、冬にしかない、山の楽しさ、
魅力を感じていただけたでしょうか？

2009・06・05（金）

第７回トレッキング「藤原岳」の報告

第７回目のトレッキング講座は、
5:30amに掛川市役所を出発。
曇り空でこの時期では、早朝は寒く感じました。
それに、風が強い状態での出発でした。

東名阪道：桑名ICから西に向かい、登山口となる”いなべ市藤原町”の
聖宝寺近くの私設駐車場を利用しました。8:30amころ到着です。

山行準備、準備体操の後、8:50am出発。
出発すると左手前に藤原岳が見上げることができます。
かなりの山の大きさと曇り空と強風でこの先、
ちょっと不安な気持ちもありましたが、みなさんと
和やかな雰囲気の出発でした。
また、里山に咲く桜も満開で彩ってくれました。

聖宝寺の脇を通過して、沢沿いに急登を登って行くと、
一合目から順に標識が示されていました。
予想通りの急登で、ゆっくり進んで行きました。

フクジュソウが山肌を被う３月下旬～４月上旬には、
春を求めて多くのハイカーが訪れるという藤原岳は、
この日も賑わっておりました。
後から多くの登山者が追い抜いて行きましたが、
鈴木渉講師の花、植物の説明を
聞きながら、我々はゆっくり登って行きました。
それらには、ミヤマカタバミが多く、イチリンソウも
見れました。

七合目あたりで見上げると、まだまだ急登な感じで
山頂付近が見え始めました。

八合目まで来ると、大貝戸の登山道と合流しました。
ここまでで、歩き始めてから約２時間でした。
ここで小休止しましたが、風が強く一気に寒さを感じました。
ここから眼下に街の展望が確認できて、
随分と登って来たなぁ～と感じました。

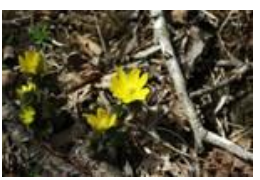
この先、雪融け、あるいは昨夜の雨のためか、
泥田のようになった登山道が始まると、
フクジュソウがちらほらと見え始めました。

この時点では、曇り空で日差しが弱いためか、
花びらはしっかりと開いていない状態が多かったのです。
黄色い花びらは、ひっそりと佇んでおり、
強風なのに私たちに春を告げているようでした！

この先、山頂付近までは足場も悪く、急登に難儀しながら
ドンドンと登り詰めて行きました。
そこはフクジュソウが咲いて、私たちを大いに元気付けてくれました。
みなさん、それぞれに写真を撮ったり、
花の観察して、ゆっくりと登って行きました。

すると藤原山荘に到着しました。
出発から約3時間のお昼前でした。
ここは山頂付近でいくつかピークが見えていましたが、
今までの登山道とは異なって大きな草原のように平らで、
石灰岩が面白く並んでおり、登りで疲れ私たちを、
優しく歓迎してくれました。

この辺りまで来たところで、日差しも強くなり暖かくなりました。
さらに、フクジュソウも大きく花を広げて、私たちを迎えてくれました。



風が穏やかな場所を選び、昼食。
休憩の後、藤原岳最高峰の天狗岩まで行き、
その展望を楽しみました。鈴鹿山地の山々が
幾重にも連なっておりました。

また、この場所で受講生のみなさん、
思い思いにスケッチをしていただきました。
各自、フクジュソウだったり、山の風景だったりと、
個性的な作品に仕上がっておりました。

下山は来た登山道を戻って行きました。
この日は多くの登山者がこの藤原岳を訪れていて、

登山道が急な下りとぬかるみ、不安定の石、木の根で
渋滞になるくらいでした。

駐車場に戻ったのは、4:30pm過ぎ。
長い歩行時間と標高差1000m以上あった今回の藤原岳山行では、
みなさん、お疲れのことだったと思います。
特に下りでは、気を遣いましたね。
私も下山では、３回ほど転倒してしまいました。
大事には至らずでしたが、気の緩みは大きな怪我に
つながります。十分注意して楽しいトレッキングを
心掛けたいと再認識して下山しました。

みなさん、お疲れさまでした。

第８回トレッキング「茅ヶ岳」の報告

週連続でトレッキング講座となりました。
本来３月に予定していた茅ヶ岳は雨で延期となり、
4/12開催となりました。
茅ヶ岳は日本百名山を書かれた深田久弥氏
終焉の地で、多くの登山者が訪れる人気の高い山です。

5:30amに掛川市役所を出発。
日曜日の早朝で、道路は空いていました。

2週連続であり、トレッキング講座も終盤で、
参加される受講生の方々も山行に慣れて、
準備も手際よくなっていました。

歩き始めは9:20am。
駐車場から林道を歩き始めると、
日差しが増して汗ばむくらい。

気温が高いとはいえ、まだ木々には
それほど芽吹きは見られませんでした。
その分、森には十分の日差しがあり、
受講生のみなさんは和気藹々と登って行きました。

既に雪は見られず、足下もしっかりしていたので、
歩きやすく、歩き始めてから１時間経過して、女岩にて休憩しました。
雪解けが少ないためか、伏流水の量は少なかったです。

この先は、急登ながら歩きやすく、落ち葉を踏みしめて
標高を上げて行きました。
受講生のみなさんがゆっくり、ゆっくりと
味わいながら登って行きました。

登りつめると稜線に出ると、正面に金峰山が大きく見えるのです。
ここから見る、奥秩父の山塊の大きさとその山並みを
受講生に味わって欲しかったので、見ることができて
スタッフとしてほっとしました。

暫しの休憩で景色を楽しんだ後、

さらに岩場を登って行きます。

注意しながら進むと深田久弥氏終焉の地となり、
哀悼を意を込めて、黙祷。

この先は足場が悪く、急登が続いていましたが、
皆さんを励ましながら、何とか山頂に到着しました。
歩き始めて約2時間30分。11:45am ころでした。

風もなく、日差しが暑いくらいだったのですが、
春霞で若干霞んでいて、遠くの山がはっきり見えなかったのが
少し残念でした。

富士山は山頂がホンの少し、北アルプスは全く見えません。
それでも、八ヶ岳、金峰山、国師ヶ岳、御座山、そして、
甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、仙丈ヶ岳。。
雲に隠れながらも、それぞれに個性的な表情を
覗かせてくれていました。。

山頂は広いものの、多くの人が訪れ狭くも感じましたが、
皆さんゆっくりと、食事休憩やスケッチ、展望を

それぞれに楽しんでおられました。

藤原岳を欠席されたM本さんは、ささっと水彩絵の具で描き、山頂にいた他の登山者の方も感心しておりました。
（帰宅してから分かったのですが、煙が見えていたのは山火事でした。）

山頂で約１時間以上、楽しく過ごした後は下山です。
厳しい下りをジグザグに、転ばないように、進んで行きました。

防火帯の尾根道を下り、見上げると、
随分山頂が上だったことを感じました。
下山の時間は約１時間３０分であっという間という感じ。

駐車場に戻る前に深田公園で休憩し、
文学碑を見学。
深田久弥氏の云われた
「百の頂に 百の喜びあり」
が、記念碑に刻まれ、輝いていました。

季節を変えて、また訪れたい茅ヶ岳だと思います。
そして、受講生の皆さんと今日も楽しく、
山行できたことに感謝して、帰路につきました。

オマケ：

この茅ヶ岳に帰りに北杜市にある日本三大桜の一つ、

”山高神代桜”を見学。

多くの人が桜を見に訪れていました。

樹齢2000年と言われているこの桜は、支えるための杭が何本もあり、

それでも花は咲いて、散り始めていました。

時間を越えて現代まで息づく、大きな存在感と力強さを感じる桜を見ることができました。

2009・06・30（火）

最終回「乾徳山」の報告

トレッキングの最終回は、
奥秩父の南部に聳える乾徳山（けんとくさん）。

第二回目に予定していたテント泊山行が
雨で流れ流れて最終回になりました。

出発の数日前から天気とにらめっこしていましたが、
天気予報は変わらず雨振りの予報。

これまで八回の講座では、雨のリスクを避けてきました。
そのため、受講生のほとんどがカッパを着ての登山は、
経験がありません。

山の自然を丸ごと感じ、味わうことが登山の楽しみ
の一つだとすると、しっとり雨にぬれた山の味わいを
知っていただき、様々な気象条件を経験していただくことも
必要だろうと、予定通りおこなうことにしました。
もちろん明らかな荒天、極度の悪天ならば話は別ですが。

ということで出発。

初日は雨の中車を走らせ、朝霧高原を経由しながら
のんびり目的地へ向かいました。

途中、朝霧高原で一休み。
お洒落な店内の「Cafe Auguri」でランチを食べて、
しばしのんびりとくつろぎました。

朝霧高原から目的地へはまだ半分といったところ。
腹ごしらえがすんだら再び車を北へと走らせます。

富士五湖を過ぎると、ありこちに「ほうとう」、
「ぶどう」「ワイン」などの文字が躍る勝沼、
塩山のまちに入ります。

さらに北へ車を走らせ、細い林道を辿り、

ようやく着いた大平牧場は標高約1350ｍなり。
今日はここでテント泊です。

雲を抜けたのか、下界で結構降っていた雨が、
上ではほとんど降っていませんでした。
皆さん日ごろの行いがいいんですね☆

着いたら早速今宵の宿の準備。
多くの方がテント初体験で、慣れない手つきながら
皆でテントの設営をしました。

そしてタープ２張にテント４張が見事完成。

テントを設営したら、今度は晩御飯の準備に。
トレッキング2008を締めくくる晩餐はカレーだ！

静かな草原でコーヒーを飲みながら、皆で行なう
食事の準備はまた楽しいものです。

そしてそして、食事の準備が整ったら、
待ちに待った乾杯の時間！

山に登るためか、はたまたこの乾杯のためにここまで
着たのか・・・
ん～目的はたくさんあっていい！

アルコールで身体をあたため、豪快にカレーを
ほお張りながら、参加した受講生の皆さんから
これまでの講座を振り返っていただき、
一言ずつ感想をいただきました。

感想のいくつかをご紹介すると、

「同じ山でも毎回違うので、季節を変えたりすれば
今まで行った山でもまた行きたい」

「山を歩く楽しさを知り自分の中の世界がひろがった」

「最初は半信半疑に片足を踏み入れたが、今では両足
どっぷり浸かってしまっている」・・・etc

というような感想を聞かせていただきました。

受講生の皆さんが、この講座を通じて、

自然の楽しみ方や、山で過ごす時間の楽しさ、
仲間と歩く楽しさを感じていたただくことができたのなら、
運営スタッフとして本当に嬉しく思います。

さてさて夜も更けアルコールが底をつく頃、キャンプサイトを管理する
大平荘のご夫婦からサンショウの葉っぱの佃煮の差し入れがありました。
ピリリとした刺激が癖になる、新鮮な味でした。
おばさん、ありがとう。

酒を酌み交わし、仲間たちと大いに語らい、
ランタンの温かい明かりに包まれながら、
和やかな山の夜を楽しみました。

皆で大量のアルコールを消費しましたが、幸い大トラに変身する者もなく
宴会は無事終了。
気がつけば雨はすっかりあがり、山の夜は静かに更けていきました。…zzz

翌朝。
テントを打つ雨の音で目が覚めました。
時計を見るとAM4：00。

同じ時間に目を覚ました山村親分と、
皆が起きてくる前に一緒に朝食の準備にとりかかります。

それにしても下界の喧騒から離れた山の朝は、
こんな雨降りの日でも気持ちがよいものです。
心が浄化されるような、なんとも清らかなひと時です。

さて、今朝はスクランブルエッグとウインナー、サラダをロールパンに豪快に挟んでほお張ります。それと、デザートは荒っ

ぽく切った無骨なリンゴ。
細かいことは気にしないアウトドアの食事は豪快で爽快で愉快です！

食事を終えると、幸い雨も霧雨がパラつく程度にあがりました。
ただ、今回は大きな岩場を抱える山頂。
登頂は断念し、天気の様子を見ながら中腹の扇平を目指し、
ぐるりと歩いてくることにしました。

歩き始めは気持ちよく広がる牧場の草原から。
やがて樹林帯へと入り、尾根にとりつきます。

雨に濡れた森の緑はどことなく生き生きとしている感じ。
また白い霧が立ち込めては消え、新緑の森はとても幻想的です。

目指す扇平に近づくころ、白く清楚なオオカメノキの花や、
霧の中に浮かびあがる薄紅色のアズマシャクナゲの花が目をひきました。

扇平の草原からは、吹き上げる風と雲間から覗く街並みが
気分を盛り上げてくれます。

扇平で記念撮影をパチリとやって、天候不順につき、
今回はここで山を下ります。

扇平の草原を下ると、美しいシラカバ林の中に白い
非難小屋が佇んでいます。

絵本にでてきそうな、とても雰囲気のよい場所。

晴れていれば、ここにテントを張って、のんびり
山頂を目指すのもいいでしょうね。

こちらはカラマツの葉っぱの根元に集まった雫。
まるで水晶のように輝いていました。
雨の日ならではのご褒美でしょうか。

下山時は心配していた雨もほとんどあがり、無事大平牧場へ。
テントを撤収して、帰途につきました。

帰り道は少し寄り道をして、恵林寺を参拝。
恵林寺は、今回登った乾徳山で修行を積んだという
夢想国師が開いたお寺で、武田信玄が眠っています。

山歩きを通じて、山の美しさだけではなく、こうした
山と人との関わり、暮らしとのつながりや歴史を知ることもまた、
楽しみ方の一つかなと思います。

これにて2008年度のプログラムは終了となりますが、
受講生の皆さんには、この講座が終わってまも是非山歩きのある生活を楽しんでいっていただきたいと思います。
日本にはまだまだ面白く、美しく、魅力的な山が
たくさんありますから。

一年間ありがとうございました。

2008・07・18（金）

第1回喫茶と器学の報告～作陶・成形

いよいよスタートしました。3年目を迎えて更にグレードアップした喫茶と器学の始まりです。集合は、いこいの広場。

なんとこの日は高校野球の予選大会が掛川球場で行われており、駐車場は大賑わい。見つけることが、一苦労な状態なために代表がじきじきに入り口付近でお出迎え。何もしなくとも汗だくになる、暑い一日となりました。

車を乗り合わせ、竹廣工房へ移動。車中では一年目を受講下さったＹさんを中心にプログラムの話題で会話が進みあっという間に工房到着。

竹廣工房にて。

予定より早い到着。なんと竹廣先生自ら、玄関で出迎えてくれました。先生から、陶芸の基本＝形・焼き・色つけなどをレクチャーいただき、続けてスタッフから年間スケジュール等ブリーフィングを行いました。

土から器へ。

まずは、道具を用意し土が配られます。そして先生がレクチャーとともに見本を作成します。続けて各人配られた土をちぎっては縄状の棒をのせてはくっつけ、のせてはくっつけで積み上げていきます。

大きくなるにたがって、形が崩れていきます。先生のようにチョチョイとつくるようはいかず。四苦八苦している中、第1回を受講しているＹさんは簡単に仕上げていきます。それに続けと一年じっくりと検討していたＮさんも慎重に仕上げていきます。BGMにノリノリのＫさんは独創的にな作品に仕上げています。いい加減なワタクシも、先生の奥様に手を入れていただき、何とか形になりました。

乾燥に敏感な「土」を扱っているため、空調はご法度。暑い～なんて口ずさんでいた皆も、一心不乱に没頭し、暑さも、毎日の喧騒も、忘れてしまいました。

作品は当初、二つの予定だったのが小人数で行われたため、さらに一つ。一人三作品が仕上り、かなり得した気分です！！

第２回喫茶と器学の報告～作陶・削り

第２回目の喫茶と器学のプログラムは「削り」です。　実は先日の成型の段階で、私の器は少々、メタボでしたので、今日は削りでスレンダーにしなければなりません。となりのＮ藤さん、向かいのＹ子さんは、本人も器もスレンダー！

さあ！と気前よく削っていたら奥様から「じゃが芋じゃあないのよ、優しくね」と優しくアドバイス！気持ちばかり焦ってました。それからは、先生と奥様にひとつひとつ見て頂きながら、私自身もゆっくり器を見つめながら器に向かう事ができました。

角度を変え、道具を変え、かなりステキなマグカップ・煎茶茶碗がカタチになりました。幾度も器の内側に手を入れ感触を確かめ、外側の線を眺めて、ひと削りひと削りでした。暑くて汗が出たのは最初だけ！後は汗も忘れていた、今年最高に暑い一日でした。

2008・10・04（土）

第３回喫茶と器学の報告（9/20）

前回の器作りから２ヶ月ぶりの喫茶と器学。

今回はお茶摘みと釜炒り茶作りを体験しました。

午前中は日坂のお茶農家・大塚博史さんの茶畑で楽しいお茶

摘みです。

前日まで台風の影響が心配されましたが、日頃の行いがよいのか朝には嘘みたいな晴れ間が。

それでも当初予定していた日坂・御林の茶畑は足元が悪いということで、急遽他の茶畑に案内していただきました。

近年人気の新品種「つゆひかり」の茶畑です。

大塚さんからお茶の摘み方の基本的なことを教わり、さっそく畑に入ります。

最初は隣の人とおしゃべりしながらのんびりお茶摘みを楽しんでいたのですが、茶葉を入れる袋はいっこうに膨らまず次第に寡黙になるメンバー。

時どき計量してもらってノルマ達成まで頑張りました。

作業後にいただいた冷たいお茶の美味しかったこと(^_^)v

お茶摘みのあとは大塚さんのご厚意で御林のご自宅で食事休憩をとらせていただきました。

道すがら、当初お茶摘みをする予定だった「さえみどり」の茶畑を見学。

ほかにも「やぶきた」「あさつゆ」などの畑も見せていただき、品種ごとに茶樹の形や茶葉の色が違うことを実感。

日本茶とひとくちにいっても奥が深いですね。

はきだしから見渡す茶畑と涼風の心地よい大塚さんのお宅では、またまた美味しいお茶とお漬物をふるまっていただき、みんなで談笑しながら楽しいお弁当時間を過ごしました。　午後の釜炒り茶作りは、小泊先生特製の電子レンジで作られた蒸し製のＷｅｌｃｏｍｅ　Ｔｅａでスタートです。

電子レンジでお茶が簡単に作れるんだから驚きです。

まずは、小泊先生に『茶葉の炒り方』のお手本を見せてもらいます。

熱したホットプレート上で茶葉を焦さないように持ち上げながら混ぜます。

次にホットプレートから茶葉を取り出し、素手で手もみ。

この工程を何回か続け、茶葉の水分がなくなったらホットプレートにキッチンペーパを敷いて、茶葉をおいて寝かせます。

茶葉が乾燥すれば完成です。

いざ二人一組になって実践してみると熱さとの闘いです。

他のテーブルの様子を見たり、みんな楽しみながら作ってましたね。

１回目の人の中には、茶葉が少量だった為、熱が通りやすくなり、容量の半分ぐらい粉茶になってしまった人もいましたが、２回目の人達は少し茶葉を増やしたところ、なかなか良いお茶が完成！

また、出来上がった茶葉をよく見てみると、白くなっている箇所があります。

小泊先生に聞いたところ、茶葉の芯の部分で一番美味しいとのこと。

炒りすぎたからのではないのですね。

各テーブル、どんな茶が出来上がっても満足そう。

来年のお茶会では、どんな味になっているのか楽しみですね♪

2008・11・05（水）

第４回喫茶と器学の報告(10/19)

すっかり遅くなってしまいましたが、先月行われた喫茶と器学のご報告です。

前回までは器作り・お茶摘み・釜炒り茶作りと結構ハード（？）な内容でしたが、今回はお茶をいただきながらのゆるりとした座学でした。

第１部（9:30～10:30）はO-CHA処チャ茶にて小泊重洋先生の茶学。

美味しくお茶を淹れるには、というお話から。

眠気覚ましのお茶、空腹時のお茶、食後のお茶、ゆったりしたいときに飲むお茶、など、TPOに合わせた淹れ方が大切というお話をうかがったあとで、実際に小泊先生から貴重なお茶をいろいろと淹れていただきました。

まずは、今年の静岡県のお茶品評会で一等一席を獲得し農林水産大臣賞を受賞した原田総合製茶さんの深蒸し茶。

掛川市は深蒸し茶の部で今年の産地賞も受賞しているので、名実ともに日本一のお茶ということになるそうです。

このお茶は火入れ等の仕上げをしていない荒茶なので外観はとてもきれいだけれど、香ばしさはなく水色もあまりきれいに出ないので、初めて飲んだ人はビックリするそうです。

でも口中から若々しい青い匂いがしてお茶ってやっぱり植物なんだなぁと実感しました。

次に登場したのが、洞爺湖サミットで各国首脳にふるまわれたというサミットのお茶。

県品評会でも常に上位入賞している天竜の太田昌孝さんの上

級煎茶（普通蒸し）です。

こちらも針のような美しい外観。

でも淹れていただいた一煎めのお茶にみんなびっくり。

水色はほとんどなく、渋みや苦味もなくて旨みだけがつまったおダシみたい？

海外の首脳たちはこのお茶を飲んで日本茶をどんなふうに感じたんでしょうね。

続いて、世界緑茶コンテスト最高金賞受賞の静岡東平玉露。

岡部の前島東平名人が作った旨みの強い玉露です。

しずく茶という一人用の小さな茶器でほんとうに雫みたいにゆっくりじっくりちょっぴりのお茶を味わいました。

甘くて濃くて美味しい〜。

お茶をいただいた後の玉露の茶葉にポン酢をかけて食べたのも、やわらかくて美味しかったです。

他にも日本産の紅茶の紹介があったり、深蒸し茶が濃く入りすぎてしまったら？といったお役立ち情報を教わったりして、楽しく美味しい茶学の部はなごやかに終了しました。

第２部（11:00 〜 12:00）はたまり邸imuimu に会場を移して竹廣泰介先生の陶器学。

たまり邸の季節感あふれる素敵なお庭を眺めながら、講義と

いうよりも竹廣先生とのゆったりとした語らいの時間を設けていただきました。

お話の内容は器だけにこだわらず、日本人の感性や美意識について、日本人が好んできた絵画や陶芸は、芸術の転換期や現代美術について、などなど・・・。

竹廣先生が焼き物にひきつけられたきっかけや思い出話なども交えながら、楽しいお話があっちへいったりこっちへきたり。

少人数の座学ならではのアットホームなひととき。

受講生からは「子どもの個性・芸術性を伸ばすためには技術を教えるべき？教えないべき？」「陶器と磁器の急須で淹れたお茶の味がちがうのはなぜ？」「場面にふさわしい器の選び方は？」などの質問が出され、そのひとつひとつにうなづきながらにこやかに答えてくださる竹廣先生の笑顔が印象的でした。

その後も皆さんで一緒に昼食を囲み、ぽかぽかと笑顔いっぱいののどかな交流会。

同じ空間で同じ器で同じものを食べ同じお茶を飲み言葉を交わす。

それだけでお互いの心がぐんと近くなる気がします。

スローライフってこんなに身近なところにあるんだなぁと改めて実感。

とっても満ち足りた気持ちになれた喫茶と器学、次回の講座が楽しみです。

2009・03・11（水）

第５回・第６回　珈琲講座

１月と２月に開催しました、第５回、第６回の珈琲講座を合わせてご報告します！

今期リニューアルされた喫茶と器学の目玉でもある”珈琲講座”。
講師は静岡市で”創作珈琲工房　くれあ～る”を営む内田一也氏。

会場は掛川市満水の一色公会堂は、スタッフも勿論、全くすべてが初の試みでのスタート。まだ、花冷えする季節ゆえに会場の仕立も大あらわ、講師も初会場入りで、指示が飛び交いました。

自称コーヒー通の受講生とスタッフが集まり、少々緊張気味で講座がスタート！湯気に包まれながら豆についての知識から学びます。

国際審査委員として原産国の品評会に出席し、自ら原産国の農園へ出向き、豆について調べあげるスペシャリストの講師。生産国は殆どが発展途上国、農園の規模や労働者に伴う様々問

題、なぜゆえにフェアトレードなのか？その話に皆引き込まれていきました。

続いて、目の前で見る焙煎の工程。香ばしい香りが漂います。まさに、コーヒー豆の色の変化と共に室内がコーヒーの香りで癒されていく様子が、皆さんの表情から感じられます。
いよいよコーヒーの入れ方・・・そして試飲！！
講師おすすめはカフェプレス。
素材がよいからこそ、シンプルな手法で美味しコーヒーが飲めること。
豆は高い価格ではなく、豆の個性を評価し選ぶこと。厳密なレシピではなく、個々の好みにあった濃さ・味わいを自ら見つけること。

「日本茶と変わりないのですよ」と、わかり易いたとえに一同納得の様子。濃さや香り、まさに好みは百人十色ですね。

そんな講座を受け、更にコーヒーのトリコになったOさんのコメントです。

珈琲大好きな私にとって、とても楽しみにしていた今回！
でも普段から豆はちょっと贅沢級、手挽ミルで香りを楽しみながら
フィルターでコーヒーをいれてるから、ちょっと通なのよね〜と自負して参加（笑）
おいしい珈琲はいれ方より豆！ちゃんとわかる人が選んだ豆じゃないと！そうよね、やっぱ豆ね。うちは大丈夫、ハワイコナにブルマンと思っていたのに・・・。
ええっ名前じゃない？高けりゃいいてもんじゃないらしい。
コーヒーに愛情をもつ味のわかるプロが選んだ豆じゃなきゃだめなんだ〜(*_*)
内田さんのコーヒーに対する愛情を感じられる講義の中、みんなでわいわい飲むおいしいコーヒーの味は格別でした。
その後静岡に出向いてクレアールさんでおいしい豆とカフェプレスを即購入したことは言うまでもありません（笑）
我が家の食卓は毎朝コーヒーのよい香りが漂ってます♪
珈琲講座さん、出逢いと発見をくれてありがとう〜

特別に考えず身近に、楽しみましょう！
まさにライフスタイルに合わせて、ということでしょうね。

2009・03・18（水）

第７回「すろ～なお茶会」

第７回「すろ～なお茶会」の報告

振り返ってみれば自ら器をつくり、摘んだ茶葉を釜炒り茶に仕上げ、真面目に座学を学んだあと、はじめて取り入れた珈琲の味体験と進めてきました。

オプション講座を除きフィナーレとなったお茶会。
会場にはご指導いただいた陶芸家・竹廣泰介氏ご夫妻、茶学専門家・小泊重洋氏、茶業家大塚圭子氏、そして珈琲専門店主・内田一也氏をお迎えし、掛川城と二の丸美術館に囲まれた本格的な茶室で開催しました。
受講生のほか企画運営に関わったスタッフ、市民イベントのお茶会の仕掛け人でもある山本さん、鈴木さんの名コンビのお力もお借りし、総勢１３名の参加となりました。

開催に先立って広間中央に想いをカタチにした湯呑、ぐい呑み、抹茶茶碗、コーヒーカップなどを包装したまま机上に並べてみました。
包装が解かれ、目にした瞬間“これが私の器？素敵じゃん！良かったあ！という感動の声があちこちからこだましていま

した。
興奮やまないなか、講座を振り返っての思いや講座で伝えきれなかったことなどが待ちきれないように講師から次々と語られた。
聞き違えがなければ、文化とはなにか？と自問した講師の共通の概念として楽しむことだ！と締めくくられた解釈が印象的でした。

こんな前座を終え、いよいよ茶会のはじまりです。
先ずは、自ら仕上げた釜炒り茶をこの日のために梅廼家菓子舗さんに特別作っていただいた和菓子を口にしながらお手製の器でお披露目を兼ねて、煎茶では味わえない芳しい香りと味を楽しんでいただきました。
つづいて小泊先生ご持参の韓国の釜炒り茶が提供されました。これも味は薄い感じでしたが風味あるもので海外版も居ながらにして味わうことができましたね。
また、予定には入っていませんでしたが、掛川の現代美術研究

会のイベントで使用された松下茶園の掛川産抹茶も披露され、はじめて試飲される方がほとんどでしたが、なかなかいけるじゃん！と地産、地消を期待する声も多かったです。
会の締めくくりとして、受講生、スタッフから器づくりの楽しいひとときの思い出や講座全体の感想、カレッジへの期待など…が熱く語られ、講師の方々からも講師同士の交流の場を提供していただいた！との感謝の念もいただき、名残欲しい雰囲気漂うなか、ライトアップされた掛川城を横目に眺め閉会となりました。

コメント

yoshie

素適な茶会でした。

‘ほんわり’した良い時間をいただきました。

先生方、受講生の方々、皆々様。

ありがとうございました。

そして、奥で万全にセッティングして下さった、

お二人様に感謝です。

茶摘っ娘

受講生＆スタッフ、講師の皆さん、ステキなお茶会で

よかったです。

器作り、お茶摘み、釜炒り茶は楽しかったと思いますが、

二の丸茶室でのお茶会は、スペシャルなお茶会になったんでしょうね。

2008・06・09（月）

オーガニック・ファーミング体験会の報告（6／7開催）

好天に恵まれた去る6月7日，「オーガニック・ファーミング講座」の体験会を開催しました。

「米を作らずして，日本人は語れない！」をテーマに掲げた今回の体験会。会場となったキウイフルーツ・カントリーJapanには，体験希望の男性5名，女性5名，お子さん1名，犬1匹のが集まり，総勢11名と1匹で田植えに挑戦しました。

まず，田んぼの脇で講師の平野さんから，田んぼの機能とその役割について説明を受けました。当たり前のように身の回りにある田んぼは，食物を提供してくれる以外にも，環境に多大な

貢献をしているとの事。そして，一列になって田んぼの畔を歩いて田んぼ言葉を学びながら田んぼの構造を見て回りました。水中生物もたくさん観察でき，先ほどよりも田んぼがぐっと近くなりました。

講師を先頭に，田んぼに入る水の水路を遡り，民家の脇をすり抜けてみると…

そこは手入れの行き届いた里山の入り口でした。先ほどの田んぼに流れ込んでいた水は大きな川の支流から来たものではなく，この里山の栄養を運び込んでいたのです。

田んぼに戻って，いよいよ田植えです。それぞれ苗のかたまりを手にしてわくわく感が高まります。「苗を３本ほどを取って，ピンと張られた糸のマークに従って第１関節まで埋まるぐらいに植えるように」と指示を受けました。

田んぼに足を踏み入れると，ず～んと沈む足の裏に感じる泥が柔らかく，温度の変化も気持ち良い。移動する糸に合わせて，みんなで揃って植えていきます。参加者の皆さんが夢中になって植えている姿を眺めると，田んぼや先ほど訪れた里山の一部として受け入れられたように見えました。途中，苗の列が増えたり減ったりしたのはご愛嬌。達成感の笑顔です。

田植えの後は，お昼の食材を求めてキウイフルーツ・カントリー内を探索。天ぷら用にさまざまな山菜，花，キウイの蔓，竹の子などを収穫。デザート用に夏みかんと清見オレンジを収穫していざ蕎麦研と合流。その場でダッチオーブンを使って天ぷらを揚げました。打ち立て茹でたてのおいしいお蕎麦とのコラボ。蕎麦研の皆さんには場所まで提供していただき大変お世話になりました。

午後の部は，キウイフルーツ・カントリーに場所を移して持ち帰り用の苗を用意しました。ポットとシャベルを持って土を確保。各自かぼちゃの苗を選んでポットに移しました。トマトは，成長中の苗の一部を切ってポットに挿しました。１本の苗が何倍にも！それぞれポットを片手に講師に真剣に質問している姿が見られました。

お持ち帰り苗の準備ができたところで集合。慣れない作業で疲れたはずの皆さん，穏やかな笑顔を浮かべていました。「今日自然の中に身を置いてみて，普段の自分がどれほど疲れているか分かった」「カエルや虫は苦手だけど，自分が一段降りて田んぼに入ってみたらそれほど嫌じゃなかった」といった感想が聞かれました。

自分の立ち位置を変えると，見えてくるものも変わってきます。体験会では田植えを通じて田んぼの役割や機能を考えてみました。これから始まる本講座では，場所を畑に移して有機農法による野菜づくりを基礎から学びます。土作りから始め，野菜栽培や管理，収穫の喜びなどを体験し，自然に即した生き方，食の豊かさ，サスティナブルなあり方などを考えます。

オーガニック・ファーミング講座は７月19日から始まります。

野菜栽培に興味があるけどどこから手を付けて良いのか分からない方，やってみたいけど畑がない方，ぜひ一緒に畑を耕しませんか？面白い発見がたくさんあるはずです。

体験会参加者のみなさま，お疲れ様でした！

コメント

東宮　照男

裸足で畦道、裸足で田植え、泥水遊びが最高に楽しかった子供の頃に帰ったようです。小さなお子さんもいて、かわいいワンちゃんもいて、バラエティに富んだメンバー、それに美男美女のスタッフの方と素晴らしい先生。おまけにそば打ち研究会の皆様の美味しい蕎麦と山野草のてんぷら。キウイはじめいろんな植物が実だけでなく、茎も葉っぱも美味しく食べられることを初めて知りました。とにかく至福の時の連続・・・・・これからの本番が待ち遠しいです。

2008・07・28（月）

第1回オーガニック・ファーミング講座の報告(7／19開催)

待ちにまった，オーガニック・ファーミングが7月19日に始まりました。

第1回目の講座は有機農法の基礎となる「土作り＆畑作り」。会場のキウイフルーツ・カントリーJapanには，今シーズン

の受講生８人中７名が集まり，講師の平野さん，農援隊４名，スタッフ３名の初顔合わせとなりました。

まず，６月の体験会で田植えをした田んぼに移動。田植えから42日経った田んぼをチェックし，講師からウォッチング・ポイントなどの説明を受けました。田植え直後と比べると，稲の背が伸び葉の数も増え，田んぼの密度が濃くなっていました。稲が伸びる条件は，「光」「温度」「水」「肥料」。稲の色や生育状態を見て「水」をコントロールし，元気な稲を育てるための手助けをします。

次はキウイフルーツに戻り，お昼のおそうめんの薬味となるミョウガを採取しました。

いよいよ，我らの農園，「風と土の谷農園」へ。キウイフルーツの棚の下を歩き，畑に向かいます。途中，講師から「よい

土」について説明が。そして，よい土を作るために堆肥作り。山に入って原料となる落ち葉を集めました。みんなで集めた落ち葉は，コンパネで作ったコンポスト・ボックスの中へ。「落ち葉」「堆肥」「土」「魚粉」を順に入れ，それを何層にも積み重ねます。よい堆肥ができますように，微生物の皆さん，よろしくお願いします。

さて，お昼の前にもう一仕事。おそうめんの器を自分で用意します。どうやって？山から切り出した竹で。暑い中で慣れない道具を使った肉体労働の後には，おそうめんとミョウガがぴったり。竹の器もおいしさ＆涼しさを絶妙に演出。用意した人数×1.5 倍のおそうめんは，あっという間になくなりました。デザートの夏みかんも美味。

一休みした後，午後からは畑の準備。トラクターの運転体験です。トラクターが通った後は，草だらけの畑がマジックで線を引いたように茶色に変わっていきます。トラクター・インストラクターのＴ川さん，ありがとうございました。作付けする

までには，あと２～３回ほどトラクターをかけ，堆肥を入れて準備が必要となります。

トラクター体験と平行して，ニンジンの種取りをしました。種用に残しておいたニンジンの花が乾燥したものを採取して，日陰で種を取りました。遠くにトラクターの音を聞きながら，講師に質問をしたり雑談しながら。

全員がトラクターで畑を２往復したところで，第１回目の講座は終了となりました。トラクターだけでなく，ハシゴやのこぎりを使ったりとアドベンチャー要素の多い第１日目でしたね。暑い中，お疲れ様でした。

第１回目の講座では，野菜作りが種や苗を植えるところから始まるのではなく，「土を育てる」「畑を準備する」という大切な工程があることを実感できました。良いメンバーに恵まれて，これからの講座がますます楽しくなりそうです。第２回目の講座に向けて，自分の農園に植えたい作物について調べてみてください。

（写真提供をありがとうございました。次回は忘れずにメモリー・カードを入れてきます・・・）

コメント

オラはミミズだ！

オラはミミズだ！

オーガニックの衆、お疲れでやした。

みんなミョウガの食べすぎで、大丈夫？忘れっちまったじゃーねえだろうなぁ～。

雨っていう神様がなかなか降っちゃーくれんで田んぼも畑も、えりゃ～大変だー。みなの衆せめて雨乞いだけはやっておくんな。そんでねーとコンポーストとやらのなかで、オラは活躍できんで困るだで。

大好物の落ち葉だって、堆肥だって、カサカサ・・・ドライは苦手だよ！

畑の様子を見に来たときにゃー畑の草でも入れとくれ。

受講生の衆、たのんまっせ！自然の力、不思議さ学びだぜい。

農援隊の衆、頼りにしてまっせ！いい汗流すぜい。

スタッフの衆、一心同体でっせ！ミミズも仲間だぜい。

とんま

本当に楽しい一日でした。いささかバテ気味で体力不足を痛感しましたが、農援隊の皆さんに支えられて、全うできました。採集したミョウガと竹筒に盛ったそうめんも最高の取り合わせで、至福の昼食タイムでした。ペーパードライバーだった私が掛川に来て、又、車に乗り始め、その上今回はトラクターまで運転でき？感激の一日でした。

2008・07・29（火）

第1回オーガニック　おまけ

「この虫　な～んだ？」

（By　平野講師）

答えはコメント欄へどうぞ。

コメント

オラはミミズ

な～んだ。オーガニックの衆でも知らんだか？

いやいや・なになに・・・あまりに簡単で答えを書く気にもならん？

さみしいもんだねぇ～。

ドルフィン

この虫って、成長すると、アレになるんですね。

さげ巻

ふふふ，出世魚ならぬ"出世虫"ですね。

オラはミミズ

出世虫は、どこで成長するの？

そりゃー田んぼでか？

畑かよ？

……

2008・09・20（土）

台風一過，「風と土の谷農園」の9月20日午前中の畑の様子

台風一過，畑の様子が気になります。

早速，講師の平野さんが9月20日の午前中の畑の様子を写真に撮ってきてくれました。

ジャガイモ

ニンジン

大根

ふむふむ。大根は「かいわれ大根」状態から
早くも「抜き菜のおひたしがおいしそう」状態に
成長してますね。

ニンジンのほそ〜い芽に対し
ジャガイモもたくましい芽をだしている。
種の形も違えは，芽の形も違うって訳ですね。
みなさんの畑はどうでしょう？

コメント

ねぼすけ

大事無かったですか？

みなさんの野菜がたんとなること

今年も楽しみにしてます^^-----

COMMENT:

AUTHOR: かけっコ

EMAIL:

IP: 219.126.17.229

URL:

DATE: 09/20/2008 23:14:04

おぉ～！ジャガイモとニンジンの芽が出ている！

大根の葉っぱに黒い点々があるように見えますが、なんでしょうかね？

早く見にいきたいで～す。写真、ありがとうございます。

2008・09・21（日）

第２回オーガニック・ファーミング講座の写真レポ(９／８開催)

順番が前後しましたが，９月８日に実施した第２回講座の様子を写真で報告します。

今回から，新受講生のＹ竹さんが参加。受講生９名，講師の平野さん，農援隊２名，スタッフ２名，参加体験のＳ山さん合

わせ総勢15名がキウイフルーツ・カントリーに集まって講座が始まりました。いよいよ，有機野菜の作付けです。

まず，畑に向かう前に田んぼチェック。すでに出穂した稲は傾き始め，５円玉の模様に近づいてきました。まだまだ成熟していないお米は，押さえると乳白色の液体が出てきます。

次は，堆肥を作っているコンポスト・ボックスのコンパネをオープン。ミルフィーユを崩して天地をひっくり返します。完

全に成熟するまでには３カ月必要。１２カ月以上経ったお隣の山は堆肥がさらさらでした。シャベルを入れると，いろいろな虫がいっぱい。

いざ，鍬を持ってロープで区分けされた農園へ。まずは公共農園で平野さんが畝の作り方と鍬の使い方のコツを伝授してくれます。そして，見よう見まねで作業に取り掛かります。

そして，じゃがいもの植え方を教えてもらい，早速みんなで協力して種芋を並べます。
等間隔で並べた種芋の間に肥料を置いていきます。おいしいじゃがいもが育ちますように。

一通りじゃがいもの植え方を体験した後，待ちに待った自分

の畑が割り当てられます。区割り図を手に，真剣にどの区画を選ぼうか検討中のみなさん。とは言っても，葉っぱを使ったくじ引きで選択権がきまったのですが。引いた番号が早い順に希望区画の番号を発表し，それぞれ皆さんが農園主となりました！早速，習った手順でじゃがいもを植えてみます。

ひと段落したところでお昼。今回は，蕎麦研のご好意で朝採ったばかりの蕎麦のスプラウトをサラダで頂きました。太陽の下で畑を耕したあとに，安全で体に良いものを摂取すること

で，ますます健康になった気がします。食事の後は，みんなで量販店に行き，種や苗を見ながら自分の農園の計画を具体的に考えました。さあ午後も楽しみながらがんばりましょう。

キウイフルーツに帰り，みんなの農園に戻りました。今度は，ニンジン，大根，聖護院大根の蒔き方を教えてもらい，小さな種を丁寧に等間隔に蒔き，種の３倍の土をかけました。吹けば飛んでしまうような小さな種からどんな芽がでてくるのか，果たして本当に芽が出てきてくれるのか，ちょっと不思議な気持ちで土をかけます。

そして仕上げは水やり。

さて，再び自分の畑に戻って思い思いに自分の畑にニンジンや大根の種を蒔きます。もちろん，買ってきたばかりの苗や種もです。畝の幅はどうしようか，どこに何を植えようか…農園主たちは頭を悩ませます。

平野さんや農援隊は，慣れた様子で簡単そうに鍬を使っていますが，自分でやってみると，これがなかなか。しかしながら，自分の畑に戻って作業を始めた受講生のみなさん，鍬を持つ姿がちょっとずつ様になってきました。「どーしよーかなー」と畑のデザインに悩んでいる姿も楽しそうです。これから作物がどんな風に育っていくのか楽しみですね。嬉しいことに，体験参加のＳ山さんが，農園主の１人になってくれました。

農園は日々変化します。ぜひ自分の畑の様子を観察してみてください。暑い一日でしたが，お疲れ様でした。

2008・10・14（火）

第３回オーガニック・ファーミング講座の報告（9／27開催）

天高い秋空の下，第３回目のオーガニック・ファーミング講座が９月27日（土）に開催されました。今回は，受講生９名，講師の平野さん，農援隊２名，スタッフ３名の総勢15名がキウイフルーツ・カントリーの「風と土の谷」に集まりました。

第３回目の講座は「有機野菜の栽培管理」です。テーマは「育てる喜びを生活に」。「育てている」つもりだったのが，「自分が育てられていた！」という楽しさや喜びを実感できる内容でした。畑に集まった受講生の皆さん，自分の畑が気になります。

前回植えたじゃがいもも大根も育ってます育ってます。大根はちょっと虫に喰われている模様。虫だっておいしい葉っぱが大好物です。

今日のメニューは，「じゃがいもの土寄せ」「大根の間引き」「除草と施肥（せひ）」「ガーリックとごぼうの種まき」です。

まず，じゃがいもの根元に土を寄せて，じゃがいもが育つ部屋を作ります。
「お布団を掛けるように，優しくね♪」（by 講師の平野さん）

土寄せ前（左）と土寄せ後（右）

次は，大根の間引き。抜き菜はお昼にのみそ汁へ。即席の竹の器で頂きました。

→

　にんじんの芽（左）は小さくて柔らかく，除草はなかなか根気の要る作業となりました。楽しく話しながら作業していたのですが，知らず知らずのうちに熱中してしまいます。

その後，施肥の方法を教えてもらい，各自の農園に戻ってそれぞれの作物の世話をします。遠くから「お〜，〇〇さんのじゃがいもはすばらしいね」という講師の声が聞こえれば，作業を中断して足を運びます。農園主にどういった世話をしたのか尋ね，また自分の畑に戻っていきます。だんだん，それぞれの農園に個性が出てきました。

当日，鉄矢悦朗さんによる「里山の森の中で枝を使ったドームを作る」というセッションが同会場で行われたため，変則的なスケジュールとなりました。昼食後に講座は一旦終了となり，希望者は午後の作業の前にキウイ農園のどんぐりの小道を通って森の中のドームを見学へ。森の中には，枝を結んで作った新しい空間が生まれようとしていました。オーガニック受講生も，セッション参加者に混じってドームの中に入ったり，枝を紐で結び付けてちょっとだけ気分を味わわせてもらいま

した。

畑への帰り道では，ターザンロープでリフレッシュ。子供時代に戻ったままの表情で太陽の下の畑に戻り，各自の農園の世話を続けました。

と，ここまでが第３回の講座の報告です。開催からすでに２週間経っているので，畑の作物は，ぐんぐん育っています。その様子は，畑に足を運んだ受講生のＫ城さんがｅじゃん掛川の「オーガニックファーミング」トピに写真をアップしてくれています。そちらもどうぞご覧ください。

2008・12・31（水）

第６回オーガニック・ファーミング講座の報告（12／27開催）

年の瀬押し迫る12月27日（土）に第６回目の講座が開催されました。今回の講座は「お餅つきと日本の文化」。暖が取れるように，と講師の平野さんが焚き火を用意してくれた「風と土の谷」には，受講生８名，平野さん，農援隊１名，スタッフ４名＋ゲスト２名の総勢16名が集まりました。

まず，午前中に初冬の農園管理を行い，大根を収穫します。ここで草取りをしっかりすることで，今後の作物の育ち具合が大きく変わるそうです。受講生の皆さんは，それぞれ自分の畑の様子を見ながら手を加えていました。

農作業終了後，場所を移して収穫した大根を洗いました。この大根は，たくわん用。葉っぱを麻ひもで縛って軒下に吊るしました。

お昼は，みんなで搗いたお餅です。大きな臼と杵で順番にお餅を搗きました。もち米は，もちろんみんなで田植え＆稲刈りをした「あの」もち米です。手ほどきを受けた後，「よいしょ」「はい」「もう一丁」っと即席の掛け声。お餅を搗くの

が初めての人もだんだん返し手と呼吸が合ってきます。もち米が蒸しあがる湯気の香りの中，わいわいガヤガヤとしゃべりながらお餅を６臼搗きました。

最初に搗いたお餅は，大根おろし，きな粉，さとう醤油，海

苔で頂きました。おいしいっ！前回講座の収穫祭で大好評だったお赤飯を食べるチャンスがなかった人もついにあのもち米を口にすることができました。

軒下にはたくわん用に干した大根

お腹が落ち着いたところで，お供え餅も作ります。園内のみかんを採りに行き，半紙で紙垂(しで)も作りました。

今回の講座は，餅つきをして，それを食べながら日本の文化を学び，持続可能な生き方や暮らし方を考えることをテーマとして行われました。田植えから始まって，稲刈りをしたもち米

が多くの人の手を経てお餅になり，鏡餅を作ることができました。そう考えると感慨深いものがあります。いろいろなモノがお金で手に入る便利な世の中で，時間と手間をかけることの贅沢と喜び，共同作業の楽しさを感じられました。また，餅つきを通じて「新年を迎える」ことを考える機会にもなりました。鏡餅やお節料理というのは地域によって異なる様ですが，自分で育てた大根や人参を使ったお節料理は，最高のご馳走になるのではないでしょうか。

今回は，ミセス平野が前日からもち米の準備してくれたほか，当日はすぐに搗けるように時間を逆算して蒸してくれました（6回も！）。また，キウイで働いてらっしゃるSさんからは，お手製のたくわんの差し入れを頂きました。K造さんとY下さん，あんこと干し柿をありがとうございました。みなさんに支えられて講座が成り立っていることを改めて感じました。ありがたいことです。

講座で収穫した大根で作ったたくわんは，3月のカレッジ・フェスティバルでお出しできれば，と考えています。お楽しみに！-----
EXTENDED BODY:

コメント

沢庵和尚

ふと、真夜中にあの畑を思い出しながら考えた。

『たくわん』か『たくあん』か。

おそらく、ワシと同じ読みの

『たくあん』が正解じゃなかろうか。

誰かホントのことを教えてくれぃ。

さげ巻

むむむ,

「静岡」が「しぞーか」ではない？！，のを知った時に近い動揺が・・・

ええーい。

●スーパーで購入したまっ黄色のが「たくわん」，

●壷から取り出す，大根の原型を留めた漬けモンが「たくあん」

で，どうだかしん？　↑私のイメージ。

この法則に従えば，冷蔵庫から取り出すのが「たくわん」，

風と土の谷産の大根の漬物は「たくあん」になるなあ。

ちなみに，我が家は完全に「たくわん」。

小僧

ずーっと、"たくあん"が大根とは知らなかった小僧です。漢字から、"たくわん"ではなく、"たくあん"に一票。

今後は意識して、"たくあん"って呼ぶぞ！

･･･"たくあん"て漢字で"沢庵"と書くんですね。

勉強になったのは小僧だけ？

押しぶた

お餅つきを眺めていた大根様も新年を迎えました。

寒風に吹きさらされる試練に耐え、大根様は頭とシッポがくっつくぐらいに体の柔軟性がましてきたのだ。

そして今、全身を米糠と塩に包まれて、いよいよ樽住まいとなった。

重石様にドカット押さえられ、「押しぶた」は大根様と重石様にはさまれて、晴れて「たくあん」になるカレッジ・フェスティバルを待つのである。

大根役者

な、なんと、
カレッジフェスティバルでは
大根様が「たくあん」になった姿を
見られる？食べられるのですか？
いやぁ～これはもう何がなんでも
行くっきゃないですね！

……

2009・01・24（土）

オーガニック特別編　～大根様報告～

3月21日のカレッジ『スプリング・フェスティバル』の前日，
ついに樽住まいの大根様を呼び起こしました。

これまでのストーリーはこちら↓
http://ldc2008.seesaa.net/article/113108306.html

まず，講師平野さんが大根様を自らハイヤーでお迎えに。

重石様を外すと…

→

さらに葉っぱをはがすと…　たくあん様のお目見えです！

→

シャワーを浴びて，お風呂に入って…

→

さっぱりしました。

「う〜む，重石様，よい仕事をなすった。」

重石様の仕事ぶりを称えたのは平野さんだけではありません。
たくあん様に姿を変えた大根様は，翌日のフェスティバルでも好評でした。

・・・めでたし，めでたし

コメント

小僧

たくさん様、美味しかったー！ GoodJob!

2009・06・02（火）

第10回オーガニック・ファーミング講座 最終回の報告(5／30開催)

6月30日（土）にオーガニック・ファーミング講座の最終回が開催されました。
今回のテーマは「ガーリックの収穫と保存法（ガーリックと健康を生活に）」。サブタイトルは，「ガーリック祭－－思いっきり食べて飲んで楽しもう！の巻－－」でした。天気予報に反して好天となりました。

今の時期，畑に残っているのはガーリックだけ。講座も間が開いたため，草が地面を覆いつくしていました。

講師の平野さんから収穫方法を教わり，みんなで草をより分けながらガーリックを収穫しました。草に栄養が奪われましたが，立派なガーリックが収穫できました。

共同畑の収穫物を山分けし，根を取ってきれいにしたところで「ガーリック編み」に挑戦しました。それぞれ個性溢れる作品のできあがりです。

作品の一部を紹介

畑で見かけた素敵なガーリック・カップル

畑での作業終了後，なかよしハウスに移動してガーリック祭の準備をしました。主役はもちろん新鮮なガーリックです。メニューは，（1）ガーリック・オイルとガーリック・チップ，（2）ジャガイモのガーリック・オイルがけ，（3）ガーリックの丸揚げ，（4）ガーリック・オイルで揚げた手作り厚揚げ，（5）ガーリックとスパイスをまぶした子羊の炭焼きグリ

ル（by 平野さん），（6）旬のカツオ＆ガーリック・スライス，（7）Oさんの畑で採れた空豆とグリーンピースのピリ辛ガーリック・オイル炒め…などなど。畑に残っていた野菜や薬味もフルに活用させていただきました。

差し入れで受講生のYさんから自宅で採れた夏みかんとジューンベリーの寒天寄せ，Sさんのお手製ドーナツを頂きました。スローフードのガーリック祭にぴったり！また，ミセス平野はサラダ用に2種類のマヨネーズをササッと作ってくれました。ありがとうございました。

作るのと食べるのに夢中だったので，写真は（2）のジャガイモのガーリック・オイルがけのみ

キウイの棚の下で穏やかに食事会が始まり，平野さんからガーリックの歴史や効用について説明を聞いた後，受講生の皆さんに講座の感想などを順番に伺いました。それぞれ受講を決めた理由は異なっていましたが，「農業を取り入れたこんな生活をしたい」というビジョンがより明確になったようです。耕うん機を購入した人や市民農園を借り始めた人，種を買ってプランターで野菜の栽培を始めた人などなど。作付け計画を語る受講生の皆さんはとても楽しそうでした。また，身の回りの環境や天気など，これまであまり気にかけていなかったことに目が行くようになったという感想もありました。

平野さんが常々おっしゃっているように，「作物の身になって」考えると，ちょっとだけ作物の世話の方法が分かってきたような気がします。そして「ガーリックの身になって」詠んだ川柳は次の通り。

受講生の皆さん，一年間オーガニック・ファーミング講座を

受講していただきありがとうございました。講師の平野さん，キウイフルーツ・カントリーJapanの皆さん，たいへんお世話になりました！

来期のオーガニックもご期待ください！

2008・08・13（水）

ダッチオーブン第１回講座を行いました。

ダッチオーブンクッキング【第１回講座】を行いました。

日　時：平成20年7月12日（土）13:30～16:00
場　所：キウイフルーツカントリーJAPAN
内　容：ダッチオーブンの解説と失敗しない選び方　など

晴天に恵まれすぎた第一回目は「マイダッチオーブンを！」。みんなでキウイの木陰に避難しながらのレクチャーです。

受講生10名、講師＆スタッフ５名でのスタートとなりました。

講師へら爺のダッチオーブンコレクション。
すべてLODGE(ロッジ)社製です。

手前の鉄瓶は貴重な廃盤ティーケトル。
私、ちょっと調べてみたらオークションでは3万くらいが相場でしたよ。かなりのプレミアがついてますね。

講師やスタッフの持ち寄ったダッチオーブン関連書籍とダッチオーブンのアクセサリー。

右からトリベット（鍋底に引き、余分な水分や油を落とす）、リッドスタンド（ダッチオーヴンの足として、またフタ置きと

して使用できる）、リッドリフター（炭をのせた熱いフタを外すときに便利）です。

6月の体験講座にも増して詳細なダッチオーブンの説明。それぞれの鍋の特徴、長所短所などを聞いた後は、実際に手にとってもらいました。いくつかダッチオーブンをお持ちの愛用者やこの講座に備えてマイダッチオーブンを購入済みの受講生もいましたが、ほとんどの方は未体験。へら爺一押しのコンボクッカー（スキレットと片手鍋が一体になったもの）を皆さん注文されました。

全9回分のレシピも配られたので、予習してくる方もいたりして？

自己紹介しながらのコーヒーブレイクには平野校長も登場。
めでたい第一回目にご挨拶をいただきました。

次回は「焼き入れ」です。昨年度、私は料理をしないこの回が一番疲れた気が・・（笑）。暑い中、熱い鍋を焼く作業は大変だと思いますが、美味しい料理のためにも頑張ってマイダッチオーブンを誕生させましょう。

第２回講座を開催しました

ダッチオーブンクッキング【第２回】のフォトレポです。

と　き：平成20年8月9日（土）10:00～15:00
ところ：キウイフルーツカントリーJAPAN
内　容：焼き入れとメンテナンス予想通り厳しい暑さの中で始まった第二回目は「焼き入れとメンテナンス実技」。用意していただいたマイ・ダッチオーブンを使える状態にするシーズニング（慣らし）を行い、手入れの仕方や保管についてもレクチャーを受けました。

講座でまとめて注文したダッチオーブンは皆さん、コンボクッカー。写真左側、火にかけてあるのが鍋部分で、その上に置い

てあるのがフライパンとしても使える蓋です。

自分で用意した方は、それぞれ目的にあわせたタイプのものを購入して持参。

今回の焼き入れの手順

〔1〕新品のダッチオーブンを洗剤で洗い、錆止めのワックスを落とします。
〔2〕洗ったダッチオーブンの水気をとって火にかけ、落としきれなかったワックスを焼き切ります。煙が出てこなくなるまでよく熱する。蓋も忘れずに。
〔3〕少し冷ましたダッチオーブンをタワシで水洗いし、火にかけて水分を飛ばした後、オリーブ油（or ショートニング）をタオルやキッチンペーパーで塗り込みます。まだ熱いので火傷に注意。
〔4〕熱してオイルを塗る、という手順を２度ほど繰り返したら、鉄臭さをとるためにクズ野菜（香味野菜や大根）を油で炒める。
〔5〕炒め終わったら少し冷ましてから水洗い。火にかけて水分を飛ばしてからまた薄くオイルを塗りましょう。内側はもちろん、外側や持ち手も忘れずに。

*****
これで焼き入れは終わり。どんどん使って油をなじませていくほどに使いやすくなるはずです。

日常の手入れは、調理後さわれる程度に冷ましてから、洗剤を使わずお湯で洗います。空焚きして水分を飛ばしたらオイルを薄く塗るだけ。
塗りすぎると油が酸化して臭くなってしまうこともあります。直接鍋にオイルを垂らすのではなく、布につけて塗るのがいいでしょう。長期保存する場合は中に新聞紙を入れ、蓋をずらして置くなど湿気に注意します。

上の写真は手前が新しいダッチオーブン。まったくコーティングされていないので、鋳鉄本来のグレーっぽい色をしています。このタイプは一番手のかかりますが、育てる楽しみも大きいものです。

すでにダッチオーブン愛用中の受講生はあまり使っていなかったサイズのもの（写真奥）を持ってきてもう一度焼き入れをしたり。

こちらはスタッフの購入した四角いダッチオーブン。LOGOS社製です。これもまったくコーティングされていないタイプ。

かなりの重さで焼き入れにも時間がかかりました。

さて、今回は料理を行わないので、お昼はへら爺特製シーフードのトマトソース。

トマト缶6個を使って前日仕込んできたものです。

パスタももちろんダッチオーブンで茹でますよ。ただ、パスタ用の炉は少し火力が落ちてきてしまったので、茹でるのに少々時間がかかりました。

でも無事に茹で上がり、みんな給食のように並びます。

パルメザンチーズをたっぷりかけていただきます♪
多めに作ったはずでしたが、あっという間に売り切れ。

食べ終わったら、シーズニング再開です。

クズ野菜を炒めるところまで来ればもうすぐ完了。

丁寧にオイルを塗り込む姿は、皆さんすでに一人前のダッチャーのようでした。次回までの一ヶ月間でもどんどん使い込んでくださいね。

2008・10・25（土）

第３回『パンを焼く』開催しました

９月13日(土)第３回講座を開催しました。
いよいよ本格的なお料理となる今回のテーマは『パンを焼く』。パン生地の材料。強力粉、ドライイースト、牛乳、水、バター、塩。
これらを計量して、ボールに入れます。

こねたり、たたいたり、表面が滑らかになるまで、20分以上よくこねます。

サラダ油を塗ったボールに生地を入れ、ラップしてあたたかい場所（30度以上）で約40分発酵させました。

指で生地を押し、穴がもどらなければ発酵完了。
ラップも膨らんできました！

生地を8等分に分け、丸めながら成型。溶いた卵黄をハケで塗ります。

プレヒートしたダッチオーブンに成型した生地を並べて焼きます。
上火は中火、下火は弱火で焼く20分、焼き色がつくまで。

写真左はOさん自作の器具です♪平らな蓋でない場合、こんな工夫で豆炭をしっかり乗せることもできますね。

焼き色をチェック。そろそろよさそうです。

一口食べて、この満足げな顔！

Oさんの差し入れのスープもおいしかった～。ごちそうさまでした！

アウトドアクッキングの中でも一番難しいというパン焼き。
気温の都合で第三回目に行うことになりましたが、
皆さん、大きな失敗もなくおいしく焼きあがってよかったですね。

2008・11・01（土）

第４回講座「フライドチキン＆ローストオニオン」！

10月25日(土)第４回目の講座を開催しました。今回の課題は「フライドチキン＆ロースとオニオン」。
新しいダッチオーブンに油をなじませるためにも、使い初めに揚げ物料理はおすすめです。
家庭のものとは一味違ったフライドチキンを作りましょう！目指すは〇ンタッキーフライドチキン！？

材料は鶏モモ肉、手羽元と衣用の小麦粉、卵、ハーブなど。
今回はフレッシュローズマリーを刻んで衣に加えます。

まずチキンに下味をつけます。しょう油と酒につけて45分。

下味を付けている間にサイドメニューの準備。
ローストオニオンは共同作業で作ります。

皮をむいた玉ねぎをプレヒートしたダッチオーブンに並べます。
焦げ付き防止のため、トリベット（金網）やアルミホイルを敷いた方がよいでしょう。

下火は弱火、上火は強火。蓋をしてじっくり焼きます。

プレヒートしたダッチオーブンにサラダ油を2cmほど注いで加熱。
今回のメニューのポイントは、揚げ始めの油の温度。豆炭を多

めに置いて、油が180度になるのを待ちます。

油の温度が上がるまでにフライドチキンの衣作り。

小麦粉、溶き卵、刻んだハーブを入れ、よく混ぜ合わせます。

早々に甘く香ばしい香りがしていたローストオニオンですが、

ちょっと様子を見るのを忘れていたら、こんなことに！

上火が強過ぎたようです。でも一皮むけば大丈夫。油が180度になったらチキンを入れ、蓋をして弱火で10分程度揚げます。チキンをひっくり返し、蓋をはずしたまま中火で約5分。材料を入れすぎないように注意しましょう。

全体がカラッと揚がれば出来上がりです。
おいしそうに揚がりました。

レモンを添えて完成！パンと一緒に今日の昼食です。

ロールパンにはさんでチキンサンドでもおいしい。
余った卵はキャンプダッチオーブンの蓋を使って、目玉焼きに。

フライドチキンは柔らかくジューシーに揚がり、試食時には「いつも家で食べているのと違う！」との声が聞こえてきました。
上火の必要もないので、火力調節が簡単な家庭のコンロで作るのにおすすめのダッチオーブン料理ですね。-----
EXTENDED BODY:

2008・11・09（日）

第５回『ハンバーグ・デミグラスソース』

11月８日(土)第５回講座を開催しました。
あいにくの雨の中、いつもよりちょっと少ないメンバーで始まった今回のメニューは、「ハンバーグwithデミグラスソース」。

材料は合挽き肉、玉ねぎ、パン粉、牛乳、卵、ケチャップ、塩、ブラックペッパー、ナツメグ、サラダ油です。

デミグラスソースは長時間煮込み、裏ごしなども必要なので、講師が前日から仕込んできてくれました。

付け合せはニンジンとジャガイモ。ニンジンはグラッセの予定でしたが、ダッチオーブン本領発揮の無水調理に変更。メイン

と同時に出来上がるよう早めに火にかけます。

まずはダッチオーブンをプレヒート。みんなで玉ねぎをみじん切りしたら、よく炒めて冷まします。ボクにもできるよ、ね。

挽肉にサラダ油以外の材料を加え、よく混ぜました。ねばりが出てきたらOK。捏ねすぎに注意です。

混ぜ合わせた生地を少量手に取り、ミニハンバーグを焼いて味を見ます。足りないものがあれば、ここで足しましょう。

ハンバーグは思いのほかよく膨らむので、成型するときは両手でペタペタしながら空気を抜き、中央部をへこませること。

（右の写真はスタッフzenkyuさん。スバラシイ手つきでし

た。）

プレヒートしたスキレットにサラダ油をひき、ハンバーグを焼きます。（コンボクッカーの場合は蓋（スキレット）部分を使います。）

片面に焼き色がついたらひっくり返して、蓋をしてごく弱火に。コンボクッカーの場合は下の深型ソースパンを蓋としてかぶせます。（かぶせる方もプレヒート忘れちゃいけません）
13～15分で焼きあがります。竹串をさし、出てくる肉汁で出来上がりの確認を。

デミソースもハンバーグの完成に合わせて温めはじめます。

ブロッコリも茹で上がり、ジャガイモも立派すぎて火の通りの遅かったニンジンもタイミングよく出来上がりました。

皿にハンバーグと付け合せの野菜を盛り付けたら、デミソースをたっぷりと。

ソースにクリームを少量たらして…、完成です！ふんわりと膨らんだジューシーなハンバーグ。味に正直な子どもたちからも「おいし～」の声をいただきました。意外に簡単にレストランの味ができあがり、得意料理にハンバーグが加わった方も多いのでは。

ソースはデミグラスじゃなくても、いろいろ工夫できますしね。

さて、年内の講座はここまで。１２月１月とお休みです。次回２月の講座まで間があります。みなさんくれぐれも、鉄鍋をさび付かせませんように・・・。

2009・02・25（水）

第６回『スパニッシュオムレツ＆スープ』

２月14日(土)第６回講座を行いました。11月の第５回から３ヶ月ぶりです。(実は有志が12月に番外編をしておりますが、書き込みは折を見てとさせていただきます)。
今回のテーマは『スパニッシュオムレツ＆kyばえつとベーコンのスープ』。レポートは受講生のＴさんのまとめたものをもとに構成させていただきました。

材料は、玉ねぎ２個、パプリカ２個、ピーマン２個、じゃがいも３個、たまご６個。以上４人前。

玉ねぎ、パプリカ、ピーマンは適当な大きさに切り、しんなりするまで炒めました。

Ｙ村講師が別のナベで茹でてくれたジャガイモ３個を、５mmの厚さに切り、ダッチオーブンへ入れ、形が崩れない程度にやさしく他の材料と混ぜ合わせます。

ボールへたまご6個を入れ、塩、こしょう、パルメザンチーズを入れ、軽く下味をつけてよく溶いておきます。そのたまごへ炒めた材料を入れ、よく混ぜます。

煙が立ち上るくらいプレヒートしたダッチオーブンに材料全部を入れ、しばらく強火で加熱します。

周囲がぶつぶつと色が変わってきて、少し焦げてきた匂いがし始めたころ・・・、せーの、でダッチオーブンをひっくり返し、スキレット側を下にします。このとき、一気にひっくり返さないと、片方に寄ってしまい、形が崩れてしまう危険があるので、心に迷いは禁物。とにかく一気に。

ひっくり返したら、１～２分程度そのままにして、加熱し、表面を固化します。

おもむろにダッチオーブンを取ると・・ほれ、この通り。

ありゃ？　ちょっと心に迷いがあったようで・・・。

スパニッシュ・オムレツは少し焦げ目があるのが正解。でも、これはちょっと焦げ目多すぎかも。

小さく切り分けて、思い思いに盛り付けて、はい、出来上がり。

お好みに合わせて、デミグラソース、トマトケチャップをのせて、いただきま～す。

本日も、とってもおいしゅうございました。

ということで、受講生ｔさん、ありがとうございました。

2009・03・25（水）

第７回講座『豚の角煮』を開催しました

３月14日(土)第７回講座を開催しました。今回のテーマは『豚の角煮』です。今回の材料は、豚バラ肉、タマネギ、白ネギ、ニンジン。調味料（の写真を撮り忘れましたが）は、醤油、みりん、赤玉ポートワイン、砂糖です。

バラ肉は大き目、４×６cmくらいにカット。野菜はだしとして使うので大きめの乱切りで。当初のレシピでは四人一組で作る予定でしたが、一人ずつ作ることができてよかったです。

まずはプレヒートしたダッチオーブンでバラ肉に全面焼き色をつけます。コンボクッカーの場合は蓋部分を使います。焼いただけでもおいしそうですが、まだまだ先は長いですよ。

野菜類を加え、調味料と水が具材が沈む程度まで入れ強火に。沸騰したらアクを取ります。

写真右は八角。Ｓさんが「角煮ならこれでしょ」と持ってきてくれました。一かけ入れたら”薬膳風”になりました。

アクとラードはこまめにすくい取りました。赤玉ポートワインの甘味があるので、砂糖は途中で味を見てお好みで。蓋をして弱火でコトコト２時間以上煮込みます。
写真左、あく取りしたスープを「うまいうまい」と飲み干すＯさん。
時々、竹串で煮え具合を確かめたり。
ラードは冷えると白く固まるので、とっておいて炒め物やラーメンスープのだしなどに利用できます。

煮込む間にあいた炉でＫさんが持ってきてくれた焼き芋を♪
今回は調理時間が長いので、お昼ご飯の時間も遅くなり、昼になるにつれて下がってきた気温の中、この焼き芋はみんなのすきっ腹をなだめてくれました。おいしかったなぁ。

そろそろ角煮も完成かな、というところで講師仕込みのオニオンスープを温めます。

野菜もバラ肉も柔らかーくなりました。Kさんは新タマネギも持ってきてくれたのです。ありがとうございます！！

そして、Oさんは角煮に合う主食、ということでご飯を炊いてくださいました！何度も予行練習してくださった「９９％玄米」というお米。ほんの少し海水塩をいれるとおいしくなるのだそうです。

角煮のダッチと同じ物を使うので、一人早めに作り、角煮をボウルに空けてから炊飯開始。

塩を加えた水が沸騰したらお米を投入。蓋をして再沸騰を待ち、蓋から蒸気がもれ出したら弱火にして約２５分。ここで火から降ろす前にもう一度強火にして約１分。余分な水分を飛ばし、おこげを作ります。

１０分ほど蒸らして蓋を取るとふっくらおいしそうに炊けています。

おこげもばっちりできていました。

一口食べるともちもちで適度な歯ごたえと甘味。

「９９％玄米」って、玄米と白米、両方の良さが味わえるんですね～。

今回、頑張ってくださったＯさんのブログはこちら↓をチェック。

お米で健康（掛川仁藤　大石米穀） http://topone.hamazo.tv/

角煮の方は、上に青菜を入れ蓋をして色が変われば完成。こんなにやわらかく煮えました♪

ご飯と一緒にいただきます！角煮もご飯もよくあって、ついつい食べ過ぎてしまいました。野菜もおいしかったですよね。

今回は本当にシンプルな手順で、時間がおいしくしてくれる料理。家庭ではコンロにかけっぱなし、アウトドアでは待ち時間を楽しめる、
簡単メニューです。今度作るときは、ゆで卵や大根も加えてみたいと思います。

次回は鮎飯＆豚汁」です。Oさんのようにうまく炊けるといいなぁ。がんばりましょう。

2009・04・14（火）

第８回『鮎飯＆豚汁』を開催しました。

みなさま、こんにちは。
第八回「鮎飯＆豚汁」のフォトレポートです。

年度始めということもあってか受講生が四人と少なかったのですが、
暖かな日差しの下、鮎飯作りがスタートしました。

材料は焼き鮎、白米、酒、塩、出汁。
薬味にショウガ、三つ葉、万能ネギなど。

鮎以外にタコ、桜海老が具材として用意されており、
受講生は鮎飯、スタッフはタコ飯を作ることに。
お米は大石米穀さんの「掛川米・ふっくら君」。
焼き鮎はさかな工房気田川のもの。
これしっか処などで販売されていますので、今回出席できなかった方はぜひ。まずは干してある焼き鮎を酒と水に浸して戻します。

その間に薬味を刻みます。大量の針ショウガが出来上がりました。

スタッフのＳさんが、前日掘った竹の子をダッチオーブンで焼

こうと思って持ってきてくれたのですが、
あいている鍋がなかったので、ホイルで包んで炭火で焼くことに。

ご飯を炊く間に出来上がり、みんなで味見しました。
塩か醤油を少しつけて。あく抜きしなくてもおいしかったですよ。

Ｓさん、ありがとう。

焼き鮎がふっくらと戻ってきたので、お米を軽く洗い、水を切ったら計量。

鮎の戻し汁、酒、水、塩、顆粒出汁をお米に注ぎます。
お米と同量の水(調味料含む)で炊くため、こちらもきっちり量りました。

一度しっかり計量して、水の位置を手で覚えておけば便利です。

焼き鮎を乗せたら蓋をして、火にかけます。
タコ飯のほうはぶつ切りにしたタコを同じ調味液を加えた米の上に並べるだけ。

今回桜海老は使いませんでしたが、作り方はタコ飯と同じ。
蓋をして強火にかけます。
お父さんは炭だけでなく、子どもたちも扇がなくてはなりません。（笑）

蒸気が出てきたら、火力はそのままにきっちり５分計ります。
（今回のお米は約二合）

５分経ったらダッチオーブンを火からはずし、15～20分蒸らしたら出来上がり。
鮎をほぐし、鮎の骨を取り、ご飯と針ショウガを混ぜ合わせて完成です♪

５分だとおこげはあまり出来ないようですね。
お父さんは子どもたちのために念入りに小骨を取り除きます。

今回もうれしい差し入れが！Ｎさんの手作りデザートです。
小豆を丁寧に炊いた甘さ控えめのおいしい水羊羹でした。

気温もかなり上がってきて、食事の前にこちらをまず一口。
ビールテイスト飲料でも盛り上がります。

山村講師仕込みの豚汁もよい香り。

タコ飯も炊き上がりました。ネギとショウガを散らします。

鮎飯もタコ飯もみんなで交換して味見。
作る前は、鮎の臭みをちょっと心配していましたが、
臭みなどはまったくなく、よい出汁が出ていました。

食べきれないご飯はタッパーにつめて持ち帰りました。
このおにぎりもおいしそう～

炊き込みご飯は調味料の配分を覚えれば、後は好きな具材を入れるだけ。
ぜひ季節のご飯を作ってくださいね。

私はさっそく翌日竹の子ご飯を作りましたよ。
ついいつもの癖で火加減を、沸騰したら火を弱めて10分、にしてしまいましたが

いい具合におこげが出来ただけで、問題なかったです。

次回はとうとう最終回。自由課題です。
皆さん、どんな料理を披露してくださるのか楽しみです。

料理がかぶらないように（同じものを作っても構いませんが…）、
メニューが決まった方はよかったらこちらでも教えてくださいね！

2008・06・18（水）

6/15 ネイチャーフォト体験会報告

７月の本講座に先立ちネイチャーフォト講座のオリエンテーション＆体験会が行われました。

講座２年目の今年は遠く沼津や清水から駆けつけてくださる方もいて、総勢２０名を越えるにぎやかな体験会となりました。

まずは掛川市立図書館にてオリエンテーション。（１３時～１３時半）
講師、参加者、スタッフの自己紹介がうちとけた雰囲気の中で交わされました。
みなさんの参加動機や写真歴などをうかがうと　なかなかハイレベルな方が多そうで期待大です。

続いて講師の小川さんから簡潔な撮影ヒントをもらいました。
定位置に立ったスタッフをモデルに　絞りや距離をかえて撮影した写真をモニターで見せてもらい、ピントや被写体・背景の写り方がどう変わるかを確認します。
自分は動かずにズームで撮りたいものを引き寄せるのではなく、できる限り自分が動いて被写体に近付いて撮影する。
それによって主題がはっきりするし奥行きや広がりも生まれる。
あとは自分が心惹かれたものを自由に撮る。ただしフラッシュはたかないこと。

以上のミッションを胸に各自撮影実習に入りました。（１３時半～１４時半）

掛川城周辺を自由に散策しながら、それぞれの感性にふれる世界を切り取ります。

蓮池や小川のせせらぎに足をとめる人、みずみずしい花々や小さな生き物に引き寄せられる人、ファインダー越しに井戸を覗き込んでいる人、お城や建築物を狙う人、垣根越しにこっそり（？）人物を撮っている人、芝生に腹ばいになって小さな草花にレンズを近づける人、その姿を撮影する人、さらにそれを撮影する人・・・

みなさん、自分のペースで思い思いに撮影を楽しんでいる様子でした。

１時間ほどの撮影会を終えて図書館に戻り、撮りたての写真をモニターに映して互評会をしました。（１４時半～１６時）

参加者のみなさんの予想以上にハイレベルな作品の数々と、そこで交わされる専門用語（？）の難解さに　機械オンチの女性スタッフ陣は圧倒されっぱなし(^^ゞ

すご～い、きれ～い！　あんな風景あったんだ？　どうやったらあんなふうに撮れるの？　あんな切り取り方もあるんだ～、と感心しきりです。

ひとりひとりの写真には、その人の感性や個性が自然に投影

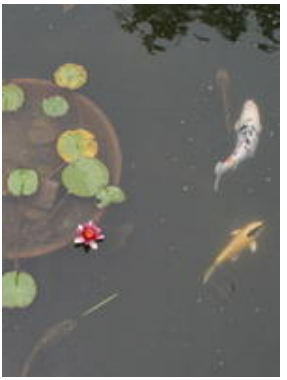
されるようで、同じ風景を撮ってもまるで違う作品になる。

川、魚、建築物、緑、木肌、虫、人物、野の花など、心くすぐられるものもまた違う。

同じ時間に同じ場所に立っていても　見えている風景はみんな微妙に違うんだなと実感します。

そう思うと、誰かの写真を見るという行為はその人の心の中をのぞくようでちょっとドキドキしてきます。

でも、だからこそ、昨年度のネイチャーフォトの仲間も短期間であんなに心が通い合ったのかな、なんて唐突にひらめいたりして。



体験会に参加してくださったみなさんも、それぞれに心に感じるものがあったことと思います。

そのドキドキやワクワクや？？？の正体を確かめるためにも、７月からの本講座にぜひぜひ参加してくださいね。

写真の腕が上がることはもちろんですが、それ以上にたくさんの宝物を得られる講座だと思いますよ。

もちろん、体験会に参加できなかった方も大歓迎です！

2008・07・24（木）

7/20（日）第1回ネイチャーフォト『海を撮る』報告

ネイチャーフォトグラフィー2008がいよいよ始まりました。
第1回講座のテーマは『海を撮る』。
掛川市役所大須賀支に10時に集合し、まずは講座の概要説明と講師の挨拶。相変わらず口べたな小川先生からは「楽しくやりましょう、よろしく！」の簡単なご挨拶…。その後、受講生、スタッフの自己紹介と続きました。
今年度の受講生は9名、プラス体験参加者1名、講師スタッフ5名、総勢15名で第1回講座のスタートです。

午前中、カメラの基本である「絞り」と「シャッタースピード」の関係、「感度」や「露出」の話を1時間半ほどかけてレクチャー。このネイチャーフォトグラフィーの講座で、唯一、レクチャーらしいレクチャーです。「人物モード」「風景モード」「夜景モード」などを例にあげながらの説明です。

その後、受講生の持ってきたお気に入りの写真を例に、どんなふうに撮ったのか、小川先生からの説明がありました。
「まっ、今日の説明で全部わからなくても、カメラをいじればいろいろなことができるんだな、という予感めいたものを感じてもらえれば、それでOK！」
なんとも、小川先生らしい大らかな締めで午前中の講義が終わりました。

お弁当を食べ、撮影場所となる弁財天海岸付近へ場所を移ります。20代から70代まで、ネイチャーフォト2年目の方、昨年までは他の講座だった方、カレッジ初参加の方、すでに和気あいあいとした雰囲気です。

海はギラギラした太陽が照りつけ、絶好の撮影日和だけど、めちゃめちゃ暑そうで、すぐにでもバテてしまいそうな雰囲気…。
小川先生からは、「プログラム」や「オート」に頼らず、絞りやシャッタースピードなどを自分なりに試してみよう、のアド

バイス。集合時間と集合場所を決め、各自、自分のカメラを手に、思い思いの場所に散らばります。
さあ、どのような写真が撮れるのでしょうか…。

…そして、１時間半後。
へろへろになって帰って来る人、
まだ撮り足りなそうな顔をしている人、
いい写真を撮ろうと膝をすりむいた人、
バケツいっぱいにハタミ貝を取ってくる人…、
今年のネイチャーフォト受講生も、個性的です！

その後、お楽しみのスイカ割り大会！
へろへろになっている身体に、目隠し、三周まわしはキツく、なかなかスイカに当たりません。食いしん坊のスタッフが、11人目にして見事スイカに包丁で切ったような割れ目を入れ（粉々にしないところがさすが！）、ようやくおやつのスイカタイム。

そして、大須賀支所に戻り、撮影した全員分の画像データを取り込み、感想を言い合う互評会を行いました。
それにしても、同じ場所に撮影に行くのに、全く違うものを見て、違う風景を撮るのは毎回とても不思議に感じます。また、同じものを撮っても、切り取り方で全く違うものに見えるのも不思議。
それぞれの感性のおもむくまま撮影し、仲間の撮った写真に「こんな撮り方があったのか」と刺激を受ける。この講座の醍醐味です。
受講生の中には、同じ場所を絞りやシャッタースピードを変え、どんなふうに撮れるのか実践している方も…。

時間をオーバーして、みっちり２時間ほどかけての互評会が修了しました。
小川先生からは「今回の講座でみんながどんなふうな写真を撮るのか、だいたいの傾向がわかったから、それぞれの長所を伸ばせるようなアドバイスをしていきたいね」のお言葉。「今回はネイチャーフォトにしてはめちゃめちゃハードだったけど、次回からはもっとゆるゆるした感じで行こうね」とも。

次回は、とうもんの里と遠州横須賀の街並みを会場に『みのり

を撮る＆街並みを撮る』。そして、次回もお楽しみ「サプライズ！」も考えています。
皆さん、どうぞお楽しみに！

2008・09・02（火）

8/30　第2回ネイチャーフォト『 みのりと町並みを撮る 』報告

８月最後の土曜日、掛川市大須賀をステージにネイチャーフォトグラフィー講座の第２回めが開催されました。

あいにくの悪天候でしたが、雨でも撮影できる場所、雨だからこそ撮れるものを探して、みなさん意欲的にシャッターを切っていたのが印象的でした。

雨のパラつく中、午前10時に「南遠州とうもんの里」に

集合。

まずは「とうもんの会」の方から、施設の経緯や大須賀に古い町並みやお祭り・昔ながらのモノが残ったわけなどをうかがい、大須賀の町や人にぐんと興味が湧いてきます。

その後、本日のテーマ「広角レンズを使おう」に即して、長テーブルにブロックを並べ、広角と望遠ではピントの合い方や距離感・映る背景の範囲がどのように違うかを確認しました。

10時半過ぎ。カメラを持ってさっそく小雨の中へ。

見渡す限りの田んぼではずっしりと実りを結んだ稲穂が重たそうに頭を垂れています。畦道には手作りのユーモラスな案山子。しゃがみこめば野の花や小さな生き物が雨粒に生き生き

と。見上げればグレートーンの空に厚みのある雲が幾層にも重なって。雨の日でも気持ちを向ければ撮りたいシーンはたくさん見つかります。

11時頃。そろそろ横須賀街道へ向けて歩こうとした途端、傘をさしていても意味がないくらいの大降りに。町並み探索は断念して施設に戻り、お昼までの1時間弱、施設内にて撮れるものを撮ってみようということになりました。

ロビーに飾られている小物、玄関付近の花、厨房で昼食を用意してくださっている様子など、初めのうちは屋内でおとなし

く（?）撮影していたみなさんですが、気づけばひとりまたひとりと雨の庭へ。簾越しに落ちてくる雨粒、きらきらと跳ねる雫、水のヴェールをかぶり風景を映し込む木のテーブルやベンチ、雨に煙る田園風景・・・雨のひとこまを切り取るのに夢中であっという間の１時間でした。

お昼のお楽しみは「とうもんの里」で用意してくださった美味しいおにぎりと煮物・揚げ物・お漬物などの豪華な昼食。おなかペコペコのみなさんは笑顔ニコニコ。でも、そこはネイチャーフォト受講生、簡単に「いただきます」とはいきません。料理を美味しそうに撮影するには？というレクチャーが始

まって、お昼ご飯のお盆ごと窓際へ移動。光の当て方によって写真の雰囲気がまったく違ってしまうことを確認します。今日参加された方のデータにはもれなくおにぎりセットの画像つきとなりました（笑）

どちらが美味しそうに見えますか？（もちろん、どちらも美味しかったですが）

午後は研修室でのんびり互評会の予定でしたが、雨脚がいくぶん弱まってきたこともあり、午前中にいけなかった横須賀の町並み散策に出かけることに。12時半から1時間ほどという時間制限付きでしたが、それぞれに目的地を絞って古きよき時代を感じる懐かしい店構えや路地を撮影して歩きました。そこ

だけ時が止まったような看板や裸電球、レトロな柄の片ガラス、板壁に似合う渋色の暖簾。ここでも心惹かれる被写体がいっぱいです。静かな町並みに現れた14人のカメラマンに道行く人も不思議顔。

時間いっぱい撮影を楽しんだ後はお土産に有名な羊羹を買いに寄ることも忘れませんでした。

ようかん

その分、２時から３時までに凝縮された互評会は少し駆け足気味でしたが、今回も同じ日に同じ場所で撮ったとは思えないような個性的な写真がずらり。午前中のレクチャーを踏まえてピントや距離・光を意識して撮っている方が多かったですね。みなさん驚くほどセンスが良くて、小川先生も「いいねぇ」を連発していました。が、最後に見せていただいた先生の写真はやっぱり素晴らしい！　撮りたいもの、伝えたいものにグッと寄って邪魔なものは切り取る、ピントや露出を変えてみる、などよりフォトジェニックに撮るためのアドバイスをいただいて今回の講座は終了となりました。

みなさん、雨の中おつかれさまでした。写真と食を両方楽しめてオイシイ講座でしたね。次回もまたまた美味しい企画があるようですのでお楽しみに♪

2008・09・30（火）

9/20 第3回ネイチャーフォト『里山を撮る＆レタッチを学ぼう』報告

心配された台風も夜のうちに通り過ぎ、第３回めのネイチャーフォトグラフィー講座も予定通り開催することができました。

今回のテーマは『里山を撮る＆レタッチを学ぼう』。

会場は講師の小川先生の事務所のある倉真の里山です。

豊かな緑に囲まれ小川のせせらぎが聞こえてくる心休まる風景と、そこに溶け込むように佇む築１２０年の古民家。

どこを切り取っても絵になりそうな気がします。

今回は講座の後に懇親会を、ということで２時からの講座スタート。

最初に小川先生からお題をいただいて各自好きなように撮影し、その中からベストショットの１枚ずつを提出して、誰が撮ったかわからない状態で互評してみよう、という新企画に挑戦しました。

当日発表されたお題はズバリ「台風一過」。

それぞれのイメージを胸に思い思いの被写体を探して周辺を散策するメンバー。

台風一過、というと誰もが真っ先に思い浮かべるのは青く澄み渡った空だと思うのですが、当日の空は青いとは言うもののそこまでの輝きには今ひとつ欠けていました。

さて、そうなると、台風の名残りをどこに見つけるかは、ひとりひとりの感性にかかってきます。

何かおもしろいものはないかしらと、しゃがみこんだり、のぞきこんだり、見上げたり。

撮りたいものにグッと寄って、レンズは広角で、露出補正

は、フレーミングは・・・と、前回までのアドヴァイスを思い出して実践している様子もみうけられました。

実りの秋の里山でいろんな虫や生き物との遭遇にヒヤヒヤしながらも、１時間後にはみなさんそれぞれの「台風一過」をカメラに収めて無事帰還。

３時過ぎ、各自が選んだベストショットをパソコンに取り入れてもらっている間に、庭では蕎麦研さんが　懇親会用の手打ち蕎麦の用意を始めてくださいました。

真面目なネイチャフォトのメンバー、今度はさっそく蕎麦打ち撮影会が始まります。

ここでも前回の『食べ物を美味しそうに撮るコツ』が大活躍。

順光と逆光では蕎麦粉だってこんなにちがう表情を見せてくれるんですね。（左が順光　右が逆光）

データの準備ができたところで４時から５時ごろまで互評会。

「台風一過」というのはなかなか難しいお題でしたが、前夜の風雨で濡れ落ちた葉っぱや栗の実、クモの巣にかかった落ち葉、水たまりに映る光、空と樹のコントラスト、流れを増した水辺の景色、などなど、テーマに沿った多様な力作がずらり。

それらが誰の作品かわからないまま、１枚１枚の写真について、構図は？テーマ性は？明るさは？シャッタースピードは？といった様々な視点から鑑賞し、その場で小川先生にアドヴァイスやレタッチを加えていただきました。

個人的には画像処理というのはほとんどしたことがなかったのですが、パッと見ていいなと思った写真でも、パソコン上でトリミングや明るさ調整をすることで、伝えたいものがよりはっきりしてさらに心惹かれるものになると感じました。

乳母車を押すおばあちゃんの背中が素敵な写真では、背景中央に写っていたじゃまな電柱をコピー＆ペーストで（かな？）瞬時に消してしまうところを見せてもらって感動。

「じゃあ、おばあちゃんを２人とか３人にすることもできるの？」と思わず聞いてしまった私です(^^ゞ

なにかと便利そうな画像処理ソフト、シンプルなものはネットでもダウンロードできるということなので、私も今後挑戦してみたいなと思っています。

こんな感じで、第３回目のネイチャーフォト講座も夕方５時ごろに楽しく終了。

その後は、ネイチャーフォトのＯＢの方にも参加していただいて、掛川一美味しい！と評判の蕎麦研さんのお蕎麦とおつまみで懇親会に突入！

もしかしたら（もしかしなくても）、本講座より懇親会のほうがたっぷり長かったかな？

今回もたくさん学んで親睦も深まり、楽しくて美味しいネイチャーフォトでした♪

次回はちょっぴり先の11月、大東に「モコモコ」を撮りに行きます。

「モコモコ」ってなんでしょう？

やっぱり美味しいのかなぁ？　^m^

2008・11・17（月）

11/9 第４回ネイチャーフォト 秋の遠足？報告

いつも仲良しネイチャーフォトチーム、第４回めの講座は特別編として秋の朝霧高原まで足を延ばしてきました♪

目的地は、６月のフォーラムでもすてきな笑顔が印象的だった『自然回帰型生活びと』山村レイコさんのフェアリーテール。

爽やかでカッコよくてチャーミングなレイコさん、なんと、ネイチャー講師の小川先生とお仕事仲間だったんですって。

すご～い。先生の株急上昇ですね（笑）

講座のテーマは「高原と富士山の秋を撮る」。

さてさて、どんな秋が撮れるでしょうか？

朝８時、掛川市役所駐車場に集合して、車に乗り合わせで

出発。

途中ＳＡや道の駅で休憩を取りながら富士山麓をめざします。

あいにくの曇天で「富士山どこ～？」の状態でしたが、車内でおしゃべりしたり休憩場所では美味しいものチェックに励んだり、あっという間の道中。

１１時ごろフェアリーテールに到着。

レイコさんにご挨拶して、さっそく周辺の撮影に出発です。

雨まじり、しかも今秋一番の冷え込みといわれる寒～い日になってしまいましたが、ネイチャーフォトチームもレイコさんもフェアリーテールの動物たちも元気×元気！

ヤギ飼いの（？）ペーターさんの後を追いかけて動き回るヤギさんやコッコちゃん、ポニーくん（ちゃん、かな？）たちをカメラに収めようと、みんなも歩く・走る・しゃがみこむ。

うす曇りの空の下、じっとしていてくれない被写体を撮るのって本当に難しい。

フレームからはずれちゃったり　ピンボケだったり　どアップ過ぎたり。

被写体はもちろん愛らしい動物たちだけではありません。

富士山は望めないものの、遠くまで広がる緑、霧にかすむ山々、牧場の草花。

そこここにさりげなく置かれている温かみのある看板やユニークなオブジェたち。

フェアリーテールのログハウスの中にも、パリダカの記録やバイクグッズ、砂漠の砂、いろんな国の小物やすてきな食器・布小物など、レイコさんの想い出の品がいっぱい。

みなさん、雨露に濡れるのも気にせず時間を惜しんでシャッターを切っていました。

お昼は暖かいログハウスで熱々の美味しい珈琲をいただきながらの楽しいお弁当タイム。

その後、モニターを使っての互評会に突入です。

今回はいつもと趣向を変えて、それぞれの撮影データから小川先生に気になる２枚を選んでもらい、それが誰の作品かわからない状態で講評をいただきました。

撮った本人もどの写真が選ばれているかはわからずドキドキです。

一枚一枚の作品をモニターで鑑賞しながら、小川先生がいいなと思った点をうかがったり、こうしたらもっと良くなるよというアドバイスをもらったり、その場でレタッチしてもらい印象がどうかわるかを実感したり。

今回はお天気が悪かったこともあって、やはり風景より動物たちを撮ったものが多かったようですが、動いているものを自分の狙い通りに撮る、ということにはみなさん苦労された様子。

中には思惑とは関係なく偶然「いい写真」が撮れたラッキーな方もいたようで、ベストショットとしてモニターに映し出された写真が自分のものと気づかない、なんてひとコマも。

何気なく撮った写真が小川先生に「いいね〜」と言っていただけると突然「いい写真」に思えてくるのも不思議だったりˆmˆ

当初は互評会の後も撮影や自由行動を楽しむ予定でしたが、雨脚も強くなってしまったため、みんなで記念撮影して乗り合わせた車ごとの現地解散となりました。

とはいえ、寒さに負けず頑張った撮影会の帰り道は、おみやげショッピングもしっかりちゃっかり。

掛川に帰り着いた頃には陽もとっぷり暮れてしまいましたが、昨年のネイチャーフォトＯＢの方もたくさん参加してくださり、レイコさんとパートナーのペーターさんの温かい笑顔にも癒されて、とっても楽しい秋の遠足となりました(*^_^*)

レイコさん、ペーターさん、ネイチャーチーム＆ＯＢのみなさん、素敵な一日をありがとうございました。

運転手を務めてくださったみなさん、本当におつかれさまでした。

とっても楽しくていい想い出ができたけど、お天気のいいときにまた行きたいですね。

またまた番外編、あるといいな～～～

ちなみに次回ネイチャーフォト講座は１２月、小笠山とモコモコの予定です。

今度はお天気に恵まれるといいですね(^_-)-☆

2008・12・15（月）

第５回ネイチャーフォト「モコモコ＆小笠山トレッキング」報告

第５回ネイチャーフォトグラフィー
「モコモコと小笠山トレッキング」見聞録！

日ごろから運動不足気味の女性スタッフ３名は、偶然にもかぜをひいたり用事があったり…。今回のレポートは見聞録となりま～す。

さて、朝８時、掛川市役所に集合したネイチャーフォトチーム。最初は大東土方地区にあるモコモコへ。モコモコとは、山とも丘とも違う「こんもり小山」のこと。今、NPOスローライフ掛川ではもっぱらの評判（？）で、そのモコモコをネイチャーフォトチームはどんなふうに撮るのでしょう。

行った先は、「別荘モコモコ」「お墓モコモコ」「ブルーベ

リーモコモコ」。勝手にネーミングした名前だけれど、行ってみると「なるほど！」「ほんとだ！」「その通り！」というのがわかります。ネイチャーフォトチームはモコモコから見える風景を撮ったり、茶畑に映る自分たちの影を撮ったり。…それにしても、モコモコに登るとなぜか楽しい気分になってしまうのですよね。影さえも楽しそう！

さてモコモコの撮影が終わったら、小笠山へのトレッキングです。前回の朝霧への遠足は雨に降られましたが、今回は本当にいいお天気。さあ、264メートルの小笠山へのトレッキングスタートです。

聞くところによれば、最初の10分～20分くらいがものすごくつらかったとか。でも、登りきったところの風景は掛川を一望できるような素晴らしい風景だったようです。富士山もきれ～いに見えます。

尾根づたいの道では、ハーネスを使って安全確保しながら進みます。

これは、誰のお尻？？？

ハーネスなんていう道具を初めて知りましたが、こんなのがあるとちょっとしたアドベンチャー気分です。歩きながら、鈴木講師が葉っぱの解説をいっぱいしてくれます。ふだん無口な鈴木講師も、山ではベラベラと饒舌です。その中の話で、こんなのがありました、とさ。←聞き書きのため。

「小笠山には1300種類以上の植生があります。これはイギリ

ス全土の植生を越える数です」
へえ〜、そうなんだ。
すごいぞ、小笠山！

お昼前に三角点に到着。小笠山神社でお弁当です。体力のある講師陣がガスコンロと水を背負ってきてくれたので、温かいコーヒーを飲んだり、熱々のカップラーメンを食べることができました、とさ。（お世話かけました…）
記念写真もパチリ！

さて、下りも大変。
鈴木講師オススメの屏風岩では、切り立った両側の岩のあいだ、70〜80センチほどの狭い道（？）を奥へ奥へと進みます。上を見上げると細長く空が見えたそうです。ううぅ〜、行った人でしか見ることのできない風景なんですね。
この写真…、このとき小川講師の撮った写真を見てみたい！
奥はどんなふうに見えたのでしょう。

一人の脱落者も出ず、無事全員が下山できました。お疲れさまでした！

そして、掛川市役所に戻り、毎度の写真の互評会。

今回は、みんな歩くのに精一杯で、写真の枚数は多くなかったようです。でも、行かなきゃ見ることのできない景色、行かなきゃ撮ることのできない風景を撮ってくることができました。

今回の発見は、何よりも小笠山の素晴らしさだったようです。
小笠山は市内からたった20分程度のところにある身近な山。
植生の豊富さ、そして身近でありながらアドベンチャー気分や登山気分を楽しめる豊かさがあります。
「体力つけて、私も行ってみたい！」
「ううん、必ず行くぞ！」
「そして、登った人しか見ることのできない景色を見てくるんだもん！」
と決意を新たにした風邪ひきスタッフでありました。

こんな素晴らしいコースをプロットしてくれた鈴木講師、ありがとうございました。
そして意外と根性のあるネイチャーフォトチームの皆さん、本当にお疲れさまでした。
登って楽しいモコモコと小笠山。掛川には面白いところがいっぱいありますね。

ということで、モコモコ＆小笠山トレッキング見聞録、終わり

！

2009・01・19（月）

第6回ネイチャーフォト「花鳥園・動くものを撮る」報告

第6回目となるネイチャーフォトは、花鳥園に行ってきました。
雨天に関係なく、大人も子どもも楽しめる観光スポットとして人気の花鳥園。にもかかわらず、「今回が初花鳥園！」という受講生やスタッフも…。

さて、今日のテーマは「動くもの」。限られた空間の中で、動いたり、じっとしていたり、羽ばたいたりと、いろいろな動きをする鳥たちがそこらじゅうにいます。動くものを撮影するには素晴らしい環境です。

まずは、動くものを撮る練習…。
スタッフのご子息（6歳、入場無料）が特別参加し、モデルになってくれました。

「こっちからあっちへ走って〜」

と言えば、こっちからあっちに全速力で走り、
「今度はそっちへ向かって走って〜」
と頼めば、今度はそっちへ向かって全速力で走ります。
モデルが素直だと、練習がスムーズです。遅すぎず、速すぎず、い〜い感じに何度も走ってくれました。
ほんと、ご苦労さまでした！

動くものを撮るポイントはーー。
まずは、走る人を追いかけるように流し撮りするテクニック。
走る人にピントが合い、背景だけが動くように撮れます。

でも、ピントがずれても、こんなふうにい〜い感じに撮れることも。

小川講師いわく、
「何度もチャレンジすること。シャッタースピードを変えてみ

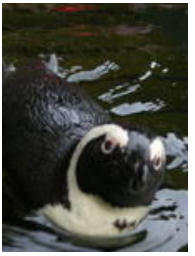
たり、自分も動いてみたり、いろいろ試してみることが大事。全部がブレていても、スピード感がある写真が撮れたり、いい表情をつかまえられたりすることもあるからね」ということです。
さらに、
「ピントがあって、きれいにまとまった写真より、ブレていても臨場感にあふれる写真の方が、何年かあとに見たとき、そのときのことをより鮮明に思い出したり、いい思い出になったりすることもあるよ」とのこと。
ブレていたって、斜めになっていたって、いいんですね！

シャッタースピードの設定を変えたり、連写の機能を使ったり、「へえ〜、私のカメラ、こんなことができたんだ！」との声もあちこちからから上がりました。

さて、練習を終えた受講生たちは、さっそく13時からの鷹匠ショーを見に、表へ。
鷹は、スタッフのご子息と違って（？）、あまりに素早い動き。なかなか思うように追いかけられません。でも、ネイチャーフォトチームは粘ります。どうしてみんな、カメラを持つとこんな根気があるんだろう、と思わずにはいられないほど。

鷹匠ショーのあとも、園内を撮影しまくります。

「鳥がこわい〜」と言ってた受講生とスタッフもいましたが、いざ撮影となると、いい写真を撮ろうと頑張るようです！



13時から15時までの撮影タイムはあっという間でした。
その後は、レクチャー会場の西南郷地区学習センターに場所を移します。会議室がいっぱいだったため、調理室でのレクチャーとなりました。

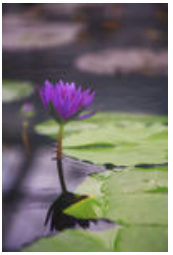
「お湯が沸かせて、コーヒーや紅茶が飲めるからちょうどいいね」
「レクチャーの雰囲気が変わって、新鮮でいいよ」
転んでも、ただでは起きないネイチャーフォトチームです。

今回の互評会は、久しぶりに全員の全部の写真を、時間をかけてじっくり見ました。うまく撮れたな、と思う写真も、そうじゃない写真も。全部を見ることで、その中のいい一枚が際立つし、「どう、よかったのか」がよくわかります。
そして、「これ、いいね！」の小川講師のひとことに励まされたりします。

写真は、たくさん撮って、たくさん見ることが大事だなあと改めて感じた今回の講座。また、同じ施設内を撮っても、やっぱりみんな、撮り方や撮るものが違ってくるのが面白い。
「そういう撮り方もあったんだん〜」
「そんなのところに、目をつけたん〜」
たくさんの人のものの見方を知ることで、自分の見方や世界が広がっていくようでした。

最後に、普段、あまりたくさんの写真を撮らない小川講師の写真公開です。
写真を見ながら、感嘆の声が上がります。

「小川先生〜、やっぱりうまいね〜」
「さすがだねえ〜」
「プロみたい〜」
「…ああ〜、プロか」



「だけど、あの、その、小川先生…、今日のテーマは『鳥』と『動くもの』なんですけど…」

コメント

写真機

動く少年の写真、とってもいいですね。

色々と試すと、意外な写真も撮れそうですね。

2009・03・30（月）

第７回ネイチャーフォト「原泉の春を撮る！」報告

第７回目を迎えたネイチャーフォトグラフィー講座は、春の風景を求めて原泉地区へ行ってきました。

メイン会場は原泉小学校の敷地内にある原泉学習センター。

まずはこちらで、いままでの講座の復習もかねて小川先生から撮影のポイントの確認をしていただきました。

サンプル写真をモニターで比較しながら、広角と望遠、

シャッタースピード、フレーミング、露出、モード設定などによってイメージがどうかわるかをおさらい。

７回目とあって、そのあたりはもうバッチリ！という方もあれば、だいたいわかってはきたけど〜、という方もあり(^_-)

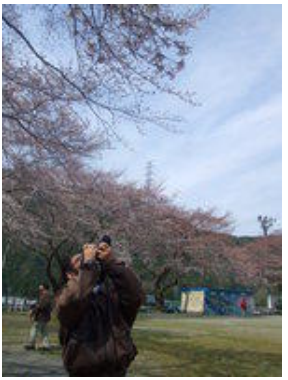
ポイント確認ができたところでさっそくぽかぽか陽気の屋外へ。

原泉小学校を中心に付近を１時間ほど自由に散策しました。

校庭の桜はまだ５分咲きといったところでしたが、こちらの小学校はあと１年で廃校になってしまうとうかがって、ネイチャーチームもなんとなく郷愁感にかられ撮影に真心がこもります。

学校の周囲にも春咲きの樹木や緑の茶畑、川沿いの散策路など心惹かれる風景がいっぱい。

草を掻き分け、斜面をよじ登り、しゃがみこみ、背伸びをして、みなさんそれぞれにいいなと思うシーンを時間いっぱい切り取っていました。



お昼はセンターに戻って昼食タイム。

和気藹々とお弁当を囲みながらも、あのあたりがいい景色だったよ、こういう場面ではどうやったら上手に撮れるの？と情報交換も活発です。

午後はもうすこし足を延ばして「ならここの里」へ。

キャンプ場の桜はもう一息でしたが、静かな川沿いはなかなかの眺め。

春休みの日曜日とあって、芝生の広場では元気に駆けまわるちびっこやわんちゃんのほのぼのとした姿も。

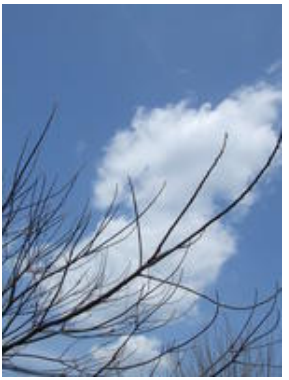
午前中に確認した撮影のポイントを反芻しつつ、同じ場所でいろんな設定を試したり、フレーミングにこだわってみたり。

誰かがかがみこんでファインダーをのぞいていると、何を

とってるんだろうとみんなが集まってきたり。

撮影に夢中になっている仲間をこっそり盗撮してみたり。

ここ数日の冷え込みがうそのような穏やかな春の陽射しの中で、気づいたらいつもよりたくさん写真を撮ってたよ、という方も多かったみたいです。



２時半ごろ再びセンターに戻って、コーヒーを飲みながら撮れたて作品の互評会。

今回も、同じような場所で同じような題材を選びつつ、ひとりひとりの個性とセンスの光る作品の数々に「へ〜」「ほ〜」と感心しきりです。

ただ見るだけではなく、ここはもう少しこうしたらさらに良くなるね、とアドバイスをいただけるのがうれしいところ。

露出やフレーミングなどはその場でぱぱっと画像処理した例を見せてもらえるので、ちょっとの工夫で印象にこんなに大きな差が！？とびっくりすることもしばしば。

今回は参加者が１０名と少なめだったこともあり、センター

をお借りしている時間ぎりぎりまで延長して全員の作品をじっくり鑑賞することができました。

毎年感じることですが、回を重ねるごとに受講生さんひとりひとりの写真に「そのひとらしさ」みたいなものがみえてきて、「さすが！」となったり「あれ、意外？」となったりするのもネイチャーフォト講座の楽しい部分だと思います。

講座のあとは　しばちゃん牧場に寄り道しておやつタイム。

やっぱりしめはこうでなくっちゃ（笑）

今回も仲良く楽しく美味しいネイチャーフォトでした(*^_^*)

来月は新緑のお茶畑に撮影に行く予定です。

おいしい新茶も味わえたらいいなと考えていますのでお楽しみに♪

2009・05・14（木）

第８回ネイチャーフォト「浮世絵鑑賞と新緑の茶畑を撮る！」

第８回目となるネイチャーフォトは、「浮世絵鑑賞と新緑の茶畑を撮る！」と題して日坂の中山峠に行ってきました。

旧東海道の難所といわれ、多くの歌が読まれた中山峠。

お天気にも恵まれ、お茶摘み直前の茶畑は淡い緑の新芽がきれい。モチベーションが上がるのなんのって…。

さて会場は、峠の頂にある浮世絵美術館「夢灯」さん。歌川広重や葛飾北斎の描いた東海道の浮世絵を展示しています。小川講師が雑誌の取材で館長の武藤さんに出会ったのがきっかけで、今回、会場として使わせていただくことになりました。そしたらなんと、スタッフ深田さんの中学時代の恩師でした！

まずは、撮影でもレクチャーでもなく、浮世絵鑑賞！
「浮世絵の構図に学ぶ！」とか何とか言っちゃって、武藤さんの解説に耳を傾けます。人気のあった先生ということで、さすが話が面白い。一枚一枚の解説だけでなく、浮世絵の世界のこと、職人の技のこと、いろいろな話をしてくれます。
「彫り師、刷り師の技術があってこその浮世絵」
「1mmの幅の中に何本もの彫りを施している技術の高さ」
などなど。
聞いていて「へえ〜！」ということばかり。

浮世絵で構図を学んだ後（？）は、さあ、撮影に出発。…と思ったら、さっそく扇屋で子育て飴を買い求める受講生や講師やスタッフたち…。

扇屋のおばちゃんが、飴を割り箸に巻きつける（？）シーンをさっそく撮影。ただでは起きないネイチャーフォトチームです。（室内での撮影の後だったため、感度を上げたままで撮影してしまい、色が飛んでしまったスタッフの写真！）

さて、今回のテーマは「遠景と近景を取り入れる」。日坂・東山の茶畑や粟ヶ岳、近景の新芽など、思い思いに撮影を楽しみます。

あっという間に１時間経過。

お弁当を食べ、新茶「つゆひかり」と日坂のわらびもちを楽しみます。お茶インストラクターの資格を持つスタッフの手さばきはさすが！

喫煙チームはデッキで一服。

さて、互評会では、小川講師の「みんな、うまくなったねえ～」のお言葉をいただきました。目のつけ所もいろいろで、同じ場所でも撮り方もいろいろ。仲間の感性に触れながら、ものの見方の幅も広がります。

さあ、次回は「最終回－川を旅する－ 」そして、「お楽しみバーベキュー＆ダッチオーブンパーティ！」です。
ローカル線天竜浜名湖鉄道に乗って小さな旅に出かけ、水田や川辺を撮影しながら、ハーフディトリップ「川」の講師でもある小川講師とともに川で思い切り遊びます。お楽しみに！

2009・06・24（水）

第9回ネイチャーフォト「最終回－川を旅する－」報告

最終回となった第9回ネイチャーフォトグラフィーは「川を旅する」、そして「お楽しみバーベキュー＆ダッチオーブンパーティ！」ということで、みんなで小さな旅に出かけてきました。

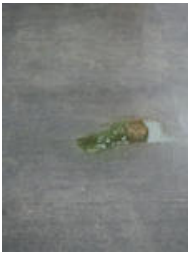
ローカル線天竜浜名湖鉄道の「市役所前駅」から「いこいの広場駅」まで、たった7分の乗車でしたが、電車は旅の気分を盛り上げます。あいにくの雨模様でしたが、撮影時はちょうど雨もやみ、水をたたえた水田や、ローカル線沿いの新緑を写真におさめつつ、原野谷親水公園までのんびり撮影を楽しむことができました。

日頃から「写真はカメラじゃない」と話している小川講師。
最終回となる講座の様子を、小川講師の、今回は一眼レフではなくコンパクトデジカメで撮影した画像を語録とともにお楽しみください。

【小川語録】
「写真はカメラで撮るんではなく、その人の感性で撮るんもんだよ」
「だから、同じ場所に立っても、みんな撮るものが違う」
「コンパクトデジカメであろうと、何千万円する一眼レフのカメラであろうと、カメラの基本動作そのものには何の違いもな

い」

「だって、その人の目に映るものしか撮れないから」



原野谷親水公園では、ハーフディトリップ「川」の講師でもある小川講師とともに水辺を楽しみ、川で思い切り遊ぶ予定でしたが、「思い切りバーベキュー」に変更です。美味しいお料理の数々、写真を撮るのを忘れるほどでした。
小川講師お手製のダッチオーブン料理「ローストビーフ」も絶品！
いっぱい食べて、いっぱい飲んで（一部、講師とスタッフ…）、楽しい一日となりました。

楽しんでいるうちに、なぜか写真が上手になっている不思議なネイチャーフォト講座。
仲間の写真を見て、
「へえ、そんなふうに撮っていたんだ〜」
「そんな場所があったんだ〜」
「やる〜う」
と、いろいろな驚きや発見をしているうちに、自分の写真の構図やフレーミング、テーマの捉え方が少しずつ変わっていく手ごたえ。ものの見方や自然の捉え方に、幅が出てくるような

……。

そして、毎日の暮らしの中でも、ふいに「ここ、写真に撮りたいな」「今、カメラ持っていればよかったな」というように、『写真を撮ること』が生活に加わるだけで、いろんなものをキラキラした目で見ることができるようになったと、そんなふうに感じます。

受講生の皆さん、一年間、楽しかったね。
来年度も、もっともっと楽しい講座になるよう、講師スタッフ一同、がんばっていきますので、どうぞよろしくお願いします。
一年間、ありがとうございました〜！

「2008年度ネイチャーフォト受講生の作品集＆講師のひとこと」はこちら。

2009・06・26（金）

2008年度ネイチャーフォト受講生の作品集＆講師のひとこと

2008年度のネイチャーフォトグラフィー。
受講生の全作品の中から、小川講師の独断と偏見で「この２枚！」を選んでもらいました。
「いい写真がたくさんあって、選ぶのがものすごく大変だった〜」と講師が言い訳するほど、ほんと、素晴らしい写真ばかり！

露出がどうとか、シャッタースピードがどうとか、そんなことより、仲間と一緒に楽しんでいるうちに、なぜか写真が上手になっている不思議なネイチャーフォト講座。
「みんな、本当にうまくなったなあ〜」と講師もうなっていました。

では、小川講師の講評とともに、受講生の皆さんの感性あふれる写真をどうぞお楽しみください！

【鈴木テン吉さん】

収まるべきところに車が納まっていて、空を大きく取り入れたフレーミングが活きている。空と陸地のバランスが見事。全体の印象や空の色から、盛夏ではなく初夏の風景を表現していて、好きな一枚。

テン吉さん、ただの酔っぱらいじゃなくて、けっこうなロマンチストだったんだねぇ……ってスンマセン（笑）
そうそう、ヨウコちゃんのサポートにも助かりました。
よろしくお伝え下され。

布なのか、ひもの束なのかよくわからないけど、ピントのボケ具合が奥行きや動きを表現していて、色が流れるカラフルな川みたい。こういうアブストラクト（抽象画）も好きなんだよね、オレ。ブレているんだけど、それが逆にいい味を出しているし……。

酔ってないときの写真はいいねえ、テン吉さん！……って、酔ってるときの写真は知らんのだけど……（笑）。

また飲もうね、うまい地酒！

できたらカメラを片手に……。

【東さっちゃん】

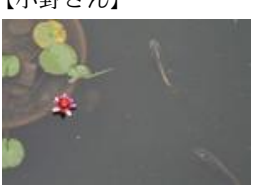
粟ヶ岳の「茶文字」の切り取り方に脱帽！

左右の生け垣の光と影のバランスが絶妙で、生け垣に咲く赤い花がちょっとしたアクセントとなっていていいね。思わず、その向こうに駆け出したくなる。で……真ん中の電線はご愛嬌…だね、はは。どうしようもないもんなぁ。

あ、ご夫婦二人での受講、ホントにありがとね。
で、どっちの方が巧くなったかは内緒。夫婦げんかになったら困る……へへ。

「動くものを撮ろう！」と出かけた花鳥園で、逃げる鳥をさっちゃん自ら追いかけながら捉えた作品。しっぽが切れてしまったのが少し残念だけど、鳥の焦りが感じられて思わず笑ってしまう一枚。この頃、おなかに赤ちゃんがいたんだよね〜。ヒヤヒヤもんだに〜。
でも、元気な赤ちゃんが生まれてよかったよかった！
本当に、おめでとう！
お子さんのイキイキした写真を、心待ちにしてまっせ〜。

【小野さん】



赤い睡蓮（かな？）の花が効いていて、魚の動きも面白い。小野さんの絵心を感じる一枚。赤い花にピントがぴったり来ていて、気持ちいいッス。小野さんの絵心を感じる一枚でした。花をこんなふうに切り取る感性には、ホント感心しました。
いつも柿の木ばっかり撮ってたもんねぇ（笑）

水田のかかしは本来は鳥よけのはず。なのに、かかしが雨乞いをする神主様（かかしの胸には……ギャルと書かれてるケド）のように見えて、ドラマチックな一枚に仕上がりましたねぇ。曇り空のディティールがよく出ていて素晴らしい。露出もアンダー気味で大正解！

寡黙で目立たないけど、ときどき、とんでもなく面白いことをボソッとつぶやく小野さんは、講座でもにこやかでい～味、出してました。

「ネイチャーフォト２年生。これで卒業」なんて言ってたけど、そんなこと言わずに時々遊びに来てくださいね！

お待ちしています。

【水野さん】

まずピンクの貝殻に目を奪われる……で、その視点を上に移すと、斜めに映る水平線が……。この風景には、ふとめまいを覚えてしまう……。みごとに「けだるい夏の午後」を映し込ん

だ、女性らしいアンニュイな作品だね。巧いなあ、と唸った作品でした。
水野さん、恋でもしてるのかな？（←セクハラ発言と言われちゃうかなあ～、へへ）

こちらも女性らしい感性を感じる一枚。水玉が光る傘と、飛び散る雨水。こりゃあ、傘にピントを合わせるしかないよね。
傘と遠景が見事に絵を二分割していて、フォトジェニックな一枚。雨の日だね～。フランス映画の一場面を見ているみたい。
……なのにここは、とうもんの里（笑）。さすが斜め撮りの水野さん、お見事！

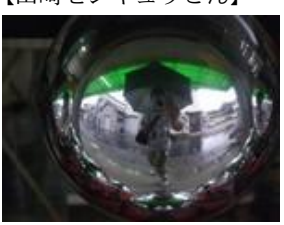
【斉藤チン】

これは、小笠山の屏風岩だよね？
切り立った両側の岩のあいだ、70～80センチほどの狭い道から、出口（入り口）を撮影したものだと思うけど、写真なら

ではの表現として見事な心象風景となっている。ピントが合っているとか、ブレているとか関係ないことの見本みたいな作品。斉藤チンにも、思いもかけない一枚だったんじゃないかな？もし、計算で撮ったとしたら「ブラボー！」としか言いようがない。……で、実際どうなの～斉藤チン？

一目見た一瞬、上下感覚がわからなくなるような不思議な作品。池に落ちた桜の花びらと、水面に映る春の空と木々。ありがちなモチーフかもしれないけれど、何か（別世界とか）の入り口を思わせるような、面白い絵になっている。
…だけど、斉藤チン、カメラをたまには掃除しようね（笑）。センサーがゴミだらけだに～。

【山崎ゼンキュウさん】



丸く光る球体に映る景色を接写した、面白い作品。球体の曲面を利用して、あたかも魚眼レンズで撮影したような効果を生んでいる。
中央に写るゼンキュウさんの片手で撮る姿が、とても力が抜け

ていて、ゼンキュウさんらしく微笑ましい。
この作品のタイトルは「自画像」で決まり！
どう？

カエルがこの岩を登り切ったとき、その向こうにはどんな風景が見えるんだろう……と想像してしまう自分がいるデスよ。なんだかカエルなったような気持ちに……ゼンキュウさん、前世はカエルだったの？
しかし、これだけの接写を気楽に撮影できるのは、コンパクトデジカメならでは、だね。
なんだかNHKの自然番組でも見ているようデス。
それにしても……たまたま通りかかったゼンキュウさんちの前。
カメラを手に、近所を撮影するゼンキュウさんの姿を見つけた時には、嬉しかったなぁ。

うん。

【田辺まこちゃん】

ちょっと前衛的な青春映画の一場面みたいな作品。右端に写る人影が、きゃしゃな少女みたいで、背中合わせの男の子ふたりも曰わくありげ……。ハイキーな露出と、カメラのブレが生んだロマンチックな一枚。なんて…実は、弁財天の海岸でみんなでスイカ割りをしているだけなんだけどね。←盛り上がったような、盛り上がらなかったようなスイカ割り、楽しかったし、美味かった……ね！

で、誰がスイカ割ったんだっけ？

こちらは、ガラス越しに切り取った雨の田園風景。右端に映るガラスについた水滴と、降り続く大粒の雨。その向こうに蜃気楼のように映る松林が雨にかすみ、物憂げで妙に心に残る一枚。いろんな作品を見て、まこちゃんの打つ蕎麦がなぜ繊細で極めつけに美味いのか……その理由がわかったような気が……、極上のもりそば、近いうちにまたよろしくね〜！

そうそう、まこちゃんが変な誤解をされても可哀想なので、今回は「のぞ◯写真」を外しました。

ファンの皆様、ご了承下さいませ。

【東クン】

雨に打たれる新緑のみずみずしさ、弱々しさ、柔らかさを、淡いグリーンのトーンで見事に切り取った一枚。ソフトフォーカスレンズで撮ったような、不思議なピント具合で、それが魅力になっているね。

これ、どうやって撮ったの？　う〜ん、不思議だ……。（笑）

レンズが高い湿度で曇っていたのかなぁ？

カラフルなタイヤでできた遊具を、ど真ん中から正々堂々としたアングルで切り取った一枚。広角撮影の効果がよく表れていて、思った以上の遠近感を生んでいる。フレーミングが見事だね。プリントして壁に飾っておきたくなるような魅力あふれる作品に仕上がっている。東クン、うまくなったなぁ〜〜、うんうん。で、一枚、プリントアウトしてくれない？　なんちゃって……。

というわけで……新米パパ、がんばれよ〜！

【全体の講評（小川講師のつぶやき）】

つたない講師ぶりですまなかったなあ……と思うし、実は一番楽しかったり、嬉しかったりしたのはオレじゃないか？と感じた講座でした。「こうしちゃいかん」「ああしちゃダメ」というのは写真には一切存在しないし、ましてやみんなは楽しみで撮るんだから、好きなようにじゃんじゃん撮ればいい。それによって、日々の生活に写真が花を添えられるようになってもらえたなら、講師冥利につきる、ちゅうもんです。
実際、みんなの作品の中にはまだまだ紹介したい「絵」がたくさんあったんだよ〜。
選ぶの、ホントーに苦労したんだから……。
いや、しかし本当に楽しませてもらいました。みんな、ありがとね。
何度も言うようだけど、本当に、みんなうまくなったなあ〜（しみじみ）。
うんうん。
何か相談ごと（写真のことだに。お金は無いでね）があったら、いつでも連絡してね〜。
……それにしても、もう一回、みんなでお酒を飲む機会を持ちたいねえ〜。どう？

2008・11・21（金）

11/15 『Ｎｉｐｐｏｎの芸』 報告

今年もNippon学が始まりました。
アクティビティープログラムの中では、毎年遅れて始まる冬限

定の講座です。
私達を取り巻く日本文化の格好良さや洗練された“粋”に迫るＮｉｐｐｏｎ学は、５つのホンモノを題材に上澄みで学ぶ贅沢な体験講座です。

第１回目は、11月15日（土）　真打の噺家さんによる『Nipponの芸』を堪能しました。
講師は、瀧川鯉昇（たきがわ　りしょう）師匠です。http://www016.upp.so-net.ne.jp/risho/

この日、掛川落語研究会主催の独演会があり、その前にＮｉｐｐｏｎ学で、そもそも落語とは・・・のお話しを一席交えてご紹介頂きました。
会場は杉谷の小笠教育会館のこじんまりとした和室です。

師匠には、講座の前に『古典芸能』である落語について、ご紹介をお願いします。とお伝えしたところ、この様な解説からお話が始まりました。

「皆さん、『古典芸能』と言いますが、『古典』という概念は新しいもので、やっている本人達はあまり『古典』の意識は無いんですよ。古いもの、型から外れないものを守りすぎては、現代に活きたものは伝わりません。歌舞伎や狂言の世界でも常に現代に理解されよう新化しています。よく、「近頃の若い者は・・・」と言いますが、言っている本人も嘗ては同様。「今日は、良いお日和ですね」の挨拶も除除に省略されて「こんにちは」だけが残ったように、言葉や文化は常に新化しているのです。その意味では現代までが『古典』と言えるかもしれません。現代を超えるとそれは『前衛的』と表現できるでしょうか。」と、ご自身の捉え方を含めたお話しをして下さいました。

時々、腹筋を刺激する（腹に堪える）お話しは、
そもそも、落語の起源は・・・。
落語家の生活は、恐ろしい縦社会・・・。
話芸と言われる「なにわ節・講談・落語」の違いは・・・。
『江戸しぐさ』が見直されている背景には・・・。
大学の教壇に立って感じる事は・・・。
欲しいモノと必要なモノの違い・・・。
などへと続き、およそ６０分に亘ってお話下さいました。

最後に「短い時間になりますが一席」と即席の高座にお座りになり、迫力有る名演技を見せて下さいました。～おいしそうな枝豆でしたぁ～

何時までも途切れる事のないお話しですが、師匠は最後に、「どうも、昭和３９年、東京オリンピック辺りを境に、それまでの日本文化といえる慎ましさや、曖昧で無駄を良しとする習慣が無くなった。無駄と思えるものを取り入れないと、本当に‘必要なモノ’と有ると便利だから‘欲しいモノ’の差が見えてこないんですよね。これからは、昭和３９年以前のモノやコトを習ってほしいと思います。」とメッセージを下さいました。

15：30から１７：００までの「Ｎｉｐｐｏｎの芸」に引き続き、都合の良い方は１８：３０からの寄席にも参加され、笑い疲れて帰路に着きました。

次回のＮｉｐｐｏｎ学は『Ｎｉｐｐｏｎの食』です。
おせち料理について、‘昭和３９年以前から’受け継がれてきた家庭の味を、８０歳代になる人生の先輩から習います。

2009・01・08（木）

12/23 『Ｎｉｐｐｏｎの食』報告

Ｎｉｐｐｏｎの食』報告

新年　あけましておめでとうございます。

皆さんは、どんなお正月をお過ごしでしたか？
お節料理も食べましたか？　そのお節はどんな感じですか？
･･･と、聞いてみたいＮｉｐｐｏｎ学です。

昨年12月23日（祝日・火）に行なった『Ｎｉｐｐｏｎの食』は、おふくろの調理・おばあちゃんの味をおせち料理を通して習い、和食の頂き方のマナーも学ぶ講座でした。
講師を務めて下さったのは、市内在住の野口和子さん。食の指導員などの経験を持ち、実生活では４世代家族のおばあちゃん

です。「私なんて年寄りが、とても皆さんの前で…」と、何度か講師役をお断りされましたが、無理やりお願いいたしました。

おせち料理の概略とレシピをまとめたレジュメ、参考資料の日本の行事食表、この日使う全ての食材を計量し、見本にご自宅のおせち料理までも作ってご持参して下さった野口さんには、全く頭の下がる思いです。

調理実習は、２班に分かれ、栗きんとん・伊達巻・田作りの３

品と、出来た料理をお膳で試食するので、そこに茜ごはんとお吸い物を加えた５品を９：３０から２時間で作りました。
先ずは、サツマの皮むきから･･･。くちなしの実を包丁の背で潰して鮮やかな黄色イモを作ります。火にかけている間に、米を研いで人参を摩り下ろしお米の浸責。フライパンでは煮干を煎ってカリカリにしたら火からおろし皿に広げて冷まします。絡める甘辛の蜜を作り、冷めたところで絡ませます。炊飯器のスイッチを押して、最後は伊達巻。白はんぺんの特徴を活かしミキサーで材料を合わせ、厚焼き卵用フライパンで微妙な火加減に気を配ります。程よくこげ色がついたら、鬼すのこでクルクル・・・。（随分省略した報告ですが）時間に押される事なく、全ての調理が出来ました。

受講生の腕前は、殆どご飯も炊かないOさんから、毎年お節を作るOさんまでそれぞれですが、その場で臨機応変に役割分担が出来、実に手際の良い仕事ぶりでした。野口さんも、目配り良く、数十年の経験や上手く調理道具を使ったコツを教えて下さいました。

お膳に載せて、隣りの和室で頂きます。

先ずはお屠蘇で乾杯です。
栗きんとんは甘すぎず、市販のものとは違い芋の味が活きています。
伊達巻は、焦げ目が丁度良い具合です。
大盛りにした田作りも、ほぼ完食されました。

お膳料理を頂きながら、それぞれ感想を聞かせていただきました。
「和食は地味で苦手だと思っていた」というＫさん。「栗の甘露煮シロップを混ぜるなど、改めてコツを知った」という主婦歴数十年のＯさん。農家に嫁いだＹさんからは、日本の行事食についてこんな意見が出ました。
「おばあちゃんが今日は何々だと、しょっちゅう赤飯を炊いていました。私にはその価値がわからなかったけど、何となく真似ています。息子が「また赤飯だ！」と笑うけど、止めてしまえば文化も途絶えてしまうと思い、最近になって肯定できるよ

うになりました。」
確かに日本の行事は、二十四節季や農作業に用いる暦を基に、節目を祝い、感謝してきた文化があります。今も残る代表料理がお節料理ですが、七日正月の七草粥・１１日の打ち初めの鏡開き、菱餅・ちまき・鰻・へそ団子・おはぎ・千歳飴・鯛のお頭・かぼちゃ・年越し蕎麦など分かり易い行事食でもこれだけあります。
野口さんはこう仰います。「私は畑に出ては季節を感じ、今日まで生きてこられた事をご先祖さまに感謝する日常生活を送っています。娘夫婦と生活をしていますが、忙しい娘に、私を見習えとは言いません。憶えていていつか真似てくれてくれたらいいな・・・と思っています。いつだったか若い奥さんが、「お供え餅は１１日まで待ったらカビが生える。三が日を過ぎれば鏡開きをしてしまう。」と言っていましたが、確かにその通りだと思いました。何でも昔のままが良い訳ではないのです。おせち料理も、今の便利な調理用具を使えば、こんなに簡単で辺りの作物や手軽に買える物で手作りができるんです。気負わずに、こんな方法が参考になれば幸いです。」と話して下さいました。

野口さんのお人柄やお話しから、日常の何が大切なのかを教わり、節目をきっかけに日頃に感謝をする『Ｎｉｐｐｏｎの食文化』を考える講座になりました。

コメント

さげ巻

行事食ってそんなに沢山あったの？と驚きました。
用意する立場だったら，なんと大変なことか！

野口さんが「今まで続けていたことを止めて家族に何かあったらいけないから」とおっしゃっていたのが印象的でした。ご本人には「伝統を守る」という気負いは見られず，「できるようになった時にやれることからやれば良い」と教わりました。

今回の講座は，とても身近なところから日本を見直すことができて面白かったです。こんな「Nippon」の文化の中に生まれた自分は幸せだなぁ，と思いました。

マドンナ

お世話になりました。
野口先生の雰囲気そのままの、ほんわりした
良い時間を過ごせました。

皆様と楽しく、口と手を動かしました！
技術もさることながら、
生活の積み重ねの中での思いを
認識し直す事ができました。

しかし、日本食は美しい！

S木

それにしてもNippon学は

毎度毎度とっても楽しそうですね～。

どれもこれも参加してみたくなります。

食いしんぼー

う～ん、美しく＆美味しそう！

来年は、おせち作りにチャレンジしてみようかな。

2009・01・29（木）

1/25『Ｎｉｐｐｏｎの画』報告

『Ｎｉｐｐｏｎ学』第3回は『Ｎｉｐｐｏｎの画』、日本画を知る体験講座でした。

講師を勤めて下さったのは、菊川にお住まいの日本画家・渡辺嘉代さんです。

以前、当ＮＰＯの井村代表のお宅兼ギャラリーで、嘉代さん絵を見せていただいたのがきっかけで、「日本画」とは何だろう？日本人が描いたものを指すのか、日本を題材に描いたものなのか、それすらも分らず･･･。多くの日本人に馴染みのない「日本画」の世界を教えていただく事になりました。

今回は残念ながら欠席が多く、受講生３名・スタッフ２名、そこに嘉代さんのご主人が助っ人に加わって頂き少人数での開催になりました。会場はたまりーな・工作室です。

先ずは、嘉代さんが用意して下さった資料をもとに日本画の歴史を学びます。

日本に絵が入ってきたのは飛鳥時代が始まりとされています。仏教の伝来と共に中国から絵師や技法が渡来しました。飛鳥・奈良時代・平安時代・鎌倉…と中国からの文化の流入に影響されながら日本独特の絵が確立されて来ました。主題も仏教画・美しい絵巻・将軍像・金銀を用いたもの…と変化しながら、千数百年の歴史をもつ世界的にも珍しい美術となりました。明治時代になり、西洋から油彩画が伝わり「洋画」と呼ばれたのに対し、これまで伝わってきた日本独自の技法や様式のものを「日本画」と呼び始めました。その定義は、板や紙や絹または麻に、筆を用いて、墨や顔料を使い膠（にかわ）で接着させたもの、これが日本画です。

キャンバスになる和紙や絹、絵の具になる天然鉱物の顔料、膠、筆の数々も見せて頂きました。

東京芸術大学大学院で保存修復技術研究をされていた嘉代さんは、日本画に対する思いをこう仰います。「千数百年も前に描かれた絵が風化に耐え現存するのですから、その技術が優れているのは確かです。本来の日本画の画材は全て天然の物を使っているので、材料代も安くはありません。最近ではカルチャースクールなどの日本画人気で、手軽な材料が出回るようになり、本来の画材を作る技術の伝承も危うくなっています。しかし、そのような安易な画材や保存料を使った作品が千年先まで残るか誰にも分りません。私達はそこに危険を感じています。手間をかけてでも本来の技法を受け継いでゆく使命を感じています。」

日本画とは何かがつかめたところで、‘ホンモノの’画材を使わせていただきましょう。
今回は、スケッチはしません！ご安心下さい。『暈繝彩色（うんげんさいしき）』に挑戦です。
仏教寺院などの柱や組物で見掛ける事があるカラフルな絵で、東洋では古くから用いられた彩色法です。ぼかしを使わず、同系色を２～３段または５～６段重ねる事により、濃淡で奥行きや凹凸を現しています。仏像の足元にある「漣弁（れんべん・蓮の花びら）」には、平安時代に描かれた暈繝彩色が今も残り、一枚ずつ異なる極楽浄土を表す図柄は、近年になり解読や復元がされているそうです。その極々一部を体験させて頂きます。

まず、色紙に図柄を写したら、白えのぐ「胡粉（ごふん）」作ります。牡蠣の貝殻をゴリゴリと砕き粉状にし、そこに膠を混ぜて耳たぶの硬さの団子を作り、それを水で丁寧に解いて出来上がり。それだけでおよそ３０分かかりますので、根気の要る作業です。白えのぐを図柄の内側に塗り、乾くのを待ちながら、ここで昼食です。
持参したお弁当を広げ、差し入れの明太子とトン汁、デザートまで付きました。

午後は、赤えのぐと胡粉をまぜた桃色・黄色・薄緑を嘉代さんが作って下さり、それを内側に塗っては乾かしの連続で、色を重ねて行きます。絵の具を混ぜないのも日本画の特徴で、白皿上の絵の具は乾燥が速く、比重の重い顔料は直ぐに沈殿します。筆に取るには常に混ぜてから含ませ、広い箇所はたっぷりと取り大きく動かし、細い線は大らかな気持ちで思い切りよ

く。筆も一色ごとに丁寧に洗います。

午後のコーヒータイムを挟んで、最後は高価とされる「群青」

と墨を入れて絵を引き締めます。

息を止め･･･、ため息をつき･･･、筆先に集中し･･･、午後４時に完成しました。

最後は嘉代さんのご主人が参加者の名前をデザインして下さった落款を押して出来上がり。

小さな色紙が華やかな日本画になりました。艶のないマットな仕上がりが、日本的な気がします。

講座が終わり、改めて嘉代さんの作品を見せていただくと、創作の大変さが少し想像できます。

世界の美術家に影響を与えてきた日本画です。身近な美術館でも足を運び、皆さんにも日本人として日本の宝を知る事をお薦めします。

コメント

yoshie

お世話になりました。

色を捏ね・・

筆先に神経を注ぎ・・

目に深く色を焼き付ける・・

凝縮した、いい時間でした。

嘉代先生の「いいですよ〜」に救われました！

さげ巻

中国から職人が日本にやってきた時代に想いを馳せたり

鉱物や植物から顔料を採取する様子を想像したり・・・

思った以上に幅広く，そして奥が深い講座になりました。

本物に触れ，本物を使うという貴重な体験ができ，

yoshie さんがおっしゃる通り「凝縮した，いい時間」でした。

ねー。

2009・02・13（金）

2/8『Ｎｉｐｐｏｎの酒』報告

２月８日・日曜日、ＪＲに乗って藤枝の青島酒造へ･･･
Ｎｉｐｐｏｎ学の第４回は『Ｎｉｐｐｏｎの酒』でした。

様々な角度から日本の魅力を再発見する「Ｎｉｐｐｏｎ学」ですが、昨年から変わらず継続しているのが、日本酒の仕込みの真っ只中‘聖域’への酒蔵ツアーです。
この時季、蔵人達は身を清め肉食を絶ち、外界とは遮断した生活で酒作りに精進しています。特に青島酒造は、昨年県下の地酒で金賞を取ったほどの蔵元ですから、張りつめた現場です。見学する側もそれなりに、前日から食事は規制し、身を清め、女性はスッピンで。日本酒が出来るまでの行程を事前に予習して訪れました。

今回の参加者は受講生６名・スタッフ２名に加え、平野校長や他のプログラムの講師もゲストに加わり、総勢１４名になりました。

午後２時、青島酒造に到着。
旧東海道沿いの佇まいにも、何か真摯な雰囲気が漂います。

このツアーを受け入れて下さる青島孝専務は、蔵元の取締役でありながら杜氏という職人です。それは全国的にも稀なケースです。アメリカで投資理論を学び、瞬時に数百億円の運用をされていた経歴から一転して、非効率な酒作りを継ぎに帰国した青島さんには、この土地ならではの酒をご自身の手で極めようとされる信念があり、直向に邁進されている様子が伺えます。

見学は、酒の原料「水」「米」「菌」のそれぞれを学びます。

「水」は南アルプスの伏流水が、地下６０mから常に豊富な水量を保ち供給されています。試飲させていただきましたが、水温や口当たりの柔らかな感じです。

「米」は、品種や出所、精米の仕方、洗米・浸漬、蒸米への行程と、それに関わる人の手を惜しまないこだわりを聞き、伝統を守る物作りの精神を感じました。

「菌」は、米と絡み麹となる室の様子や、蔵元の命とも言える門外不出の黴を目の当たりにさせて頂きました。

次は仕込みの行程です。
大きな仕込み樽では、「酒母」（しゅぼ）と言われる発酵の元が作られています。今朝仕込んだばかりの樽は米粒がはっきりと分り、仕込んで一週間の樽はプクプクと泡が一面に盛り上がっています。栗の匂いと言うか、蜂蜜林檎のような甘くフルーティーな香りがします。次に、隣りの仕込み部屋に移動します。こちらでは大きなタンクが幾つもあり、中ではピチパチピチパチ･･･と醪（もろみ）達のおしゃべりが続いています。

この日の蔵では、すでに一度目の搾りを終えているそうで、貯

蔵タンクにはすでに今季の酒が貯えられていました。

最後は瓶詰めの行程になりますが、その前に試飲させて頂くことになりまして･･･

･･･、うまい！

･･･刺身が欲しい！

･･･試飲だけでは疼きますので、場所を変えて更に堪能させて頂きました。

青島が用意して下さった『喜久酔』（きくよい）は全部で８種類です。地元のお米・松下米の４０％だけを使った稀少な純米大吟醸を食前酒に、松下米５０・大吟醸と続き、ゲストの佐藤さん推薦の「トクホン」（特別本醸造）を食中酒に頂くと、すっきりとした素直な静岡型の地酒を味わう事が出来ました。

料理もうまい！　藤枝駅近くの「友喜」（ゆうき）という季節料理店では、低価格で刺身・牛肉の煮込み・鰆の西京漬・牡蠣・鍋･･･、日本酒にあてに最高な料理を出して頂きました。

そして、人も良い！　これまでのＮｉｐｐｏｎ学は欠席だったＡさんは、「喜久酔」の美味しさに感動したようで、青島さんに「私、正直、今まで日本酒をナメテました。スゴイです。ホントに･･･びっくりしました。ホントに･･･、ホントに･･･」と興奮が収まらない様子でした。

Ａさんの舌も確かなもので、実はこの『喜久酔』は、食をもっと楽しむための雑誌『ｄａｎｃｙｕ』（ダンチュウ）の最新号において、純米酒選手権で、食中酒の人気第１位に輝きました。

ストイックなまでに酒造りをされている方を連れ出し、煩い酔っぱらい化した一行を代表してお詫びを言うと、「いいえ、みんなが楽しそうで嬉しいです。前の仕事は大もうけをして笑う人が居れば、必ずその裏で大損している人が居ました。酒は作り手も含めて、みんなが幸せになれる素晴らしい物だと、こうした瞬間に感じます。」と仰いました。

…青島さん、惚れました！（参加者の声）

午後７時、藤枝での贅沢な遊びは終わり、余韻を残して解散し

ました。

コメント

yoshie

美しかったです。

空気も・・佇まいも・・

酒も・・青島さんも・・・・

ぞっこん！参ってしまいます。

8

参加された皆さん、

それぞれ、いろんなモノに酔っています。

幸せですね…。

青島さんファン

電車で行く遠足気分、緊張の酒蔵、日本酒の美味しさ、と楽しい時間でした♪

いやぁ～・・・青島さん、私も惚れました！

さげ巻

幸せを運ぶ喜久酔，すばらしいっ！！-----

2009・04・25（土）

3/22 「Ｎｉｐｐｏｎの語」報告

Ｎｉｐｐｏｎ学の最終回は、３月22日（日曜日）

奈良の詩人・山吹草太さんを迎えて『Ｎｉｐｐｏｎの語』を行ないました。会場は、言霊神社の事任八幡宮（ことのままはちまんぐう）。

鳥居の前には、ソメイヨシノが咲き初め、境内には楠の大木。１２００年の歴史ある空気が漂っています。杉木立の中で行なう予定でしたが、生憎朝からの雨で、社務所をお借りし室内で行ないました。

ａｍ１０：３０、講師の紹介と共に、学術的に日本語を学ぶのではなく、表現する視点で詩人から学んでみようとする今回の趣旨を紹介し、講座が始まりました。

それにあわせて山吹さんから、「うつくしい言葉」とは、飾り

立てた言葉ではなく、自分の内包している等身大の言葉である事。文字が無い時代の「口伝」の重みと、現代社会で目立つ政治家の失言、「Ｗｅｂ詩人」や「ブログ」が流行る昨今、詩と日記の違いとは何か･･･、などが語られました。日本語の特徴は、解釈が豊富である。特に詩は、何を書かないか・言わないかが大事で、その事により、読む側が自身と照らし合わせて感じ・考え・汲みとり、様々に解釈をする。こうして言葉と向き合う事で人生が切り開かれてゆく事ができる世界なのだと教えて頂きました。
事例に、山吹さんの詩より、『花売りの少年』・『雨の日の午後』・『春の戯れ』が紹介されました。詩は、発表すると作者のもとを離れ独り立ちしていくものだそうですが、今回は山吹さんに朗読して頂き、この詩が作られた状況や胸の内を話していただきました。（とても希少だそうです。）　詩が作られる過程で大切な事は、技術ではなく感受性の様です。

「さて、では…、
皆さんにも詩を作って頂きましょう。
『春』をテーマに、ひとりずつ。
出来たら、色紙に書いて発表しましょう」
と言う課題に、受講生のみなさんは抵抗もなく取り組みました。

ａｍ１１：３０、メモ用紙と鉛筆を持ち、雨の中でひとり瞑想。

途中、おいしい「天むす」のお弁当で緊張感を解き、またまたひとりになって黙々と言葉と向き合いました。出来た詩を色紙に書きながら気づいた事は、縦書き・横書き・漢字・ひらがな・カタカナ・改行などを、使い分けによって、ニュアンスが変わる日本語の豊かさです。

ｐｍ１３：００、（私は）まだまだ未熟な状態ですが、覚悟を決めて発表しました。
雨粒が心臓の鼓動に聞こえ命を謳った詩や、息子さんの巣立ちを応援する詩、家族を想った詩、希望の詩など、朗読される度に歓声が上がり、作者の人柄がわかる優しい詩の数々が出来上がりました。山吹さんはそれぞれに「う～ん」と感心し、善し悪しや評価する言葉は避けているようです。そして、逆に即興の詩を発表していただきました。

『それぞれの春は、
ひとつの春の中に
うまれる』

ｐｍ１４：００、発表も終わりコーヒータイム。雑談の中で山吹さんが、「知識を詰め込むより、生活を豊かにする知恵が大切です。良い講座とは、日常の中にあって、いつの間にか終

わっていて、満腹感の無い様なものかなぁ…」と仰るように、とてもリラックスの中で、講座が終了しました。

山吹草太さんの詩はこちらから↓
http://www.tamajin.jp/column/?w=23&n=00001

コメント

yoshie

霧雨の降る、静かな時間に
言葉を、噛んで・・噛んで・・
含んで・・呑み込んで・・・

言葉も、思いも、深く見つめた
良い時間でした。

八

受講生のyoshieさん
「風が首に絡む」
素敵なフレーズができましたね。

意外だったのは、
詩は机上で作るのではなく、

日常の光景の中で生まれる事でした。
私も散歩の途中にひとつ、
講座の後に作りました。
山吹草太
みなさんお疲れ様でした。
日常生活の中に詩という世界があることは、
とても豊かなことです。
どこかスローライフに通ずるものがあります。
また遊びに行きますね。
八
山吹草太さん
大変お世話になりました。
短時間の講座で、詩を作って朗読するのは、
難しいかな？と心配しましたが、大丈夫でしたね。

今度は、違うメンバーも加えて
また、やりましょう。

2008・07・12（土）

第１回ハーフデイトリップ『川を旅する』報告

７月５日(土)　朝８時から午後１時３０分まで、第１回「ハーフデイトリップ」をおこないました。受講生は１０名中７名が参加、スタッフは佐藤雄一・長谷川八重・石山有子です。

集合した市役所の駐車場では、一年間の講座のブリーフィングが行なわれ、ＮＰＯの井村代表や山下事務局長から挨拶がありました。校長からは「五感で楽しんだり、講座の中で五感を呼び起こし、それを日常へ活かし生活をもっと豊かにして下さい。」とのメッセージが送られました。

今回のテーマは『川を旅する』。講師は、水生昆虫研究者でカメラマン・フライフィッシャーの小川博彦さんです。先生曰く「良い川とは、上流・中流・下流がはっきりある状態の川」だそうです。最近では、この中流のない川が多くなり、中流域特有の魚の生息や、蛇行しながら林や里山を抜ける環境が貴重なのだそうです。掛川市を起源とする「原野谷川（はらのやがわ）」は、どうでしょうか･･･。そんなテーマをひとつ持ちながら、半日の旅に出かけました。

最初の場所は、中流域に当たる原野谷川の親水公園・西山橋の下です。配った資料には、取れるであろう魚や水生昆虫が図解で載っています。‘もしかしたらナマズ’を期待しながら、川遊びが始まりました。
梅雨の川は水量が多く、日によっては濁っていますが、皆さん、躊躇い無く川へザブザブ入り、タモ・ブッタイを使って“がさがさ”魚取りをしました。“深みに嵌って”腰まで漬かって潮干狩り状態の紳士淑女のお姿も･･･。

捕まえた魚は、かじか・かわむつ・かまつか・しまどじょう

・ぼうずはぜ・はや・よしのぼり・すじえび・アメリカザリガニ・あめんぼ・かげろう・とびけら・とんぼのやご･･･等等。バケツやトレイの中には子供の頃の記憶を呼び戻す光景が増えてゆきます。小川さんの楽しい解説を聞きながら、興味のある魚をペットボトルに移し、横から下から３６０度観察します。

１０：３０を回り、次は上流へ移動です。途中、柴ちゃん牛乳でおいしい乳製品を食べて、‘ご自由にどうぞ’のすももを木からもいで、産直のニンニクを買うなど休憩しながら、ならここの里へ１０ｋｍほど遡りました。川に入ってみると先ほどより水温は低く、水がとがっている感触です。魚の姿は少な

く、サワガニ・水生昆虫はなべぶた虫・へびとんぼ・ががんぼ・かげろう･･･等等。気温も上昇してきたので水に漬かってひと休みが何とも贅沢な感じです。再び、トレイに乗った水生昆虫の解説を聞き、たった１０ｋｍの違いでも川をとりまく環境で水中の大きな違いがわかりました。

１２：００を過ぎ、昼食は地元のおばちゃん達でつくるならここ杣の家のお弁当・６００円。産直きゅうりを川の水で冷やし、手で割って、ニンニク味噌をつけてポリポリ食べました。

このまま昼寝でもして居たい感じでしたが、１３：００には終了の挨拶で、現地解散になりました。受講のＨさんから「5

０年ぶりに川へ入って、楽しかった」と感想を寄せて頂きました。

次回は『石が旅する』です。

９月６日（土）・掛川の豊富な地層をコツコツ掘って化石を探し、時空の旅に出かけます。

2008・09・18（木）

第２回ハーフデイトリップ「石が旅する」報告

ハーフデイトリップ（半日の旅）の第２回目は、『石が旅する

9月』。
9月6日（土曜日）市内下垂木鰯原（やしばら）へ化石を掘りに出かけました。

掛川市は、実は化石が多く採掘されるところです。鮮新中期から後期（約500万～170万年前）の貝化石群の代表的産地としても有名で、「掛川層群」は多くの学術書にも登場します。特に、人類が誕生する200万年～300万年前の化石が「大日砂層（だいにちさそう）」となって、今もしっかりと地中に残っています。土地開発などにより、数百万年ぶりに現れた地層から、化石を掘ってみようというのが、今回の講座。

講師の鈴木政春さんは、静岡県地学会の会員で袋井市観光協会にお勤めです。息子さんの夏休みの宿題を手伝ったのがきっかけで掛川の化石にとても詳しくなり、それからおよそ30年、地域学習の講師などもしていらっしゃいます。
今回の採掘場所は、今注目の、土石採取中の土木建設業者の私有地にお邪魔致しました。

８：００　　さんりーな西駐車場に集合。今回の参加者は６名の受講生と、スタッフ・講師などをあわせた１２名です。前回お休みだった山崎さんと青島さんからご挨拶を頂き、ブリーフィングをして出発。

８：２０　　現地着。こんもりとした山は‘宝の山’。ゴロゴロしている化石たちが生きていた時代とその頃の地形などを学び、採掘開始。

む？これは？と思ったら、先ずは歯ブラシでゴシゴシ、数百万年の間眠っていた巻貝や二枚貝が現代に蘇る。様子が解れば土の塊から剥がしだす。ホタテ・ナガラミ・ベンケイガイ・・・など今より堀の深い古代的なシルエット。ほどほどで止めないとハラハラ、ポロポロと原型がなくなっていく。諦めると隣りからもっと魅力的な化石が出てきたりする。まるでどろんこ遊びと宝探しが一緒になった感じです。

途中スタッフから何度も「水分補給を忘れずに！」と声が掛かるほど夢中で化石掘りに投じました。

１１：２０　　休憩。本日のお弁当は二瀬川「魚平」の幕の内お弁当、７００円也。写真には載りませんが別に鰹の刺身が５切れ付き。化石の横でブルーシートを広げて刺身を喰らうのは、なんとも言えない取り合わせです。

１２：００　　レクチャー。ここであらためて地球年表と大陸移動のお話を聞きました。－－－地球は誕生し変遷し、現代に至っている。今だけを生きる我々はその時空を想像し難いが、化石を通して過去の生物の変遷や、数万年単位で変化する海水温や気象、またはプレートの位置の解明、大陸移動など、地球の壮大な歴史手ががりを得ている。化石の魅力とは、ただ古い・珍しいだけでなく、その発見によって地球の歴史が紐解かれる魅力を持っている－－－。というお話しでした。
最後に各自が掘り出した化石を先生に見ていただき、クールダウンのアイスを食べて終了となりました。

2008・11・21（金）

11/1 ﾊｰﾌﾃﾞｲﾄﾘｯﾌﾟ『星』 報告

ハーフデイトリップ　の３回目
『星に旅する１１月』が、１１月１日（土）「五明彗星発見の

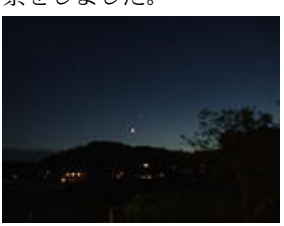
丘」と五明茶工場をお借りして行なわれました。時間は１６：００～２１：００、夜間飛行の旅です。

講師は、１９９４年に彗星を発見され、以後９つの新星を発見されている市内在住のアマチュア天文家　西村栄男（にしむら　ひでお）さんです。
西村さんには２００６年度から毎年講座をお願いしています。
今回は、天文の基礎をまず座学してから、実測に移り、観測した天体をスクリーンに投影し再確認する計画です。
参加者は受講生８名とスタッフ４名、五明から組合長夫人の松浦さんにもおいしい呈茶を頂きました。

座学では、
黒板を使って、太陽系の天体の位置や軌道を確認。
“水・金・地・火・木・土・天・海・冥。冥王星は惑星から外れたんだけどね”の説明に少しずつ思考回路を宇宙に合わせてゆきます。

・・・地球と太陽の距離は、光りが８分間で届く距離。これを１天文単位とし、冥王星と太陽の距離は４０天文単位。時間に換算すると５時間２０分の距離である。同様に換算すると２２０万年の距離にあるのが、アンドロメダ星雲。前回のトリップ『石が旅する９月』で採取した化石が生きていた頃、つまり人類が地球に誕生した頃の光が今頃届いている。
太陽を中心とした太陽系には、太陽を軌道の中心としない楕円の軌道の小天体（彗星）が幾つもあり、それらが太陽に接近した時、そのエネルギーで飛ばされる塵が光り流れる。これが、いわゆる流れ星(ほうき星)。彗星が訪れるサイクルは、何十年に一度のものが多く、低い確率の中で最初にそれを発見するのが西村さんの研究だそうです。

１時間ほどの座学の後は、場所を彗星発見の丘に移し、星空観察をしました。



限定した時間でしか観測できない一番星の水星と三日月を天体望遠鏡で覗き、美しさにうっとり・・・。西村さんが定点観測をされている間に、私達は星空を眺めながら軽食を取りました。各自が持参したおむすびとスタッフ手製のトン汁、暗がりの中での食事は鼻〇が垂れても許して貰いましょう。

本格的な星空観察はこの後１時間程行いました。目が慣れてくると、満天の星が見て取れます。木星・スバル・天の川・おりひめと彦星・白鳥座・夏の大三角形・カシオペア座・北極星・オリオン座・北斗七星・カペラ・・・そして、アンドロメダ星雲。その間、肉眼で流れ星が５つも観測され、ひとつは流星花火の様に間近で散った光もありました。

秋は流れ星が良く見られるそうです。特に明け方は、太陽と地球との位置関係から観測には適した時間だそうです。

身体が随分冷えたところで、再び茶工場２階へ移動しました。残念ながら、この日観測できた画像はスクリーンに映し出すことは出来ませんでしたが、今まで西村さんが観測された画像や世界的にも有名な彗星の写真やイラストを見せていただき旅が終了しました。

最後に西村さんが「最初に天体を発見したら名前が残せるので始めた星空観測ですが、続けてこられたのは多くの方との出会いや援助によって、自分の研究が天文学の研究資料となり、社会に貢献できていると実感するからです。」と仰いました。
前回の地質研究家の鈴木さんも、確か同じことを仰っていました。

2009・02・16（月）

2/14「鳥と旅する２月」報告

ハーフデイトリップの第４回は、１月３１日の予定が、前夜からの嵐で２月１４日に延期。１４日前夜も再び嵐･･･、朝までの強風に脅かされましたが、天気予報の「回復し、温かい春のような日になるでしょう。」を頼りに、小雨の残る朝８時に集合し、『鳥と旅する２月』に出かけました。

旅先は磐田市の桶ヶ谷沼。この時季は冬の野鳥が飛来しています。水辺には白鳥や鴨類が、山には小鳥が多く観察できます。沼の周りには整備された散策道があり、園内の梅も見ごろでしょう。講師は、日本野鳥の会　遠江支部の山崎孝弘さんと袋井の鈴木さんにアシスタントをして頂きました。一行は受講生が６名とスタッフ３名です。

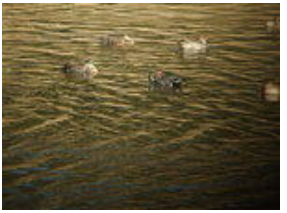
8:30

桶ヶ谷沼ビジターセンターの駐車場をお借りして、先ずは双眼鏡の使い方からブリーフィング。案の定、雨は上がり雲の切れ間には日差しが出てきました。

9:00

身支度を整えて観察へ出発。いきなり（と言うか、当たり前ですが）カラスを発見。この辺りのカラスにも２種類があり、見た目の違いや鳴き方の違いによる見分け方を早速教えていただきました。バードウォッチングは、目で探すばかりでなく、耳を欹て五感を働かせて観察するのだそうです。遠くには、「トンビ」も旋回を始めています。

水路のある水辺に着くと、鴨の群れが水から上がっています。ここで、講師のフィールドスコープとよばれる望遠鏡をセットオン！･･･覗いてびっくり、本当にキレイです。一本一本の羽の色が見て取れ、直ぐ目の前に居るようにハッキリと見えます。何度も覗いては、野鳥がこんなに綺麗だったとは…とため息をつきました。



少し歩いて観察小屋に着くと、池の全体が見渡せ数百羽の水鳥を一気に見る事が出来ます。お目当ては美しい配色の「トモエガモ」。ロシア・バイカル湖から越冬に訪れ、殆どが朝鮮半島に飛来しますが、日本にも山陰地方を中心に千羽近くがやって来ます。そのうち２０羽近くが、毎年桶ヶ谷で見る事が出来ます。先週の調査では２３羽が観測できたそうです。双眼鏡で一斉に探し、「発見！」の声と同時にスコープオン！覆面レスラーのようなトモエ柄がしっかり観察できました。

その他の水鳥も目が慣れてくると違いが分ってきます。お尻にアンテナを立ててスーっと移動するのは「オナガガモ」、正面から見て口の端が広いのは「ハシビロガモ」、地味なのに気品のあるのは「オカヨシガモ」、グエグエッとうるさいヤツは「マガモ」、口笛のようなピーピーと鳴くのは「コガモ」、目が金色に光るのは「キンクロハジ」、越冬しない「カルガモ」「亀」の甲羅干し･･･。カモ同士の小競り合いや、時々隣りの池から数羽でやって来ては不器用に着水する様など、観察小屋からはカモたちの生活を覗き見る事が出来ました。

講師の鈴木さんによれば「先週調べた結果、今８５６羽の鳥がこの池に居ます。」と仰いましたが、動きの有る鳥をどう観察するのでしょう。そこを質問すると‘紅白歌合戦’でお馴染みの形だそうです。　･･･はぁ、ご苦労様です。

次は、小屋を後にして山道の散策に入りました。オオタカが遠くで旋回し、コゲラが高い所で木を突付いています。枯れた立ち木には啄木鳥の跡が有りました。

山道を下り、整備道路に着く頃には気温が２０度を超え、初夏

を思わせる日になっていました。「モンキ蝶」がヒラヒラと飛んでいます。山の高い枝にワシタカの「ノスリ」が留っています。猛禽類のイメージとは違い可愛い目をしています。散策を続けていると後から追いかけてくるように上空を優雅に旋回して見せてくれました。

「アオジ」のご一行が小道に降りて枯葉をつついています。一寸見ごろを過ぎた梅園には、たくさんの「メジロ」が留っています。梅に鶯は初春のイメージですが、実は鶯は薄茶色の鳥で‘鶯色’とは‘メジロの色’だそうです。

他にも「エナガ」「ヤマガラ」「ホオジロ」「カワラヒワ」「ツグミ」「ヒヨドリ」などを見る事ができました。しかし、桶ヶ谷沼の生態系も、ブラックバスや捨てられた亀などによって崩され、近年積極的な保護活動をされているそうです。

12:00
観察を終えてビジターセンターに戻り、スタッフ‘ありちゃん’の手作りクッキーとバレンタインチョコとお茶で一服しながら、最後は質問などのまとめの時間です。
「トモエガモ」が桶ヶ谷沼を好む理由も、どうやってこの場所を記憶しているのかもわかりません。掛川駅の大量のムクドリは何？　鳥の視力は４．０もある？　ツバメは人を見方に付けたくて軒下に巣を作る？　街でもカワセミは見られる？…などなど、鳥について知らない事が結構多いものですね。

私達の日常には多くの鳥が居ますが、路傍の花に目を向けるように鳥を意識してみると、またひとつ生活が変わるかもしれません。

帰路の途中で‘親子丼’を食べて、１３：３０終了となりました。 -----
EXTENDED BODY:

2009・05・13（水）

５／９ハーフデイトリップ（樹）の報告

５回目にして最終回のハーフデイトリップは、『樹へ旅する５月』と題し、浜松市春野町へ、『春埜山（はるのさん）の大杉』を見に行きました。掛川からは車で約１時間、神仏混淆の春埜山大光寺には、行基菩薩が開山の際にお手植えされた（らしき）杉が、樹齢１３００年を越え、県の天然記念物に指定されています。この御神木との出会いが今回のテーマ。

ガイドをして下さる講師は、森林インストラクターの中山高志さんです。中山さんには昨夏、キウイフルーツカントリーにて森のワークショップをして頂き、大変好評でした。また本業の林業と、自然観察の側面から多角的に山里のガイドをして頂きます。参加者は、受講生５名に加え、東京学芸大学の鉄矢悦朗先生と学生のさつきさんをゲストに迎え、スタッフ６名の合計１４名での旅になりました。

朝７：００　市役所駐車場に集合しブリーフィングをした後、スタッフの車３台に分乗し、およそ１時間の距離を北上しました。途中、社を囲むように大きな銀杏の御神木が３本立ってい

る古めかしい神明神社で休憩。鳥居横の太い杉を教材に、樹形から推測する樹齢を教えて頂きました。

再び車で山道をウネウネと進むと見晴らしの良い山頂に到着。標高およそ８８０m。遥か遠くに残雪の山が見えます。天気予報の「７月並の暑さでしょう」の下界に対し、５℃低い気温はとても爽やかです。

ここで車を降り、次は道路を散策しながら両脇の自然観察をしてゆきます。カエデ・タラ・山うるし・きぶし・やしゃぶし・黒もじ・木苺・・・、特徴的な木や花を教わりメモと記憶に努めました（?）が、追いつかず！…楽しむ事にチャンネルを切り替えましょう。

大光寺の鳥居に到着し、杉木立の中で自分の歩幅と指で作った『Ｌ』の字で、木の高さの測定方法を教えて頂きました。暫く歩くとサンショウウオが道に迷っている様子。木にはムササビの巣穴が。そして、いよいよ巨樹が現れました。５０m程離れた位置からは、周りの木々との対比があり過ぎて「大きそう」としか分りませんが、根元にたどり着くと、圧倒される大きさに言葉を失います。カメラではどうしても全様を写せません。

何故、こんな大きさに成ったのか？　いつ発見されたのか？
今後の寿命は？　と気になる事は多々有りますが、それぞれに畏敬の念を感じ、寄り添い、見上げ、目を閉じて、出会えた事とエネルギーに満ち溢れている空間を満喫しました。
大光寺社の横にも巨樹を発見し、見渡せば辺りも立派な杉の木立がありました。

八重桜の咲く小さな公園で、お弁当を食べ、この旅のクライマックスを終えました。帰りの道は別ルートを下り、市役所に到着しました。ゲストの鉄矢先生が面白い感想を寄せてくれました。－－－巨樹を見ると、擬人化して考えてしまう。あの瘤にはどんな切ない事が詰まっているのか、新しく枝を延ばす姿は競い合っているようだとか…、それらから一本の樹の過去・現在・そして未来をも読み取ろうとしている。実は、名画と言われる絵はそうした‘時間’をキャンバスに描いているのです。－－－と。

中山さんからは、星野道夫さんのメッセージがレジュメになって紹介されました。

－－－日々の暮らしに追われている時、もうひとつの別の時間が流れている。それを悠久の自然と言っても良いだろう。このことを知ることができたならば、いや想像でも心の片隅に意識することができたなら、それは生きてゆくうえでひとつの力になるような気がするのだ。－－－

心の中に感じるものを抱えて、樹への旅は終了しました。

さて、５回にわたっての「ハーフデイトリップ」でしたが、ご受講いただいた皆さん、有難うございました。半日の旅でも私達の周りには、時空や距離を越えて、想像力を掻き立てる素晴らしい素材がたくさん有ります。また、楽しい旅にご一緒でき

る日を楽しみにしています。

コメント

丸

本当に気持ちのイイ日でした。

すばらしい樹と出会えました！次は秋に会いにいこうー

2008・07・09（水）

公開フォーラム　山村レイコさん『自然回帰型生活びとのゆったり暮らし』報告

2008年度のライフスタイルデザインカレッジのオープニングとして、6/14に自らを”自然回帰型生活びと、エッセイスト、農民”と称される山村レイコさんによる講演が行われた。

ＮＰＯスローライフとしては初めて山村レイコさんと交流することになるが、当ＮＰＯの佐藤理事は以前から山村さんと親交があり、佐藤理事いわく、このライフスタイルデザインカレッジの原点は山村レイコさんあるという紹介から始まった。

山村レイコさんは講演の中で、パリダカールラリーしていたころは、砂漠を走ることで自然が読めるし対話が出来るようになり、朝霧高原に住みだした1997年のラリーでは、自然との共生をテーマに走ったらスコンとゴールできた。確かにラリーは肉体的に痛いとか苦しいことがあるがそういうものを超えて嬉しい、自然の中で遊ばせてもらっている。これが私の原点となっていると語られた。
また、現在は、こころの中は今が一番充実しているというかバランスがとれている。そのためには、余計なものを取っちゃって、どう生きることと死に向き合うかが大事、それイコールどう自然と付き合っていくか、より楽しくより笑いながらやっていけるか、そうすれば60歳になってもっといい女になっていると思うとのこと。
まず、なぜ山村さんが自然回帰型になったのか、30台後半まで東京にいたが、体を壊してしまい10個以上の病気になった。そのときにどうしようと考え田舎暮らしをしようと思い13年前に富士山のふもとの朝霧高原に廃屋をつけて住みだした。この場所は今でも生活用水は山水を使っていて、先日は水問題で井戸を掘ろうかということを話したばかりだそうです。東京にいるときは便利が怖くなったとのこと。便利は便利でいいが、なぜ水道はかってにでてくるのか、ありがたさよりもあー出てきた流れていく、それが自分の中で病気になっている原因なのか、もっと原始人みたいに生きるといことに大変になれば体もよくなっていく気がしたとのこと。これが大当たりで、朝霧高原に移り住んでライフラインから自分たちでやらなきゃいけないということで行ったら体がどんどん治っていった。とても不思議だったとのこと。

ただ、今まで無理をしすぎたようで、今年の２月に倒れてしまった。自分の中の自然とも対話をしなきゃいけなかった。そこから今までの人生と今は全然違う生活をしている。それは、やらなくていいことはなにかなと考え、一個すて一個すてること。今までは自分の癖が、片付け好き、掃除しまくり、ごみがあったらすぐ拾うのをやりつづけていた。倒れる瞬間まだ毎日10キロ犬の散歩でゴミ拾いしていた。今は自転車や車で行ったときにゴミ拾うなどにして、自分を変えていくのが今のテーマ、いい人になってきたと実感している。

その他にもいろいろな話しがたくさんあったが、その中の一部を紹介すると以下のような話しをされていた。
今やらなきゃなと思うこと今できること。気持ちの中に大きな種をまくといつの間にか大きく育っていて、だれかが水をそそ手でくれたり、肥料をあたえてくれたり刺激をあたえてくれる。私はやりたいと思ったときにスパーンとやる。やりたい気持ちを爆発してやるというのがいつものパターン、中途半端がだめ、ラリーも同じ、やりたいという気持ちが大事。
地球に遊びにきちゃった山村レイコ、そう考えれば、宇宙の視線で見ればどんな状況でも笑っちゃえる。元気のもとは笑う、どんなときでも笑う、これが山村レイコさんのスタイル。

講演の最後では、当ライフスタイルカレッジについて、山村さんもいろいろなイベントを実施しているが、システム化して継続することがすごく難しい、そういう意味ではライフデザインカレッジが継続的に実施できていることがすごいな、システムにしていることがすごいなと思うし、続けていることの凄さを

みんなに伝えていきたいとコメントして頂いた。

なお、懇親会では、講演では話しきれなかった話しをいろいろと話して頂き、とても楽しい一日でした。
また、山村レイコさんからは、朝霧高原の自宅を含めたスペースをライフデザインカレッジでも是非活用してとの言葉を頂いたので、そのような企画が今後できるかもしれません。お楽しみに。

2008・08・01（金）

第１回セッション"里山の自然観察＆森林インストラクション"報告

第１回セッションを７月26日（土）の午前に森林インストラクターの中山高志さんを講師にお迎え、キウイフルーツカントリーＪＡＰＡＮの里山を会場に行いました。

まず実際に里山に入る前に中山さんからは、里山の現状の話しがありました。その内容は、里山は、近年使われだした言葉であり、その意味としては、『人の営みと共に歩み、移り行く自然』であり、人の生活と一体となった日本の懐かしい風景と自然である。
また、今里山は荒れてしまったとよく言われるが、これは昭和

30年代に起きた燃料革命により、薪、炭から化石燃料に移行したことから起きていて、その急激な変化に対応出来ず多くの自然が衰退しようとしている。人が手を入れることにより保たれてきた自然が人の手が入らないことで存続出来なくなってきているのが現状である。
ただ、それでも里山は魅力あるということで、実際に里山の散策に入っていきました。

実際の散策ではみんなの興味があるものとして、食べられる植物などを中心に話しをしてもらいました。また、松や竹の種類の違いや触るとかぶれる漆などの、実際の植物を見せながら解説をしてもらい大変興味深いものでした。

散策の途中で、ミツバチが巣別れしたのに出会い、木にミツバチが沢山とまっている横を通り抜けるなどスリリングな場面もありましたが、誰も刺されることなく無事でした。

暑い一日でしたが、半日ではもったいない、もっと里山を愉しみたかったと思えるセッションでした。

2008・09・13（土）

第２回セッション"～田圃からお茶碗まで～"報告

第２回セッションを８月２３日(土)の午後に五つ星お米マイスターの長坂潔暁さん（安東米店店主）を講師にお迎えし、里山に欠かせない田んぼとお米についてのワークショプを行いしました。

内容としは、まずお米と炊飯についての講義をして頂き、その後でオーガニックファーミングで田植えをした田んぼに向かい、そこでこの田んぼからどれくらいのお米が収穫できるかを一坪に植えられた稲の株数を調べて算出しました。

後、この場での話しで印象に残ったのが、現在の機械化や特に化学肥料や農薬による消毒により、稲作が始められてからの先人の知恵が全てといっていいほど失われてしまったという言葉でした。

田んぼでの話しが終わった後は、本日のメインのご飯炊きです。
以前のスローライフのイベントでは、土鍋を使ってのご飯炊きを何回か実施したのですが、今回は羽釜で薪を使いました。
お米は、今年獲れた種子島米です。

今回はお米の研ぎをしたものとしないものの二種類で炊き上げました。
ご飯炊きは、『初めチョロチョロ　中パッパ　ブツブツ言ったら火を引いて　最後は藁を一握り　赤子泣いても蓋取るな』だそうです。
一釜目の研ぎをやった方はは上手くたけました。早速みんなが

持ち寄った自慢のご飯の友で頂きました。さて二つ目の研ぎをしなかった釜は・・・実は話しに夢中でちょっと火加減の調整が、たっぷりおこげを作ってしまいました。

田んぼから茶碗までを実感した楽しいワークショップでした

2008・10・25（土）

第3回セッション　～里山の中での空間づくり～報告

第３回セッションを９月２７日(土)に建築家で東京学芸大学准教授の鉄矢悦朗さんを講師にお迎えし、里山の中での空間づくりと題して、枝でドームをつくるワークショツプを行いました。

鉄矢講師のワークショップの冒頭の説明では、本日の行う建築工法はあの北京オリンピックのメイン会場の鳥の巣にも採用された最新工法との説明を受け、どれほど難しいことをやるのだろうと思ったところ、とにかく枝３本を麻紐で縛って三角形の面を作りそれを積み重ねて行くことで、立体構造をつくるというのです。
説明ではやはりよくはわからないので、とにかく作ってみようということで、２グループに分かれてドーム作成開始です。まずは、ドームを作る場所が大切ということで、森の中を歩き、見晴らしや地面の傾斜、立ち木の位置など考えて場所を設定しました。
また、ここで鉄矢講師からは、三画の面を下から積み上げていくだけだと、手の届く範囲までの高さのものしか作れないので、立ち木を使ってのリフトアップ工法の説明を受けました。これは、まず屋根の部分を作り、それを立ち木とロープを使って吊り上げ、吊り上げている状態で屋根の下を継ぎ足していくといものです。

実際の作業になると、昔し子供のころの秘密基地づくりを思い出してみんなが自分の作業に没頭してひたすらドームを作っていましした。
おもったより大きなドームができ、参加者みんな大満足!!

完成した枝のドームのある場所は、キウイフルーツカントリーＪＡＰＡＮの冒険の森のターザンロープのところです。是非一度見て触れて下さい。

コメント

てつや

なかなか導入時の説明が上手く伝わっていなかった、三角形の構造。伝える技術を磨くべく精進いたします。

でも、たのしい、ものづくりができましたね。

参加者の工夫力をどんどんと発揮することに、感動しました。

2009・04・04（土）

フェスティバルは大盛況

遅くなりましたが、フェスティバルの報告です！３月２１日（土）春の陽射しの中、『スプリングフェスティバル』が行われました。 カレッジ受講生や講師、ＮＰＯ会員・ご家族・一般の方など、およそ１２０名が、「キウイフルーツ・カントリー」に集い、「スローライフ万歳！」とばかりに、大いに盛り上がりました。 "カレッジ校長の平野さんの挨拶ではじまり、講師でもあり用心棒・浜野さんより乾杯のご発声！！そして、石山フェスティバル実行委員の登場には、ＭＣ二人のピンクレディー再来とか思いきや、コンコルド・ダンス（パチンコＣＭの再現）で盛り上げます！

さて、各プログラムの受講生が、チームになって興すエンターテイメントは・・・

・ダッチオーブン：デモストクッキング。ふっくらしたハンバーグ美味しそう！

・サイクリング：サイクリング発電でＢＧＭ。流れる音楽は”一休さん”

・フライフィッシン：恒例のキャスティングコンテスト。これ

がけっこうムズカシイ。
・Ｎｉｐｐｏｎ学：旨い地酒を集めた「日本酒蔵蓄場ぁ（うんちくバー）」、 日本酒の美味しさに、みんなが酔いました。
・ハーフデイトリップ：トラクターの荷台でハーフアワートリップ。大人も子供気分に戻り楽しそう。
・ネーチャーフォト：フェスティバルの様子を撮り、その場のＰＣで発表する　「リアルタイムネーチャー画廊」
・オーガニックファーミング：、昨年田植えからから始めた餅米で餅つき。
・カヤッキング：上野講師によるネイチャーゲームで遊びます！
・茶器と器学：今年度講座の様子のアルバムと受講生達が作った器の展示。
・トレッキング：トレッキングファッションでの来場。
と、ステージや園内を広く使った企画が各場所で行なわれました。

Spring Festival

掛川ドラムサークルの遠山さんは、種類多数のドラムをご持参してもらっての参加。２回の演奏には、沢山の人が参加してドラムを楽しみました。

気になるスローフードは、色々の方達のご協力をいただきまし

た！
・いろんなイベントにひっぱりだこの「掛川そば研究会」。美味しい手打ち蕎麦を提供してくれました。
・今回のランチボックスは、農業にまで参入した拘りの惣菜やさんが、フェスティバル用に献立たもの。会場の隅で社長と専務が、エプロンを掛けてトン汁を作ってくれました。
・デザートは、やっぱり食べたい「キウイフルーツ・カントリー」のキウイ。
その他にも成果発表として、沢庵漬け、茹でジャガイモ、極上甘酒などが振舞われました。

他には、
受講生コウタくん特製の抹茶かけショコラケーキや、フライコーチ達橋さんの絶品鱒の燻製の差入れ。野口講師より、きんかんとキムチのお土産。などなど、みなさんありがとうございます！

講師やゲスト・受講生・家族・スタッフが遊びの感覚を取り戻し、馬鹿になって騒いだのでした。

日本酒醸造場

ライフスタイルデザインカレッジ208
著　者：NPO法人スローライフ掛川
発行日：2009年07月02日

発行所：Obunest
©2006 EAST Co., Ltd./Obun Printing Company, Inc.
運　営：イースト株式会社
http://www.est.co.jp/
PDF変換：欧文印刷株式会社
印刷・製本：欧文印刷株式会社
http://www.obun.jp/

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが下記のアドレスにご連絡ください。
mybooks_info@est.co.jp

200907020101-003-000000

200907020101-003-000000

背表紙は左のようになります。
半角英数字を使用している場合は半角英数字だけ90度回転した状態になります。
なお製本サービスをご利用の場合、総ページ数が一定のページ数（モノクロは121ページ、カラーは141ページ）に達しない場合は背表紙に文字は入りません。
ご承知おきください。

ライフスタイルデザインカレッジ208

NPO法人スローライフ掛川

英数字が90度回転しないようにするには....

お申し込み画面の「書籍のタイトル」と「著者名」を入力するときに全角文字で入力してください。

＜英数字を半角で入力した場合＞

子育て日記 VOL. 2

▼

子育て日記 VOL. 2

＜英数字を全角で入力した場合＞

子育て日記 ＶＯＬ．２

▼

子育て日記 ＶＯＬ．２